

平成25年度入学生用

履 修 要 項

(*syllabus*)

生活科学科

生活科学専攻
生活福祉専攻
食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

《 目 次 》

学修の手引き ----- P1 ~ P4

平成25年度入学生 教育課程 ----- P5 ~ P15

[一般教養科目] (共通) ----- P16 ~ P49

生活科学専攻 [専 門 科 目]

1年次用(平成25年度) ----- P50 ~ P76

2年次用(平成26年度) ----- P77 ~ P108

生活福祉専攻 [専 門 科 目]

1年次用(平成25年度) ----- P110 ~ P135

2年次用(平成26年度) ----- P136 ~ P158

食物栄養学専攻 [専 門 科 目]

1年次用(平成25年度) ----- P160 ~ P188

2年次用(平成26年度) ----- P189 ~ P220

《 卷 末 》

※「履修科目・修得単位記入一覧表」

[注 記]

※平成26年度(2年次)の履修科目について、
一部「担当者・履修内容等」の変更があります。
なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

1
年
前
期

1
年
後
期

2
年
前
期

2
年
後
期

修
得
単
位
記
入
表

学 修 の 手 引

この冊子は、本学での学修の手引きとして作成したものです。

はじめに、生活科学科、生活科学専攻・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の教育課程を掲載しました。これは平成25年度入学生の皆さんに対して開設される授業科目を示したものです。

つぎは、講義要項で、教育課程に示された各授業科目について、担当教員が授業の概要・授業の項目等を解説したものです。受講に際して大いに活用してください。

1. 履修計画および単位修得

大学における履修計画および単位修得は、皆さん一人ひとりの問題であり、自分自身の責任においてなされるべきものです。したがって、自ら本学を志した初心に立ち、もう一度将来の進路を見極め、その目標に沿って確実な履修計画を立てて単位を修得していくよう努めなければなりません。

履修上の疑問点については、学級指導教員(ホーム担任)の指導・助言をしっかり受け、また教務課に問い合わせるなどして、問題を残さないようにしてください。卒業の時期になって単位不足や単位の取り違いなどにより、卒業あるいは、めざす免許・資格の取得ができないなどのことがおこらないよう十分注意してほしいと思います。

2. 教育課程と履修

本学における教育課程には、まず、一般教養科目の他に、専攻ごとに専門科目がおかれています。その中に卒業要件としての課程のほかに、免許・資格を取得するために必要な課程が体系的に編成されています。以下、教育課程のことについて説明します。

(1) 授業科目の **区分** について

- ① 一般教養科目
- ② 専門科目
- ③ 教職科目
- ④ 医療秘書実務士関係科目(生活科学専攻)
- ⑤ 第一種衛生管理者免許関係科目(生活科学専攻)
- ⑥ レクリエーション・インストラクター養成科目(生活福祉専攻)
- ⑦ 介護福祉士養成科目(生活福祉専攻)
- ⑧ フードスペシャリスト養成科目(食物栄養学専攻)
- ⑨ 栄養士養成科目(食物栄養学専攻)
- ⑩ ピアヘルパー認定試験受験資格必修科目(専攻によって異なる)

(2) 授業科目の **履修方法** について

大学の授業は、講義・演習・実験・実習・実技など、その形態はさまざまですが、学生の主体的、積極的参加により、教員と学生が一体となって学問に取り組む場です。そのような授業への参加によって、高度な知識・技能を修得し、あわせて学問的研究のあり方についても十分身につけるようにしてもらいたいと思います。

(3) 授業科目の **単位数** について

大学の授業科目には、それぞれ単位数が定められています。これは、授業の形態と授業時間数に応じて決められているものです。したがって、皆さんは授業科目を履修して単位を修得

し、その単位数で課程の終了が認定されることとなります。そこで、開講されている授業科目の中から、所要の科目を履修し、それらの単位を修得して、卒業や免許・資格の取得に必要な要件を充足しなければなりません。

(4) 授業科目の **必修・選択** の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

- ① 必修科目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ③ 選択科目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

(5) 授業科目の **開講学期** について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまり当該授業科目が開講される学期は、その授業科目の単位数が記入されているところとなります。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

(6) **履修届** について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な科目とその単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

(1) 卒業の要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各専攻ともに **62単位以上を修得した者**を卒業と認めることになっています。

卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

専攻	一般教養科目			専門科目		一般教養科目 又は専門科目 の中から	計
	必修	選択必修	選択	必修	選択		
生活科学専攻	2	4	8	16	30	2	62
生活福祉専攻	2	4	8	46		2	62
食物栄養学専攻	2	4	8	23	23	2	62

卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、14単位以上を修得すること。

- 必修科目 … 「キャリアガイダンス」を2単位修得すること。
- 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれかの同じ科目のⅠ・Ⅱを4単位修得すること。
- 選択科目 … 上記以外の一般教養科目の中から、8単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。

この場合、各専攻によって必修科目・選択科目が決められているので十分配慮すること。

ウ. アとイで60単位になります。残りの2単位は、一般教養科目又は、専門科目の中から2単位以上を修得すること。

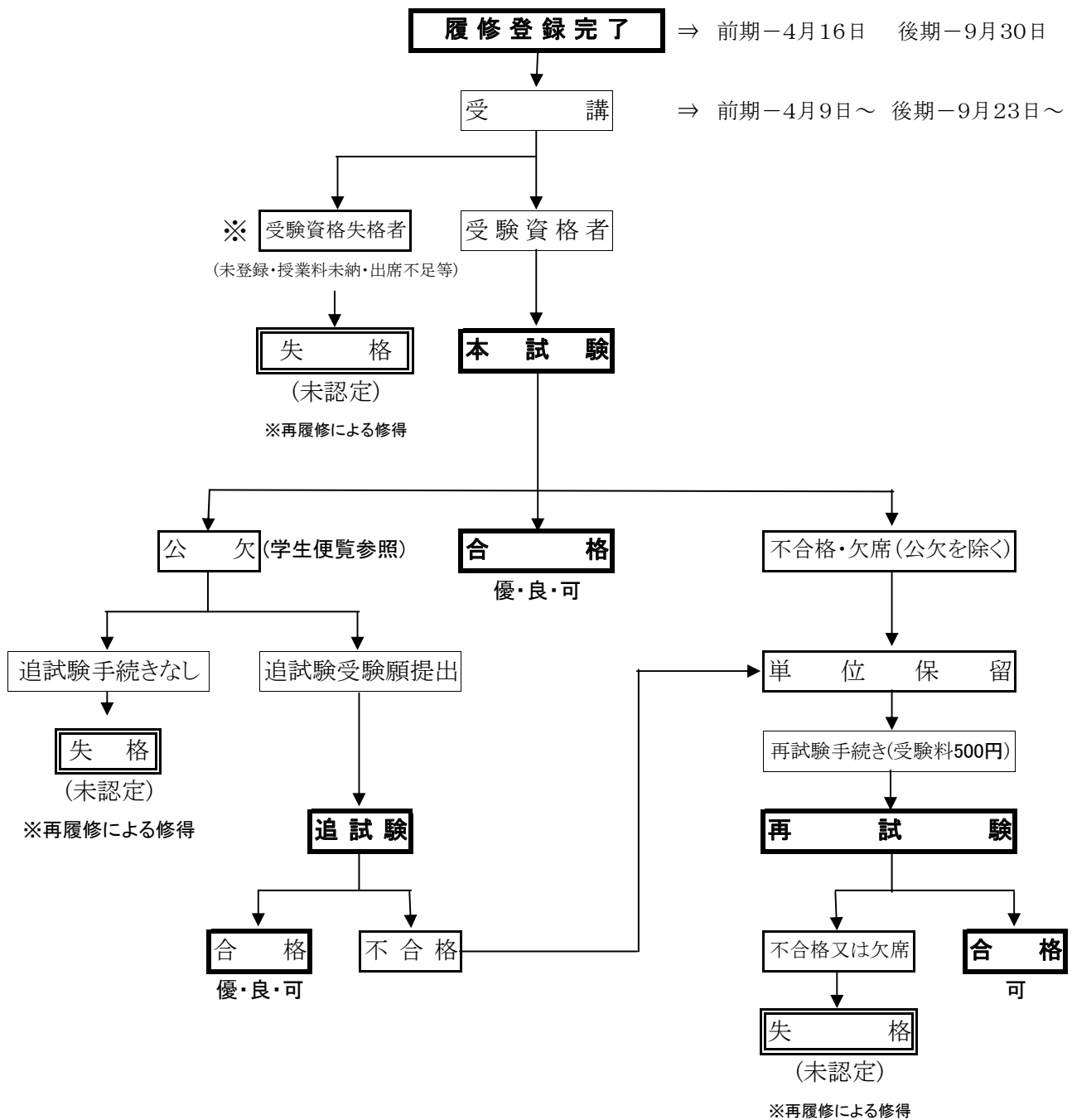
なお、「免許・資格関連科目」は、「専門科目」に含まれるものを除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

(2) 免許または資格

生活科学科・各専攻において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

学 科	専 攻	取得できる免許状・資格
生活科学科	生活科学専攻	養護教諭二種免許状 中学校教諭二種免許状(保健) 医療秘書実務士認定証 第一種衛生管理者免許 ピアヘルパー受験資格
	生活福祉専攻	介護福祉士登録証 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格
	食物栄養学専攻	栄養士免許証 栄養教諭二種免許状 フードスペシャリスト受験資格 日本茶アドバイザー受験資格 ピアヘルパー受験資格

「履修登録」から「単位認定」までの流れ



I. 「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「成績発表用学生番号」によって
掲示します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

II. 「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「成績発表用学生番号」によって掲示します。

※ 「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

一般教養科目

生活科学専攻

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

科目番号	1	授業科目	日本語表現の基礎 (Fundamentals of Japanese Expressions)			担当者	瀬戸口 修
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 最近、指摘される、文章表現力の欠如を打開するため、日本語の表現(書くこと・話すこと)について、表現力(就中、書く力)を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることを、めざす。						
	2. 授業の内容 原稿用紙のつかい方や文字・表記法・用語などについて、具体的に、学習する。さらに、課題作文を中心に、材料集め、文のつづけ方、文章構成、推敲など、文章表現の基本的事項を学び、それを実践する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 自己紹介(話す・書く)						
	② 原稿用紙のつかい方の演練……定着・実践						
	③ 文字(字形、楷書、鉛筆書き、五十音図、いろは歌)について						
	④ 表記法(文体→常体＝デアル・ダ・タ体。ひらがな書きなど)について						
	⑤ 課題作文の提示……① レベル I						
	⑥ 一文の長さ・簡潔さの模範→奨励→実践						
	⑦ 話しことばと書きことばの差異の具体的理解(演練) → 課題作文に活かす。						
	⑧ 課題作文の提示……② レベル II						
	⑨ 文のつづけ方(＝接続のしかた) の理解→演練→実践						
	⑩ 課題作文のチェックとフィードバック						
	⑪ 課題作文の提示……③ レベル III						
	⑫ 段落設定とその工夫……文章構成の理解→実践						
	⑬ 一語作文・一文作文の理解・演練→実践						
	⑭ 文章の推敲について……演練						
⑮ 課題作文の提示……④ (最終作文) レベル IV							
成績評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)						
参考文献等	テキスト：米田明美 藏中さやか 山上登志美 著 『大学生のための日本語表現 実践ノート』 風間書房						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	2	授業科目	倫理学 (Ethics)			担当者	村若 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 ①具体的な生命倫理の問題を考えることにより、倫理的な思考を身につける。 ②「生命倫理学」という学問分野の基礎を理解する。 ③身近な生命倫理の問題を正確に認識する。 ④生命倫理の問題について、論理的かつ共感的に、自分の考えを自分のことばで表現する。						
	2. 授業の内容 「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について考える学問です。道徳とか倫理とかいうものは、実はすでに皆さんがすでに身につけているものです。倫理学は、その身につけているものを反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題について考えていきます。まずアメリカ流の「生命倫理」の成立史や基本思想を明らかにし、その後、主として医療倫理の諸問題にテーマを絞って解説します。さまざまなテーマについて、ビデオなどを用いて身近な問題として関心を持ってもらい、さまざまな角度から考えるためのヒントを与えます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 倫理学と「生命倫理」						
	② 生命倫理の成立(1)患者の権利						
	③ 生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史						
	④ 生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則						
	⑤ 尊厳死(1)						
	⑥ 尊厳死(2)						
	⑦ 安楽死(1)						
	⑧ 安楽死(2)						
	⑨ 人工妊娠中絶						
	⑩ 不妊治療技術の利用(1)						
	⑪ 不妊治療技術の利用(2)						
	⑫ 出生前診断(1)						
	⑬ 出生前診断(2)						
	⑭ 脳死と臓器移植(1)						
⑮ 脳死と臓器移植(2)							
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 提出物(感想文等)(20点)						
参考文献等	テキスト:中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂 使用視聴覚機器:VHSビデオデッキ、DVDプレーヤー						
備考							
	オフィスアワー	火曜日					

科目番号	3-①	授業科目	文学 (Literature)			担当者	瀬戸口 修
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 日本文学の代表的古典である『万葉集』をとりたてて、テーマ別に解説を加え、具体的な和歌の鑑賞を通して、古代人(=万葉人)のものの考え・とらえ方を理解する。さらに、現代人との差異を、考察する。						
	2. 授業の内容 『万葉集』について、以下のテーマ毎に、具体的に、詳しく見ていく。それぞれの和歌を中心に鑑賞し、理解を深める。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 『万葉集』の概説・名義の由来						
	② 万葉の自然Ⅰ・花・もみじ・花鳥						
	③ 万葉の自然Ⅱ・動物						
	④ 万葉の結婚						
	⑤ 万葉の夫婦						
	⑥ 万葉の親子						
	⑦ 万葉の兄弟						
	⑧ 万葉の友						
	⑨ 万葉の旅						
	⑩ 万葉の社会生活						
	⑪ 万葉の恋Ⅰ						
	⑫ 万葉の恋Ⅱ						
	⑬ 万葉の恋Ⅲ						
	⑭ 万葉の恋Ⅳ						
⑮ 総まとめ:プレ試験							
成績評価	各種レポート(20%)と筆記試験(80%)						
参考文献等	テキスト：中西進著『万葉集全訳原文付(vol.1～4巻)講談社文庫 参考文献：斎藤茂吉著『萬葉秀歌(上・下巻)岩波新書						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	3-②	授業科目	文学 (Literature)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 文学作品の深い理解のためには、歴史的背景の理解が不可欠である。そこでこの講義では、代表的なイギリス文学の作家・作品を、イギリスの歴史をたどる形で学習する。それによって英文学史のおおまかな流れを把握しながら、各時代の文学作品について理解を深めることを目標とする。						
	2. 授業の内容 イギリスの歴史をたどりながら、各時代を代表する作家、作品を紹介する。またこの講義では文学というものを広義にとらえ、ポピュラーミュージック等にも言及する。講義では作品の原文をはじめ、映画等を用いて作家の人生、作品のあらすじをたどる。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	7～15世紀：イギリス文学の黎明期					
	②	16世紀：英国国教会の成立					
	③	ウィリアム・シェイクスピアとエリザベス朝演劇の流行					
	④	シェイクスピア『ハムレット』鑑賞					
	⑤	『ハムレット』に見られる女性の姿					
	⑥	17世紀：清教徒革命から王政復古へ					
	⑦	ジョン・ミルトン『失樂園』					
	⑧	18世紀：名誉革命とイギリス小説の誕生					
	⑨	ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』					
	⑩	19世紀：産業革命の時代とロマン派詩人					
	⑪	チャールズ・ディケンズと産業革命の影					
	⑫	ディケンズ『クリスマス・カロール』鑑賞					
	⑬	20世紀前半：世界大戦の時代					
	⑭	T. S. エリオットとA. A. ミルン					
⑮	20世紀後半：ヴェトナム戦争とロックンロールの隆盛						
成績評価	授業参加・毎回の感想カード(60%)、小テスト・レポート(授業時、学期末、計40%)による総合評価。						
参考文献等	必要に応じて適宜配布する。						
備考							
	オフィスアワー	研究室(西309)在室時は随時					

科目番号	4	授業科目	心理学 (Psychology)			担当者	園田 美保
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この講義の第一の目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つけて欲しい。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。						
	2. 授業の内容 心理学の主な分野を網羅し、紹介する。講義形式であるが、受講者はそれぞれ自分自身の日常生活や身近な他者を想定して、内容の理解を行い、各回のレポートで記述する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション (講義形式、授業計画、心理学イントロ「心理学とは?」)						
	② 心理学の歴史と方法 (心理学成立、影響力の強い考え方三者三様、心理学の方法論と私たちが人間を見るまなざし)						
	③ 動機づけ (各種動機づけ説、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法)						
	④ 情動 (情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害)						
	⑤ 認知 (私たちは環境をどのように知るのか? 感覚、知覚、認知の特性)						
	⑥ 学習 (人間の行動が作られるしくみとは? 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習)						
	⑦ 中間振り返り < 普段の「わたし」の行動を、これまでの心理学で解説してみる >						
	⑧ 知能 (知能の構造、知能の発達、遺伝か環境か?、今からできる創造性を発揮する思考法)						
	⑨ パーソナリティ (人の特徴の捉え方: 類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法)						
	⑩ 適応 (人間を環境との関わりで考えてみると? 不適応反応、ストレス、防衛機制)						
	⑪ 社会と人間1 (集団とは、集団から個人への影響)						
	⑫ 社会と人間2 (個人や少数者が集団に与える影響: 少数意見が通る時/リーダーシップ論)						
	⑬ 臨床の心理学1 (心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解)						
	⑭ 臨床の心理学2 (心理療法のアプローチ四者四様; 精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法)						
⑮ 総括・補足・全体ふり返り							
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度 (65%)・中間レポート (10%)・最終レポート (25%)						
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材: プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト						
備考							
	オフィスアワー	金曜日以外で随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	5	授業科目	社会学 (Introduction of Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 ・人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける。 ・自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつけて考えることができる想像力を身につける。 ・人びとの間に(社会的に)共有される意味や形式の可変性・多様性の理解を深める。						
	2. 授業の内容 自分の視点から離れて世の中を見ることや想像力を働かせることを意識しながら、日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を振り返ることを通して、日常生活や社会の仕組みを解説していく。順序としては、まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に、身近な人間関係の間で繰り返される行為の分析をし、その後、扱う題材の範囲を広げ、社会の大きな変化と個々人の行為の関係についてみていくことにする。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 社会学とは						
	② 意味と相互主観性						
	③ アイデンティティ(1) 自分探し						
	④ アイデンティティ(2) アイデンティティと社会との関わり						
	⑤ アイデンティティ(3) 自分探しと現代社会						
	⑥ 正常と異常(1) 正常と異常の境界						
	⑦ 正常と異常(2) レッテルを貼る／貼られること						
	⑧ 正常と異常(3) 水俣病に学ぶこと						
	⑨ 予言の自己成就(1) イメージと現実						
	⑩ 予言の自己成就(2) 意図せざる結果						
	⑪ 共同体(1) 家族の現実						
	⑫ 共同体(2) 地域社会の変容						
	⑬ 共同体(3) 新たな関係性						
	⑭ 国家と市民社会(1) 国家とは何か						
⑮ 国家と市民社会(2) 国家と市場と市民 授業のまとめ							
成績評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 友枝敏雄ほか編『社会学のエッセンス[新版]』有斐閣 2007年 参考文献 フロム, E. 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社 1951年 アリエス, P. 杉山光信・杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生』みすず書房 1980年 ほか 一部視聴覚機器(DVD)使用						
備考							
	オフィスアワー	月・火・金曜日 随時(研究室)					

科目番号	6	授業科目	国際化と経済 (Internationalization & Economics)			担当者	大重 康雄
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解でき、グローバル化の進む地域経済で何が今問題で、どう自分は行動すべきか主体的に判断できるレベルを目指す。						
	2. 授業の内容 ・産業と経済・金融の基本的なしくみを学ぶ。 ・国際経済の現状を学ぶ ・国際社会の現状を理解し日本・地域経済の課題について考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について						
	② GDPで考える物価と経済成長						
	③ 金融のしくみと経済						
	④ 貿易取引と決済のしくみ						
	⑤ 国際通貨制度の現状と問題点						
	⑥ 企業のグローバル化(多国籍化の現状)						
	⑦ 地域経済統合(FTA/EPA)の歩み						
	⑧ グローバル・イシュー I (開発と貧困)						
	⑨ グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)						
	⑩ 各国・地域事情ーグローバル化と日本						
	⑪ 各国・地域事情ーアジア・ASEAN						
	⑫ 各国・地域事情ーアメリカ						
	⑬ 各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア						
	⑭ 鹿児島県経済とグローバル化						
⑮ 講義のまとめ							
成績評価	・学期末に実施する筆記試験(90分で実施)の成績及び、授業への取組姿勢等によって評価する。 (授業での発言・取組姿勢10%・定期試験90%)						
参考文献等	○テキスト・・・「私たちの国際経済ー見つめよう、考えよう、世界のこと」 東京経済大学国際経済グループ 著 有斐閣ブックス ○参考文献・・・「グローバルエコノミー」 岩本武和ほか著 有斐閣アルマ ※ 講師作成レジュメ(毎回配布予定)						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	7	授業科目	日本国憲法 (Constitution of Japan)			担当者	池田 哲之
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 本講義は、近・現代憲法典の特質を憲法史的観点から明らかにすることを第一の目標に置くが、あわせて現行日本国憲法の制定過程を考察の対象に加えることにより、憲法改正論議の動向をも踏まえ、戦後わが国社会において現行憲法が果たしてきた役割について見極める。その際は、「生活者にとっての憲法」という視点をとくに重視してゆくものとする。						
	2. 授業の内容 憲法典の歴史を、ヨーロッパ封建社会にまで辿りながら、近・現代憲法典生成の背景を解説する。さらに、両憲法典の特徴的人権を具体的に取り上げ、それら人権が人々の日々の暮らしにどのような変化を及ぼすことになったのかを浮き彫りにしてゆく。そのうえで、現行日本国憲法改正論議の動向をも紹介し、あるべき日本国憲法の姿を学生諸君とともに考えてゆきたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① わたし達の生活と憲法ーもし、憲法がなかったらー						
	② 憲法の誕生ーヨーロッパ社会を例としてー						
	③ 近代憲法典の特質						
	④ 現代憲法典の特質						
	⑤ 日本国憲法の特徴ー明治憲法との対比からー						
	⑥ 敗戦と米国の占領政策						
	⑦ 日本国憲法の制定過程						
	⑧ 伝統日本文化と日本国憲法						
	⑨ 日本国憲法の人権規定Ⅰー自由権ー						
	⑩ 日本国憲法の人権規定Ⅱー社会権ー						
	⑪ 自由権制約の理論ー公共の福祉概念ー						
	⑫ わが国の統治構造Ⅰー国会ー						
	⑬ わが国の統治構造Ⅱー裁判所・内閣ー						
	⑭ これからの国民・国家像と憲法改正						
⑮ まとめ							
成績評価	定期試験(60分)分に85点、平常点(受講姿勢・態度等)分に15点を配点し、その合算で評価する。受講態度のかんばしくない者は、注意の程度・回数により減点する。						
参考文献等	教員作成のレジユメを、ほぼ毎時配布する。 テキストについては、講義時に指示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(金曜日は対応できません)。					

科目番号	8	授業科目	歴史学 (History)			担当者	松崎 康弘
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 民俗学や地理学など他学問との連携も視野に入れながら、歴史学が何を目的とし、どのような方法で研究がなされているかを理解する。「森羅万象学べぬものなし」という研究の精神に基づき、身近な題材から歴史的に考察しようとする意識や態度を養う。						
	2. 授業の内容 地名や人生儀礼といった生活の中で密接なかかわりをもつもの、また、お化けという興味関心が高いものを題材に、歴史研究の在り方について考察する。さらに、歴史学の研究成果が現在、そして未来の自分や社会にどのようにつながっていくかを考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① インTRODakShION						
	② 地名と歴史研究(1) —難読地名の研究—						
	③ 地名と歴史研究(2) —鹿児島・南九州・沖縄の地名研究—						
	④ 地名と歴史研究(3) —地名研究の意義—						
	⑤ 歌をとおしての地域性研究						
	⑥ お化けの研究(1) —「怪談」を研究する視点—						
	⑦ お化けの研究(2) —お化けの不易と流行—						
	⑧ お化けの研究(3) —柳田國男の研究と町おこし—						
	⑨ お化けの研究(4) —お化け研究の意義—						
	⑩ 人生儀礼の研究(1) —死の文化と歴史—						
	⑪ 人生儀礼の研究(2) —恋愛と結婚の歴史的研究—						
	⑫ 人生儀礼の研究(3) —祭り・芸能の研究—						
	⑬ 人生儀礼の研究(4) —人生儀礼研究の意義—						
	⑭ 食文化の歴史						
⑮ 鹿児島近代史							
成績評価	筆記試験(60分で実施)にて評価する。(100%)						
参考文献等	○参考文献は講義中に適宜指示する。 ○ビデオ(DVD)を使用する場合がある						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	9	授業科目	「IWE LOVE 鹿児島！」 (Seminar for Local Identity Education)			担当者	高島 まり子他	
			開講学期	学科・コース	履修方法			単位数
区分	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 受講者の皆さんを鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」を「生きる力」とする「地域活性化の担い手」に育てる取組です。地域に逞しく根を張り、卒業後は職場で鹿児島の過去と現在ばかりでなく未来をも語り、活性化に寄与することのできる人材となるよう支援します。							
	2. 授業の内容 講義と体験型授業を組み合わせ、食文化、文学、自然と環境、歴史、方言、暮らし、防災などのさまざまな分野の専門家から鹿児島について学ぶオムニバス型授業です。これらの学習を通じて自分が関心を持ったことを自主的に調べてプレゼンテーションを行い、地域を活性化するための基盤とします。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	オリエンテーション					(瀬戸・新村・高島)	
	②	講義1					(古川・竹中)	
	③	講義2					(井上・倉重)	
	④	講義3					(池田・宇都)	
	⑤	プレゼンテーション指導					(瀬戸・新村・高島)	
	⑥	講義4					(横峯・瀬戸口)	
	⑦	講義5					(原口・大木)	
	⑧	体験型授業					(坪井・松下・大重)	
	⑨	体験型授業					(原口・高島・瀬戸)	
	⑩	講義6					(久永・児玉)	
	⑪	講義7					(千葉・田村)	
	⑫	講義8					(大重・村若)	
	⑬	体験型授業					(小松・福司山・池田)	
	⑭	体験型授業					(日本赤十字鹿児島支社職員・ボランティア)	
⑮	プレゼンテーション指導					(瀬戸・新村・高島)		
成績評価	学期末の最終レポート(75%), 受講態度と提出物(25%)							
参考文献等	*教材:プリント配布、視聴覚教材 *視聴覚機器(PC・プロジェクター・スクリーン)使用							
備考	*諸般の事情により、講義と体験型授業の日程が変更になる可能性がある。							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)						

科目番号	10	授業科目	インターンシップ ("Internship" in Companies)			担当者	大重 康雄	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を垣間見る機会を与え、これまで得てきた理論や技術が社会といかなる関連をもっているかを、体験を通して考えさせることである。 ① 社会体験を大学での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立てる。 ② 職業に関する興味、関心、適性が、どこにあるかを自ら考える機会とする。 ③ 実社会の厳しさを体験することによって、社会人となる自覚を持ち、自己啓発に努める。							
	2. 授業の内容 ・事前研修として、研修先企業団体研究、研修内容説明、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導が、本学 教員と2～3名の学外講師陣によって行われる。 ・学内での研修を終えた後、主に夏季休業中に1～2週間(受入れ先により期間は異なる)のインターンシップ が実施され、事後研修として日誌やレポートの提出および研修報告発表会を実施。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	ガイダンス・インターンシップとは何か					(大重)	
	②	研修先企業概要・エントリーシート登録方法説明					(大重)	
	③	エントリーシート・自己PRの書き方					(大重)	
	④	一次マッチング説明・仕事の基本的心得					(大重)	
	⑤	外部講師講演(1)					(外部講師)	
	⑥	研修企業の研修内容説明					(大重)	
	⑦	来客対応の基本・二次マッチング参加登録					(大重)	
	⑧	職場の人間関係・二次マッチング調整					(大重)	
	⑨	職場のマナー研修					(学内講師)	
	⑩	企業のしくみとコンプライアンス					(大重)	
	⑪	研修企業の業界研究					(大重)	
	⑫	外部講師講演(2)					(外部講師)	
	⑬	本学講師指導:お礼状の書き方					(学内講師)	
	⑭	研修日誌・研修のレポート提出					(大重)	
⑮	インターンシップ参加報告発表会					(大重)		
	※講義終了後 企業団体へのインターンシップ参加(実習)							
成績評価	・研修報告書、研修日誌、研修総括レポート、事前・事後研修(指導)等で総合的に評価する。 ・受講態度(20%) レポート等提出状況(30%) 参加報告プレゼンテーション内容(50%)							
参考文献等	○講義の都度紹介する							
備考								
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡						

科目番号	11-①	授業科目	キャリアガイダンス (I) (Career Guidance I)			担当者	一年指導教員
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	生活科学 全専攻	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 有意義な短大生活を過ごすために、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考えさせる。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って、自らのライフデザインを考えるための基礎的な情報が得られるようにする。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	キャリアデザインの基礎理解					
	②	短大生活の送り方					
	③	働く意味と職業観					
	④	多彩な職種や業種と適職					
	⑤	キャリアガイダンス					
	⑥	キャリアガイダンス					
	⑦	組織の仕組みと自分の立場					
	⑧	キャリアデザインの構築					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度(60点) レポート等の提出状況(40点)						
参考文献等	(※ 必要に応じ、適宜紹介する。)						
備考							
	オフィスアワー	随時					

科目番号	11-②	授業科目	キャリアガイダンス (Ⅱ) (Career Guidance II)			担当者	二年指導教員
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前後期	生活科学 全専攻	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1年次のキャリアガイダンスを基に、働くことの社会的及び個人的な意義を考えさせる。また、それを通して、自分のあり方を考えさせる。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って、キャリアデザインを考えるための基礎的な情報が得られるようにするとともに、それを遂行するための実践的な方法を知る。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 到達目標の設定と自己啓発						
	② キャリアデザインの構築						
	③ キャリアガイダンス						
	④ 職場の基本ルール						
	⑤ キャリアデザインに応じた働き方の理解						
	⑥ キャリアガイダンス						
	⑦ キャリアガイダンス						
	⑧ キャリアデザインの将来設計と仕事の取り組み方						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度(60点) レポート等の提出状況(40点)						
参考文献等	(※ 必要に応じ、適宜紹介する。)						
備考							
	オフィスアワー	随時					

科目番号	12-①	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	高島 まり子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 基本的な英語表現を習得しながら、既習の英文法を復習する。基礎を固めることによって、高校までの多様な受講形態による能力差を調整し、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 授業の内容 各トピックについて、解説と練習問題によって着実に文法力を身につけていく。また、「話す・書く・読む・聴く」を総合的に訓練することで自信をつける。また適宜、歌や指遊び、ビデオ等を活用して楽しく学ぶ。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	<1>文の要素					
	②	同					
	③	<2>基本5文型					
	④	同					
	⑤	<3>第1文型、be動詞、一般動詞					
	⑥	同					
	⑦	<4>動詞の種類					
	⑧	同					
	⑨	<5>第2文型、名詞(1)					
	⑩	同					
	⑪	<6>名詞(2)					
	⑫	同					
	⑬	<7>第3文型、代名詞(1)					
	⑭	同					
⑮	<8>代名詞(2)						
成績評価	受講態度(20%)、提出物(20%)、期末試験(60%)等の総合評価						
参考文献等	○ <i>Make It Clear</i> 「基本文型から学ぶ大学英語」 田中 保・日高 正司・三幣 友行・國府方麗夏 編著、朝日出版社、2012年。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)					

科目番号	12-②	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。						
	2. 授業の内容 基礎的な文法事項を理解しつつ、リスニング、ライティングなどを総合的に学習することで、英語を実際に使用するための基礎を築く。この授業では、テキストで文法事項、リスニング、ライティングの基本を学習をするのに加え、英訳された日本のマンガをリーディングマテリアルとして用い、英語の総合的な理解を目指す。						
授 業 計 画 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション(授業説明、テキスト・マンガの紹介、文法導入)					
	②	Unit 1 be動詞(現在形)					
	③	Unit 2 一般動詞(現在形)					
	④	Unit 3 be動詞(過去形)					
	⑤	Unit 4 一般動詞(過去形、規則変化)					
	⑥	Unit 5 一般動詞(過去形、不規則変化)					
	⑦	Unit 6 命令文、There is[are]～、itの特別用法					
	⑧	Unit 7 注意すべき疑問文					
	⑨	Unit 8 進行形					
	⑩	Unit 9 未来形					
	⑪	Unit 10 助動詞(1)					
	⑫	Unit 11 助動詞(2)					
	⑬	Unit 12 名詞・冠詞 基本事項					
	⑭	Unit 12 名詞・冠詞 応用					
⑮	まとめ						
成績 評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考 文献 等	テキスト : Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備 考							
	オフィスアワー	研究室(西309)在室時は随時。					

科目番号	12-③	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	後藤 廣文
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけ、TOEIC400点レベルのリスニング問題で正解率60%を目標にします。						
	2. 授業の内容 道の聞き方、空港のアナウンス、ホテルの予約など海外旅行で必要な英語表現に慣れ、聞き取れるようにすることを基本にして、海外生活の擬似体験をします。次に高校までの英語とは違う実用的な英語コミュニケーション能力を養うためにTOEICの様々な問題を通して英語圏で実際の生活で使われる英語表現を知って、慣れてください。これら会話でよく用いられる語や慣用句などについてはその意味だけではなくて、使い方を含めて丁寧に説明します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 授業方針の説明及びListening (Face等)						
	② How much is the bus ticket? 1, Picture Questions Part I Drill 1, Question-Response Part II Drill 11						
	③ How much is the bus ticket? 2, Picture Questions Part 1 Drill 2, Short Conversations Part III Drill 21						
	④ May I use your phone? 1, Question-Response Part II Drill 12						
	⑤ May I use your phone? 2, Picture Questions Part 1 Drill 3, Short Talks Part IV Drill 31						
	⑥ Turn right onto Bush Street. 1, Short Conversation Part III Drill 22						
	⑦ Turn right onto Bush Street. 2, Picture Questions Part I Drill 4, A song						
	⑧ I'd like to confirm my flight.(Departures), Short Conversations Part III Drill 23						
	⑨ Welcome abroad, Question-Response Part II Drill 13						
	⑩ Test (確認テスト)						
	⑪ I'd like to book a room., Picture Questions Part I Drill 5, Short Talks Part IV Drill 32						
	⑫ I'm starving. (Bill A・B), Short Conversations Part III Drill 24						
	⑬ These disks are on special. 1, Short Talks Part IV Drill33						
	⑭ Where did I leave my umbrella?(the Lost and Found Office), Short Conversations Part III Drill 25						
⑮ Can you break a five? Question-Response Part II Drill 14							
成績 評価	学期末試験						
	受講態度(出席点を含む)・確認テスト(20%)、学期末試験の成績(80%) 筆記試験は90分で実施						
参考 文献 等	教科書 David E. Bramley、河合忠仁、桐村 亮 著 “Score Goals in TOEIC Test Listening 400” 松柏社						
備 考							
	オフィスワー						

科目番号	13	授業科目	ドイツ語演習 I (Elementary German I)			担当者	武田 輝章
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ドイツ語を使って大きな声であいさつをしましょう。ドイツ語で自分のことを紹介してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざします。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界は同じでしょうか、違うのでしょうか。自分の眼で見てください。						
	2. 授業の内容 全員が同じスタートラインに並んで、ドイツ語の基礎をゆっくりと学んでいきます。英語の苦手な人でも大丈夫です。高校までの無理強いされた外国語とはひと味違う「楽しさ」をバネにして、新しいことばの世界を切り拓きましょう。また、新聞・雑誌・映画・ビデオ・テレビ・ラジオなどのメディアを駆使して、ドイツ語圏のさまざまな情報も提供します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業方針の説明+「みんなが知っているドイツ語」						
	② 勉強の方法(1)「自宅学習をしよう」						
	③ 勉強の方法(2)「考えて学ぼう」						
	④ 発音(1)「大きな声で発音しよう」						
	⑤ 挨拶(1)「大きな声であいさつしよう」						
	⑥ 発音(2)「もっと大きな声で発音」						
	⑦ 挨拶(2)「もっと大きな声であいさつ」						
	⑧ 発音(3)「日本語と比べてみよう」						
	⑨ 挨拶(3)「決まり文句はそのまま覚えよう」						
	⑩ 発音(4)「英語と比べてみよう」						
	⑪ 挨拶(4)「覚えたらすぐ使おう」						
	⑫ 発信(1)「ドイツ語で言ってみよう」						
	⑬ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑭ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
⑮ 総合「前期のまとめ」							
成績評価	筆記試験(60分で実施)						
	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参考文献等	1 テキストについては授業で指示 2 新アポロン独和辞典(同学社) 3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社) 4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(武田研究室)					

科目番号	14	授業科目	中国語演習 I (Chinese practice I)			担当者	谷口 明夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 初めて中国語を学ぶ人、または中国語を基礎から確実に学びたい人のための科目です。中国語の基礎的な発音と文法。日常の挨拶ことばを学び、簡単な日常会話の力、初歩的な作文力、短い文章を読解する力を養成することを目標とします。						
	2. 授業の内容 中国語は日本語と同じように漢字を使用していますから、日本人には容易に学び始めることのできる外国語です。しかし、発音では、「声調」という独特の調子や、息の出し方の強弱が意味の区別に関係していたり、漢字の意味そのものも日本語と異なっている場合がよくあります。授業では、正確な発音をマスターするために、反復して発音練習をします。そして、同時に、簡単な日常会話とごく初歩的な文法を学んでゆきます。基礎的な発音を学んだら、テキスト本文に入ります。テキストの最後の2課は、本文を読み、新しい単語と文法を学びます。その後は、現代中国の童話を読み、新しい単語や表現方法を学んでゆきます。正確で自然な発音を身につけるために、学習した部分の反復朗読を行います。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	発音 I :声調とは何か。四つの声調と軽声。単母音。挨拶のことばI。数字の1・2・5					
	②	" II :声調の反復練習。複母音。挨拶のことばII。数字の8と7					
	③	" III :声調の反復練習。複母音(続)。簡単な単語と単文。数字の6と9					
	④	" IV :声母とは何か。有気音と無気音の違いは?					
	⑤	" V :日本語にない発音そり舌音。同じでも異なる音3種。数字の4と10					
	⑥	" VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3					
	⑦	" VII :3声が2声に変化すること。不(bu)と一(yi)が変化すること。声調パターンの練習。					
	⑧	第1課:人称代詞「あなた・わたし・かれ」の言い方。名前の言い方:自己紹介の仕方。					
	⑨	"					
	⑩	第2課:“是”「～である」の用法。“嗎”を使った疑問文。疑問詞疑問文。					
	⑪	"					
	⑫	第3課:動詞述語文:中国語の語順は日本語と違う。「こそあど」の言葉。「～の…」					
	⑬	"					
	⑭	第4課:「想」(～したい)と形容詞述語文。					
⑮	第5課:所有を表す”有”と”没有”。数詞と量詞。家族の呼称。						
成績評価	学期末試験の成績(80%)・受講態度(20%) 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節の声調が流暢に発音できるようになるまでが第一段階です。声に出して読み、紙に書き、CDを聞く努力が大切です。毎日10分以上勉強すれば、学習は格段に進みます。						
	オフィスアワー						

科目番号	15	授業科目	韓国語演習 I (Korean I)			担当者	入佐 信宏
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この授業の目標は、(1)韓国語の文字と発音を正確に習得し、(2)自己紹介ができる、(3)身の回りの物や人について表現できる、(4)予定や習慣について表現できるようになることです。韓国語は日本語と似ている部分が多く、日本人には非常に学びやすい外国語です。韓国語の面白さをぜひ味わってください。						
	2. 授業の内容 この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字(ハングル)と発音から学習します。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 韓国語の文字と発音(子音・母音)						
	② 韓国語の文字と発音(子音・パッチム)						
	③ 韓国語の文字と発音(単語)、韓国語の挨拶						
	④ 日本人の名前のハングル表記・自己紹介						
	⑤ 職業・国籍について話す						
	⑥ 身の回りの物の名称を韓国語で表現する						
	⑦ 身の回りの物の持ち主について表現する						
	⑧ 相手の名前を尋ねる						
	⑨ 自分の持ち物について話す						
	⑩ 家族について話す						
	⑪ 家や学校がどこにあるかについて話す						
	⑫ 物や人の位置関係を話す						
	⑬ 予定について話す						
	⑭ 習慣について話す						
⑮ 総まとめ							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒nirisa@shigakukan.ac.jpまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	16	授業科目	数学基礎 (Basic Mathematics)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 近年、「数学＝パターンの科学」という数学観が注目されており、具体的には、数のパターン、形のパターン、変化のパターン、運動のパターンといった、抽象的なパターンの科学として数学を捉える見方である。また、数学をできあがった知識体系としてよりも、数学を創造する人間の思考活動そのものとして捉える見解もある。この授業では、これまで学んできた数学をもう一度振り返り、その基礎的内容の意味理解を高めるために、数学に関するパターンを発見する様々な数学的活動に、受講生自身が取り組むことをねらいとする。						
	2. 授業の内容 (1) 中学や高校(数I、数A程度)で学んだ数学の内容を中心に取り組む(詳細は授業計画を参照)。 (2) 受講者による問題解決、発表、討論などの学習活動を重視する。 (3) 受講者が興味・関心を持つ、数学に関する内容を取り扱う。 (4) 計算や問題解決など、数学的技能の習熟にむけて、適宜、練習問題に取り組む。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① ガイダンス: 本講義の概要や目標等について						
	② 数の誕生と発展						
	③ 数にまつわる不思議なパターン						
	④ グラフを読み解く: 鹿児島県の人口変動とその背景						
	⑤ 数値を読み解く: オリンピック選手を選んでみよう						
	⑥ 順列・組合せ						
	⑦ 確率						
	⑧ 図形: タングラムで様々な形を作ろう						
	⑨ 図形: 迷路の解き方・作り方						
	⑩ 図形: 様々な図形の角度と面積						
	⑪ 関数: 関数とは?						
	⑫ 関数: 関数の表現一式、表、グラフ						
	⑬ 不思議な数: フィボナッチ数と黄金比						
	⑭ 微分と積分						
⑮ まとめ							
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)						
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	随時: 西館412号室					

科目番号	17	授業科目	理科基礎 (Science)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1) 実験や観察を通し、理科の楽しさに触れ、日常にて科学的な気づきを発見できる能力を養う。 (2) 日常を飛び越えた、マクロな宇宙、ミクロな最先端の科学技術などに触れることで、科学的探究心を培う。						
	2. 授業の内容 (1) 中学や高校(数I、数A程度)で学んだ数学の内容を中心に取り組む(詳細は授業計画を参照)。 (2) 受講者による問題解決、発表、討論などの学習活動を重視する。 (3) 受講者が興味・関心を持つ、数学に関する内容を取り扱う。 (4) 計算や問題解決など、数学的技能の習熟にむけて、適宜、練習問題に取り組む。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① ガイダンス:科学的な考え方って何だろう						
	② 最先端の科学:科学でわかっていることとわかっていること						
	③ ものの見方:五感を使った観察1;触覚と視覚						
	④ ものの見方:五感を使った観察2;味覚、嗅覚と聴覚						
	⑤ 宇宙の誕生と進化						
	⑥ 地球:その多彩な環境						
	⑦ 生物の進化と多様性						
	⑧ 遺伝するもの、しないもの						
	⑨ 病気:病は気から?						
	⑩ エネルギーの作り方						
	⑪ 疑似科学:科学っぽいけど科学じゃないもの						
	⑫ 化学変化:身の回りの出来事を、化学式で表してみよう						
	⑬ 炎色反応:花火を作ってみよう						
	⑭ 社会と科学						
⑮ まとめ							
成績評価	学期末試験の成績 (50%) レポート等の提出状況 (30%) 受講態度 (20%)			※筆記試験は90分で実施			
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	随時:西館412号室					

科目番号	18	授業科目	分子からみた生物 (Molecular biology)			担当者	横峯 孝昭
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 見えないところでどのような生命現象が起こっているのか、遺伝学の観点から最近のトピックスを交えつついろいろな観点から物事をとらえられる教養を身につける。						
	2. 授業の内容 親と子は容姿・性格とよく似ている。なぜ容姿・性格が似ているのか、その答えは遺伝にある。ではその遺伝とはどのような現象なのかについて簡単に身近な現象をもとに考える。また、遺伝のみならず他の生命現象についても遺伝のトピックスを交えながら理解を深めていきたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 生物と細胞						
	② 生き物のからだをつくっているもの①						
	③ 生き物のからだをつくっているもの②						
	④ 細胞の増え方						
	⑤ 精子と卵のでき方						
	⑥ メンデルの遺伝						
	⑦ 血液型で遺伝を知ろう						
	⑧ 遺伝疾患の分類						
	⑨ 男の子、女の子の生まれる可能性						
	⑩ 羊のドリー クローン動物						
	⑪ 遺伝子改変植物の是非						
	⑫ 臓器移植と家畜						
	⑬ ご先祖様と人類(1)						
	⑭ ご先祖様と人類(2)						
⑮ 総括							
成績評価	受講態度(30%)および試験(70%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	19	授業科目	人間と環境 (Human beings and the Environment)			担当者	江崎 一郎
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞り、人間と環境とのあるべき関係を考えると同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察することを授業の目標とする。						
	2. 授業の内容 上記、授業の目標を達成するため、具体的な授業内容は以下の授業計画の通りとする。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション					
	②	環境問題とは					
	③	地球温暖化					
	④	オゾン層の破壊					
	⑤	熱帯林の伐採					
	⑥	砂漠化					
	⑦	酸性雨					
	⑧	公害問題					
	⑨	京都議定書					
	⑩	気候変動に関する国際連合枠組み条約					
	⑪	化学物質過敏症					
	⑫	環境ホルモン					
	⑬	環境基本法					
	⑭	新しい人権としての環境権					
⑮	人間と自然環境との関係						
成績評価	平常点30%、レポート70%。 教科書・ノート忘れ・無断欠席などは、減点。						
参考文献等	教科書:竹下 賢編 『第3版・入門法学』晃洋書房						
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方など)を行うので必ず出席すること。受講生は、事前に教科書を購入し、ルーズリーフを準備しておくこと。						
	オフィスアワー						

科目番号	20	授業科目	海外事情 (Foreign Culture Experience)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 ①異文化に接し、異文化への理解を深める。 ②体験的に国際感覚を養う。 ③自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める。						
	2. 授業の内容 外国との文化的及び経済的な交流が進む時代に生きる私たちは異なる価値観を有する人々に接する機会が増えている。日本以外の人々と誠実でお互いに有益な関係と友好は、相手の精神文化、特に「心」の正しい理解なしに有り得ないものである。 この科目の具体化である「国外研修旅行」は外国文化を自分の身で体験する機会を提供し、外国の文化的な遺産の一部を自分の目で見、その社会の雰囲気を味わうことによって外国の理解を深め、心に視野を広げ、自国文化の長短に気付かせる非常に良い機会である。 この国外研修旅行は本学の教務委員会(海外事情小委員会)によって企画され、その主催が選定した旅行会社に委託され、毎年の早春に実施される予定である。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 「国外研修旅行」参加者の募集とその届出の提出。						
	② 「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導。						
	③ 「国外研修旅行」の実施。						
	④ 「国外研修旅行」に関する体験発表とレポート提出。						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	(1) 1年生のみ2単位と成績が授与される。 (2) 成績と単位は、事前・事後指導の参加(20%)、研修旅行の参加とレポート提出(80%)によって与えられる。						
参考文献等							
備考	要注意: ① 参加希望者数、国内外の治安等の事由で国外研修旅行が行われず、よって「海外事情」を開講しないこともある。 ② 履修届けをする際、この科目の単位(2)を卒業の取得必修単位の内に加算しないこと。						
	オフィスアワー						

科目番号	21-①	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)			担当者	高島 まり子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 基本的な英語表現を習得しながら、既習の英文法を復習する。基礎を固めることによって、高校までの多様な受講形態による能力差を調整し、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 授業の内容 各トピックについて、解説と練習問題によって着実に文法力を身につけていく。また、「話す・書く・読む・聴く」を総合的に訓練することで自信をつける。また適宜、歌や指遊び、ビデオ等を活用して楽しく学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	<8>代名詞(2)					
	②	<9>第4文型、形容詞					
	③	同					
	④	<10>第5文型、副詞					
	⑤	同					
	⑥	<11>冠詞					
	⑦	同					
	⑧	<12>前置詞					
	⑨	同					
	⑩	<13>接続詞					
	⑪	同					
	⑫	<14>関係詞					
	⑬	同					
	⑭	<15>助動詞					
⑮	同						
成績評価	受講態度(20%)、提出物(20%)、期末試験(60%)等の総合評価						
参考文献等	○ <i>Make It Clear</i> 「基本文型から学ぶ大学英語」 田中 保・日高 正司・三幣 友行・國府方麗夏 編著、朝日出版社、2012年。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)					

科目番号	21-②	授業科目	英語演習Ⅱ (English II)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。						
	2. 授業の内容 基礎的な文法事項を理解しつつ、リスニング、ライティングなどを総合的に学習することで、英語を実際に使用するための基礎を築く。テキストは前期と同様Everyday English Grammarを用い文法事項、リスニング、ライティングの基本を学習をするのに加え、英訳版の日本のマンガを応用編として用い、英語理解をさらに深める。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション(前期の復習)					
	②	Unit 13 代名詞					
	③	Unit 14 前置詞					
	④	Unit 15 形容詞					
	⑤	Unit 16 副詞					
	⑥	Unit 17 比較(1)					
	⑦	Unit 18 比較(2)					
	⑧	Unit 19 接続詞 基本事項					
	⑨	Unit 19 接続詞 応用					
	⑩	Unit 20 受け身(受動態)					
	⑪	Unit 21 不定詞					
	⑫	Unit 22 動名詞					
	⑬	Unit 23 分詞					
	⑭	Unit 24 現在完了					
⑮	まとめ						
成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考文献等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備考							
	オフィスアワー	研究室(西309)在室時は随時。					

科目番号	21-③	授業科目	英語演習Ⅱ (English II)			担当者	後藤 廣文
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけ、TOEIC400点レベルのリスニング問題で正解率60%以上を目標にします						
	2. 授業の内容 英語力を備え、維持しておく際に使える格好の指標が、TOEIC (Test of English for International Communication)です。TOEICは実用的な英語コミュニケーション能力をテストするもので、出題される問題には英語圏で実際のビジネス、旅行、娯楽などで使われる英語表現が次々に登場しますので、一つ一つ味わいながら、耳にし、口にし、出来れば書き取って、自分のものにしていってください。こうして覚えた様々な英語表現が実際の会話の中で自然に使えるようになるものなのです。それがまさに生きた英会話というものなのです。途中で理解度を確認するためにテストをします。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	My Job, Question-Response Part II Drill 14					
	②	My Company 1, Short Talks Part IV Drill 33					
	③	My Company 2, Picture Questions Part I Drill 6 Short Talks Part IV Drill 34					
	④	Marketing 1, Question-Response Part II Drill 15					
	⑤	Marketing 2, Picture Questions Part I Drill 7 Short Talks Part IV Drill 35					
	⑥	Business Cards, Picture Questions Part I Drill 8 Short Conversation Part III Drill 26					
	⑦	Test (確認テスト)					
	⑧	Stock and Shares, Christmas Songs 1					
	⑨	Small Business 1, Christmas Songs 2					
	⑩	Small Business 2, Short Conversation Part III Drill 27					
	⑪	Catering Business 1, Question-Response Part II Drill 16					
	⑫	Catering Business 2, Question-Response Part II Drill 17					
	⑬	Self-employed 1, Picture Questions Part I Drill 9 Question-Response Part II Drill 18					
	⑭	Self-employed 2, Question-Response Part II Drill 19					
	⑮	Hidden Market, Picture Questions Part I Drill 10 Question-Response Part II Drill 20					
	学期末試験						
成績評価	受講態度（出席点を含む）・確認テスト(20%)、学期末試験の成績(80%) 筆記試験は90分で実施						
参考文献等	教科書 David E. Bramley、河合忠仁、桐村 亮 著 “Score Goals in TOEIC Test Listening 400” 松柏社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	22	授業科目	ドイツ語演習Ⅱ (Elementary German II)			担当者	武田 輝章
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ドイツ語を使って自分のことを紹介してみましょう。さらに、身のまわりのことや日本のことを簡単に説明してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることが目標です。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界の違いを自分の眼で確かめてみましょう。						
	2. 授業の内容 全員が同じスタートラインに並んで、ドイツ語の基礎をゆっくりと学んでいきます。英語の苦手な人でも大丈夫です。高校までの無理強いされた外国語とはひと味違う「楽しさ」をバネにして、新しいことばの世界を切り拓きましょう。また、新聞・雑誌・映画・ビデオ・テレビ・ラジオなどのメディアを駆使して、ドイツ語圏のさまざまな情報も提供します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業方針・授業改善の説明						
	② 前期の復習「忘れたら思い出そう」						
	③ 発信(1)「ドイツ語で自己紹介」						
	④ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑤ 情報収集(1)「分からないことは聞いてみよう」						
	⑥ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑦ 発信(4)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑧ 情報収集(2)「未知の世界を覗いてみよう」						
	⑨ 読む(1)「辞書を引くのは楽じゃない」						
	⑩ 書く(1)「辞書を使うのも楽じゃない」						
	⑪ 読む(2)「辞書が引ければ一人前」						
	⑫ 書く(2)「辞書が使えれば二人前」						
	⑬ 文化(1)「ヨーロッパの歴史と風土」						
	⑭ 文化(2)「ヨーロッパの視点で見る」						
⑮ 総合「後期のまとめ」							
成績評価	筆記試験(60分で実施)						
	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参考文献等	1 テキストについては授業で指示						
	2 新アポロン独和辞典(同学社)						
	3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社)						
	4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(武田研究室)					

科目番号	23	授業科目	中国語演習Ⅱ (Chinese practice Ⅱ)			担当者	谷口 明夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 中国語の基礎的な発音、特に声調と母音・子音及び簡単な単語、挨拶ことば、初歩的な文法を学んだことのある人のための科目です。中国語演習Ⅰで学んだ発音と文法の知識を基礎として学習を進め、基本的な読み、書き、話し、聞く力を伸ばすことを目標とします。						
	2. 授業の内容 テキストに沿って、新しい単語と文法、表現方法を学んでゆきます。数字を使った表現、例えば人数、金額、年月日、曜日、時間(～時～分)の表現、「～は～より～だ」等の比較の表現、「いつ～する」、「どこにいる」、「～した」(完了)、「～するのが好きだ」、「～したことがある」(経験)の表現を学びます。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	第6課:「～するのが好き」 助動詞「要」					
	②	〃					
	③	〃					
	④	第7課:曜日の言い方。「あさ・ひる・ばん」などの時間詞。数量を表わす方法。					
	⑤	〃 V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10					
	⑥	〃 VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3					
	⑦	第8課:時刻の言い方。ここ・そこ・あそこ。所在を表す文。「～から～まで」の表現。					
	⑧	〃					
	⑨	〃					
	⑩	第9課:完了の表現。「とても・非常に～」の表現。「～しているところだ」					
	⑪	〃					
	⑫	〃					
	⑬	第10課:助動詞”会”と”能””できる”の表現。様態補語「～得～」					
	⑭	〃					
⑮	〃						
成績評価	学期末試験の成績(80%)・受講態度(20%) 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	24	授業科目	韓国語演習Ⅱ (KoreanⅡ)			担当者	入佐 信宏
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 この授業の目標は、(1)趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる、(2) 予定や習慣について表現できる、(3)人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる、(4)店や食堂で買い物をしたり、注文したりできるようになることです。						
	2. 授業の内容 この授業は「韓国語演習Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 趣味や職業について話す						
	② 月日を表現する						
	③ 自分の持ち物や家族について話す						
	④ 電話番号を表現する						
	⑤ 数を数える、時間を表現する						
	⑥ 予定や習慣について話す						
	⑦ 〃						
	⑧ 授業時間・営業時間等を表現する						
	⑨ 人や物の姿や性質を表現する						
	⑩ 自分の感じていることを表現する						
	⑪ 移動の手段・所要時間を表現する						
	⑫ 値段を尋ねる・値段を言う						
	⑬ 個数を言って注文する						
	⑭ 食堂での会話						
⑮ 総まとめ							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒nirisa@shigakukan.ac.jpまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	25-①	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise)			担当者	黒原 貴仁
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 (生活科学/生活福祉)	講義	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 近年、生活習慣病の増加や個人の価値観を尊重する傾向が強くなっていることにともない、健康にかんする関心や行動が重視されるようになってきた。現在注目を集めるQOL(生活の質)の向上は多くの人々に関心がある。本講義では、現代社会において、健康とは何か、また、ストレスによる疾病(心身症)についての知識、さらには、スポーツの意味や価値、健康づくりと運動・生活習慣、ダイエットと運動効果について基礎的理解を図る。						
	2. 授業の内容 前半はパワーポイント等を用い、「健康」、「スポーツ」についての理解を深める。後半はグループ学習等により、対象者の興味・関心に沿って調査を行い、スポーツの意味や価値、健康づくりと運動・生活習慣、ダイエットと運動効果について解説をする。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション(人間にとっての健康と運動)						
	② ダイエットと運動効果						
	③ 現代社会におけるスポーツの社会的意義						
	④ 生涯スポーツとは?						
	⑤ 健康のとらえ方						
	⑥ 生活習慣病とその予防						
	⑦ ヘルスプロモーションの意義						
	⑧ まとめ(45分) 筆記試験(45分)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(40%)及び受講態度(20%)・レポート(20%)による						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	25-②	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 からだを動かすことの少なくなった現代社会では、各自が意図的に日常生活のなかに運動を取り入れそれを積極的に実践していく必要がある。本講義では、安全で効果的な運動の行い方(運動処方)について解説する。また、栄養教員免許取得希望者が多く受講するため、学校栄養と保健体育との関連についても解説していく。						
	2. 授業の内容 運動不足の背景、具体的な運動実施へ向けてのプランニングの実際、運動実施上の留意点などについて肥満解消、ウォーキングの効果的な実施方法など身近なものを対象に授業をすすめるとともに、小学校栄養指導と保健体育との関連について理解できるようにする。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	運動処方とは？					
	②	運動処方の手順(健康診断、体力診断)					
	③	運動処方の手順(目標の設定、運動処方)					
	④	運動処方の手順(運動の実践、処方の再調整)					
	⑤	学校栄養と保健体育との関わり					
	⑥	中学年(3・4年生)における教材と栄養 I					
	⑦	中学年(3・4年生)における教材と栄養 II					
	⑧	高学年(5・6年生)における教材と栄養					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	学期末試験(70%)、レポート提出、受講態度等(30%)による						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	26-①	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)			担当者	黒原 貴仁
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期 2年・後期	生活科学 (生活科学/生活福祉)	実技	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会において、スポーツは豊かなQOL(生活の質)の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本講義はスポーツをとおして体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとおして積極的にスポーツに参加できるような基礎的な知識、技術、態度を習得し、健康・安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。						
	2. 授業の内容 実技種目として、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球の中から原則として前半、後半各自2種目を選択する。ゲームを中心に展開し、必要に応じてルールを解説し、基本練習(ドリルゲーム・タスクゲーム)を実施する。出席して活動することを重視する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション、前半の種目選択と実践					
	②	ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	③	前半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する] 各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨	後半の種目選択、ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	⑩	後半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する] 各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	参加態度(70%)、ゲーム結果(30%)等を総合して評価する。						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	26-②	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養	実技	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が将来へ向けて、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにし、健康・体力の保持・増進ができるようにする。栄養教員免許取得希望者は、必修科目となる。						
	2. 授業の内容 生涯スポーツとして実施頻度の高い、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、テニスを受講。技術面の向上のみならず、各自の能力にあわせて楽しく取り組めるようにする。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション、前半活動種目の決定					
	②	** 受講生は、前半、後半でそれぞれ1種目ずつ、2種目を履修することを基本とする					
	③						
	④	前半活動期間					
	⑤	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、テニスを開講し選択する]					
	⑥	各種目ごとにルール of 解説、基礎練習、ゲームなどを行い、基礎技能の向上を目指す					
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪	後半活動期間					
	⑫	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、テニスを開講し選択する]					
	⑬	各種目ごとにルール of 解説、基礎練習、ゲームなどを行い、基礎技能の向上を目指す					
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度(60%)、試合結果等(40%)を総合して評価する						
参考文献等							
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

專 門 科 目

生活科学專攻

科目番号	201	授業科目	食生活論 (Study of Food Life)			担当者	児玉 敬三
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1.料理・食品・栄養・健康の関係を学ぶ 2.日本人の現状と日本人に必要な栄養素量を学ぶ 3.体の中の栄養を学ぶ 4.病気と食事について学ぶ						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 臨床栄養学の意義						
	② 栄養とは(栄養と栄養素)						
	③ 栄養とは(栄養素の分類)						
	④ 日本人の食事摂取基準						
	⑤ 食事摂取基準の計算						
	⑥ 栄養アセスメント						
	⑦ 栄養アセスメント実習						
	⑧ 食文化						
	⑨ 運動と栄養						
	⑩ 人生各期における健康生活と栄養						
	⑪ 検査のための食事						
	⑫ 治療による回復を促すための食事						
	⑬ 疾患を治療するための食事						
	⑭ 嚥下障害のある人の食事						
⑮ 経口摂取できない患者のための栄養管理							
成績評価	定期試験(80%)及び出席(20%)により評価						
参考文献等	テキスト:「食生活論」医歯薬出版 秋山房雄・足立己章 著						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	202	授業科目	住生活論 (Theory of Living Arrangements)			担当者	古川 恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 住まいは、いのちを育み人間性を培う生活の基盤となることです。家族生活を営みながら文化を創造・継承し、また、子どもや高齢者が安心して生活できる場所でもあるべきところです。 住生活論では、超高齢社会に向けての視点に基づき、生活空間としての住まいと地域社会はどうあるべきかを考え、管理する能力を養うことを目標とします。						
	2. 授業の内容 住居の歴史と文化をおさえ、自然・社会環境に応じた住宅計画について学び、続いて長寿社会における住宅・住環境をノーマライゼーションの視点から考える。また、介護予防、介護保険下での住宅改修など、地域社会での住生活の継続に必要なことを考える。視聴覚教材を用いて現実の住生活への理解を深め、生活援助の視点や支援内容を具体的に検討する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 住生活論の概要と意義						
	② 「陰翳礼讃」にみる日本の住文化						
	③ 住居の歴史						
	④ //						
	⑤ 住宅の材料と構造						
	⑥ 気候と暮らし、住まいと環境						
	⑦ 住まいの維持管理						
	⑧ 住生活のための人間工学						
	⑨ 高齢者と住まいー心身機能と特性						
	⑩ 高齢者の家庭内事故と予防						
	⑪ 高齢者の住まいの多様性						
	⑫ 住まいの安全と管理						
	⑬ 地域と住まい						
	⑭ 住居計画の法的基準、規定						
⑮ バリアフリー、UD							
成績評価	・筆記試験(70%)・レポート(30%)の総合評価による。※筆記試験は60分で実施。						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト: 中根芳一編著/私たちの住居学/理工学社 ・参考文献: 外山義/クリッパンの老人たちースウェーデンの高齢者ケア/ドメス出版 外山義/自宅でない住宅ー高齢者の生活空間論/医学書院/ 2003年 佐野眞一/大往生の島/文藝春秋/ 1997年 ・パワーポイント・DVD使用 						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー						

科目番号	203	授業科目	栄養学 (Nutrition)			担当者	住澤 知之
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養護教諭資格必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 人間が健康に生きていくための栄養の意義を理解する。 ② 正しい食教育ができるようになる。						
	2. 授業の内容 人間にとって生命を維持するために欠かすことができないのは、バランスよく栄養素を摂取することです。栄養素はどのように消化・吸収されるのか、不足するとどうなるのか、逆に過剰摂取するとどうなるのかについて学びます。また、食物によるアレルギーについても学びます。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション(栄養とは)					
	②	糖質(1)(糖質とは、糖質の働き)					
	③	糖質(2)(糖質の消化と吸収、糖尿病)					
	④	たんぱく質(1)(たんぱく質とは、たんぱく質の働き)					
	⑤	たんぱく質(2)(たんぱく質の消化と吸収、栄養失調症)					
	⑥	脂質(1)(脂質とは、脂質の働き)					
	⑦	脂質(2)(脂質の消化と吸収、脂質の代謝異常症)					
	⑧	ビタミンの栄養(1)(ビタミンとは、脂溶性ビタミン①)					
	⑨	ビタミンの栄養(2)(脂溶性ビタミン②)					
	⑩	ビタミンの栄養(3)(水溶性ビタミン①)					
	⑪	ビタミンの栄養(4)(水溶性ビタミン②)					
	⑫	ミネラル(無機質)の栄養(1)(ミネラル(無機質)とは、多量元素①)					
	⑬	ミネラル(無機質)の栄養(2)(多量元素②、微量元素①)					
	⑭	ミネラル(無機質)の栄養(3)(微量元素②)					
⑮	アレルギー						
成績評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考図書:「コンパクト栄養学」改訂第3版 南江堂						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	204	授業科目	解剖学 I (Anatomy I)			担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免・医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。構造相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることが目標とする。						
	2. 授業の内容 講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体構造を解説することにより、日常生活にも役立つ内容にしたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 人体の構造と機能、口と歯(口の構造と機能)						
	② 口腔、咽頭、喉頭、食道(咀嚼、嚥下)						
	③ 消化吸収(胃、小腸、大腸の構造)						
	④ 消化吸収(胃、小腸、大腸における消化、栄養素の消化・吸収)						
	⑤ 消化吸収(膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能)						
	⑥ 細胞・組織(人体とは、細胞の構造、体液)						
	⑦ 細胞・組織(上皮組織、筋組織)						
	⑧ 細胞・組織(結合組織、神経組織)						
	⑨ 心臓・血管(心臓、動脈、静脈、[循環器系の形態と機能])						
	⑩ 血管・リンパ管(血液、リンパ管の構造)						
	⑪ 呼吸器(呼吸器の構造)						
	⑫ 呼吸器(呼吸運動、呼吸の調節)						
	⑬ 泌尿器(腎臓の構造と機能)						
	⑭ 泌尿器(排尿路の構造)						
⑮ 内分泌(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓)							
成績評価	毎授業ごとの小テストの結果を合計し100点に換算						
参考文献等	テキスト :系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 :新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円 参考図書 :井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからマイクロまで」西村書店 8,190円						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	205	授業科目	生理学 (Physiology)			担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免・医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 健康なヒトの体の働きと仕組みについて理解することを目標にする。						
	2. 授業の内容 病気の原因とその発生・進展のメカニズムを理解するためには、人体の正常な構造と機能に関する知識が欠かせない。生理学の講義では、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割について解説する。 血液、筋組織、神経系および内分泌系による調節機能について学習する。特に、呼吸、感覚、排泄等の生命維持に不可欠な機能の統合的な制御の重要性を理解する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 人体の構造と機能、消化吸収(消化器の構造と機能、消化管運動の神経支配、栄養素の消化・吸収)						
	② 消化吸収(小腸の機能、大腸の機能、消化酵素、消化管ホルモン、肝臓)						
	③ 細胞(細胞内小器官、細胞膜と輸送、活動電位、代謝、恒常性とその維持)						
	④ 血液(血液の組成、血液の機能、止血と凝固系、血液型と輸血)						
	⑤ 循環(形態と機能、血圧とその調節、心電図検査、血管の機能)						
	⑥ 呼吸(呼吸器の構造、換気、呼吸運動、呼吸の調節、酸素解離曲線、空気環境による人体機能の変化(高圧環境、低圧環境、酸素、二酸化炭素、一酸化炭素、粉じん))						
	⑦ 呼吸(呼吸中枢、口呼吸、無呼吸症候群、肺活量、肺機能検査、労働時の呼吸量)						
	⑧ 神経(神経系の組織構造と機能、神経細胞、グリア細胞、シナプス、神経線維、中枢神経、末梢神経)						
	⑨ 神経(交感神経、副交感神経、脊髄、脳、睡眠)						
	⑩ 筋(筋肉の構造と種類、筋肉の収縮、運動の調節、筋収縮とエネルギー、運動と呼吸、筋肉の疲労)						
	⑪ 内分泌(各ホルモンの作用と分泌調節)						
	⑫ 排泄(排便、排尿のメカニズム、腎臓の構造と機能、尿の成分、恒常性とその維持)						
	⑬ 感覚(感覚神経、受容器と刺激、視覚、視環境による人体機能の変化、聴覚・平衡感覚、音環境による人体機能の変化(生理面、心理面))						
	⑭ 感覚(嗅覚、味覚、皮膚感覚、温熱環境による人体機能の変化(体温とその調節機構、高温環境、低温環境))						
⑮ 生殖(生殖腺、精巣、卵巣の機能と調節、妊婦と分娩)							
成績評価	毎授業ごとの小テストの結果を合計し100点に換算						
参考文献等	テキスト : 系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 : 新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円 参考図書 : 井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからマイクロまで」西村書店 8,190円						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	206	授業科目	看護学 (Nursing)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・医療秘書実務士必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもの健康問題は、この半世紀に大きく変化した。21世紀を担う子どもたちの健やかな心身の発育・発達を支援し、健全な育成を図るために、「養護をつかさどる」専門職としての資質、能力を高めることを目標として、その基盤となる「看護学」を学習する。						
	2. 授業の内容 養護教諭として衛生管理者としての必要な看護の基礎を学ぶ。 特に最近の健康課題の中から生活習慣病やアレルギー等の健康問題をとりあげ、学校や事業所で必要な支援、対策を学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	看護の概念と看護行為の基本					
	②	病気の経過にともなう看護					
	③	主な治療処置にともなう看護					
	④	小児期の健康と看護					
	⑤	学童期の健康と看護(1)					
	⑥	学童期の健康と看護(2)					
	⑦	思春期の健康と看護(1)					
	⑧	思春期の健康と看護(2)					
	⑨	母性看護					
	⑩	成人期の健康と看護(1)主要死因と国民健康づくり					
	⑪	成人期の健康と看護(2)メタボリックシンドロームと特定保健指導					
	⑫	成人期の健康と看護(3)成人期の健康問題と健康管理					
	⑬	老人看護					
	⑭	訴えや症状に対する理解と看護					
⑮	障害のある児童生徒への理解と看護						
成績評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績(70点) 受講態度(30点)						
参考文献等	テキスト:養護教諭のための看護学 藤井寿美子他 大修館書店 参考図書:新・衛生管理 第1種用上 中央労働災害防止協会						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	207	授業科目	救急処置 I (Emergency Treatment)			担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修・中二種免(保健) 第1種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 救急とは何かについて、全体像を理解できるようにわかりやすく解説する。身近に遭遇するような救急場面に対応する1次救急について理解し、救急処置Ⅱで、技術の習得がスムーズにできるような基礎的知識を身につける。						
	2. 授業の内容 解剖学・生理学や病理学を基に人体の臨床的な基礎から学習する。日常生活で起こりうる救急場面を想定した疾患、外傷を選択し、救急医療のシステム、心肺蘇生の方法、救急疾患への対応法、簡単な外傷への対応法などを学習する。知識の確認として毎回小テストを行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 救急とは?						
	② 事例						
	③ 救急のABC						
	④ 循環器						
	⑤ 呼吸器						
	⑥ 消化器						
	⑦ 内分泌器						
	⑧ 感覚器						
	⑨ 骨						
	⑩ 筋肉						
	⑪ 救急救命士						
	⑫ 1次救急						
	⑬ 2次救急						
	⑭ 救急体制						
⑮ 救急の実際							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等	吉岡敏治他・救急治療手技・中外医学社						
備考							
	オフィスアワー	408研究室 16:20 但し2名以上					

科目番号	208	授業科目	学校保健 (School Health)			担当者	満田 ツツ江
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 健康・安全は、学校教育の基本理念である生命の尊重・人間尊重の基本をなすものであり、人類の幸福の基本要件である。健康・安全を直接の目標とする学校保健と学校安全について正しく理解し、認識し、健康教育を含む学校保健活動を実践できる能力を養う。						
	2. 授業の内容 学校保健活動は「学校保健安全法」に基づいて行われる。したがって、まず「法」をよく理解したうえで、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康の保持増進を図るための実践的活動として、学校保健・学校安全・学校給食について保健管理、安全管理、衛生管理の理論と実践を行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 学校保健の概要(領域内容)と学校保健安全法						
	② 学校保健関係職員と組織活動						
	③ 学校保健安全計画と評価						
	④ 児童生徒の保健活動と学校保健委員会						
	⑤ 学校環境衛生 1. 学校環境衛生の意義						
	⑥ 学校環境衛生 2. 養護教諭と学校環境衛生活動						
	⑦ 学校環境衛生 3. 学校環境衛生活動の実際						
	⑧ 学校環境衛生 学校環境衛生基準						
	⑨ 学校環境衛生 学校環境衛生活動の事後措置						
	⑩ 学校安全と危機管理 1. 養護教諭と学校安全						
	⑪ 学校安全と危機管理 2. 安全管理と安全教育						
	⑫ 学校安全と危機管理 3. 危機管理						
	⑬ 学校安全と危機管理 4. 学校の管理下における災害とスポーツ振興センター法						
	⑭ 学校で予防すべき感染症とその対策						
⑮ 学校で予防すべき感染症の予防と管理							
成績評価	筆記試験は60分で実施 学期末試験の成績 (70点) 受講態度 (30点)						
参考文献等	テキスト:新訂版・学校保健実務必携、学校保健、安全実務研究会、第一法規 参考図書:新版・養護教諭執務のてびき、石川県養護教育研究会 東山書房						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	209	授業科目	養護概説 (a survey of yogo)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講では、養護教諭や衛生管理者の具体的な職務について理解し、職務遂行上求められる資質及び健康の保持・増進活動を実践できる能力を育成する。さらに保健室の機能を生かした保健室経営のできる養護教諭をめざす。						
	2. 授業の内容 養護教諭として必要な知識、技術、態度を学習する。特に保健管理の中核ともいえる定期健康診断や、保健室における対応については、演習や実習をして、実践に即した授業を展開する。さらに労働安全衛生法にもとづいた職員の健康管理についても学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 養護教諭とは 養護教諭の職務と役割						
	② 教職員免許法と養護教諭						
	③ 養護教諭の活動計画及び評価						
	④ 学校種別による執務の特徴						
	⑤ 学校保健における職務の分担						
	⑥ 保健室について、保健室の機能・保健室経営						
	⑦ 健康観察、健康相談						
	⑧ 定期健康診断(1) 三計測と聴力検査、視力検査						
	⑨ 定期健康診断(2) 結核健診、尿検査、寄生虫検査、心臓検診						
	⑩ 定期健康診断(3) 検診(内科、眼科、歯科、耳鼻咽喉科)						
	⑪ 定期健康診断(4) 記録と事後措置						
	⑫ 臨時健康診断 就学時健康診断						
	⑬ 教職員の健康診断と事後措置						
	⑭ 疾病別保健管理と保健指導						
⑮ 健康診断時に注意すべき疾病及び異常							
成績評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績 (70点) 受講態度 (30点)						
参考文献等	テキスト:新版・護教諭執務の手引き 監修. 植田誠治 石川県養護教育研究会編 東山書房 参考図書:新・衛生管理第一種用 上 中央労働災害防止協会 新定版・学校保健実務必携、学校保健安全実務研究会 第一法規						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	210	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、養護教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション					
	②	教師とは誰かⅠ－教師の役割					
	③	教師とは誰かⅡ－教師の資質					
	④	教師とは誰かⅢ－法規から見た教師					
	⑤	学校における養護教諭の位置づけ－法規上の関係も含む					
	⑥	学校組織と教師－様々なチームワークの取り組み					
	⑦	教育問題を考える					
	⑧	学校問題を考える					
	⑨	子どもを知る(Ⅰ)－子どもの発達・成長(幼児期・児童期)と教育の目的					
	⑩	子どもを知る(Ⅱ)－子どもの発達・成長(青年期)と教育の目的					
	⑪	子どもを知る(Ⅲ)－現代の教育問題から					
	⑫	自分を知る(Ⅰ)－資質の検討のために					
	⑬	自分を知る(Ⅱ)－自分なりの教師像の模索のために					
	⑭	自分を知る(Ⅲ)－自分なりの教育観の模索のために					
⑮	まとめ						
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	211	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また成長期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーションー 自分たちの過去を思い出そう					
	②	成長するとは？(Ⅰ)ー 身体的成長と精神的成長					
	③	成長するとは？(Ⅱ)ー 精神的成長と自立					
	④	成長するとは？(Ⅲ)ー 精神的成長と自律					
	⑤	成長するとは？(Ⅳ)ー 成長と教育の関係					
	⑥	教育とは？(Ⅰ)ー 教育の目指すもの					
	⑦	教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その一)					
	⑧	教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その二)					
	⑨	教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その三)					
	⑩	教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その四)					
	⑪	教育における諸問題(その一)					
	⑫	教育における諸問題(その二)					
	⑬	教育における諸問題(その三)					
	⑭	課題と展望					
⑮	まとめ						
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	212	授業科目	情報機器演習 (Information Technology Practice)			担当者	倉元 博美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 大学生活や社会・教育現場で必要なコンピュータやインターネットの活用法を修得し、それらを独力で活用する能力を修得することを目標とする。						
	2. 授業の内容 コンピュータの基本的操作法、情報倫理やセキュリティに関する知識、インターネットによる情報検索法、電子メールによる情報交換、ワープロ・表計算ソフトの活用法、プレゼンテーション技法、ホームページの作成法等について学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識 (Windows)					
	②	インターネットの基礎知識と検索法					
	③	電子メールの基礎知識と活用, 課題演習					
	④	情報倫理とセキュリティ					
	⑤	ファイルの操作と整理, 画像作成と画像処理					
	⑥	ワープロソフト「Word」による文書処理 I					
	⑦	ワープロソフト「Word」による文書処理 II					
	⑧	表計算ソフト「Excel」によるデータ処理 I					
	⑨	表計算ソフト「Excel」によるデータ処理 II					
	⑩	表計算ソフト「Excel」によるデータ処理 III					
	⑪	課題演習					
	⑫	プレゼンテーションソフト (Power Point) によるプレゼンテーション作成 I					
	⑬	プレゼンテーション作成 II					
	⑭	ホームページ作成					
⑮	総合演習						
成績評価	レポート等 (70%)・受講態度 (30%)						
参考文献等	参考文献: 倉元ほか著 『演習で学ぶIT入門』 (化学同人) 使用視聴覚機器等: コンピュータ教室 (Windows)、USBフラッシュメモリ						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	213	授業科目	現代社会論 (The Modern Society Science)			担当者	倉重 加代
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ・論文の構成、作成する手順を身につける。 ・自分の考えをまとめ、表現する能力を高める。 ・情報を収集し、分析し、自身の考えを表現することを通して自身の専門性を深め得意分野をつくる。						
	2. 授業の内容 現代社会のありようを理解するために、新聞記事等をもとにニュースの読み方を学習する。また、自分自身の考えをまとめる際の情報収集の仕方や、データの読み方、アンケートの取り方について学習する。さらに、論文を作成する作業などを通して、表現する際の基本的ルールを身に付け、表現力を高めていく。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業の概要						
	② 論文の書き方(1) 論文とは何か						
	③ 論文の書き方(2) 論文の構成①						
	④ 論文の書き方(3) 論文の構成②						
	⑤ 論文の書き方(4) アウトラインの作成						
	⑥ 論文の書き方(5) わかりやすい文章を書くために						
	⑦ データの読み方(1)						
	⑧ データの読み方(2)						
	⑨ 社会調査の方法(1)						
	⑩ 社会調査の方法(2)						
	⑪ 調査票を作る						
	⑫ 資料検索の方法の学習						
	⑬ 論文を書く(1) テーマ設定～得意分野づくり						
	⑭ 論文を書く(2) 実際に書く						
⑮ 論文を書く(3) 振り返り							
成績評価	レポート(70%)、授業時間内の提出物(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室』NHKブックス 2012年 参考文献 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書 2007年 ほか 一部視聴覚機材(DVD)使用						
備考							
	オフィスアワー	月・火・金曜日 随時(研究室)					

科目番号	214	授業科目	秘書実務 (Secretarial Duties)			担当者	有馬恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 社会で必要とされる知識や技術は、時代とともに変化している。その変化に対応できる実務能力とは何かを知り、それを身に付けることで、社会の即戦力となることを目指す。また、社会人として必要な一般常識、対人コミュニケーションについて基礎から学び、職場での人間関係を円滑に進める方を身に付けることを目標とする。						
	2. 授業の内容 社会人として必要な基本的な実務能力を学ぶ。社会人としての基本心得、職場環境の整備、接遇などの対人コミュニケーションについて知識を得ることから始め、教材による演習や事務機器等を使用した実習を通して、実社会に通用する実践力を身に付ける。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 働くことの意識、心構え						
	② 秘書に求められる資質、能力						
	③ 第一印象について						
	④ あいさつ、話し方、言葉づかい						
	⑤ 敬語について						
	⑥ 仕事の進め方						
	⑦ 総務(環境整備、スケジューリング)						
	⑧ 接遇(訪問)						
	⑨ // (来客対応、受付業務)						
	⑩ // (電話対応)						
	⑪ 文書(公的手紙文)						
	⑫ // (ビジネス文書)						
	⑬ 情報(収集、整理、活用)						
	⑭ 慶弔のマナー						
⑮ 国際マナー							
成績評価	レポート等・小テスト(50%) 受講態度(50%)						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(有馬研究室)					

科目番号	215	授業科目	健康相談活動 (Health Counseling)			担当者	満田 ツツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 第一種衛生管理者免必修 ピアヘルパー必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 健康相談の目的は、児童生徒の心身の健康に関する問題について、児童生徒や保護者に対して、関係者が連携し相談等を通して、問題の解決を図り、学校生活によりよく適応していけるように支援していくことである。このような支援活動(保健指導を含む)に必要な資質、能力を育成し、指導力を身につけさせる。						
	2. 授業の内容 養護教諭の行う健康相談は、児童生徒の健康に関して専門的な立場から行われる。職務の特質を活かした心身の健康問題の早期発見。いじめや児童虐待等の早期発見、早期対応。保健指導の必要性の判断とその方法等について学習し、ロールプレイによる演習も行う。(本講は、平成21年度施行の学校保健安全法の内容に基づいて行う。)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解①健康相談と保健指導の法的根拠						
	② 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解②健康相談の基本的理解						
	③ 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解③保健指導の基本的理解						
	④ 発達段階別心身の健康問題の特徴と理解						
	⑤ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり①健康相談の基本的プロセスと支援体制						
	⑥ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり②支援の進め方と相談技術						
	⑦ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり③不登校及び保健室登校への対応						
	⑧ 個別の保健指導の進め方						
	⑨ 健康相談及び保健指導事例①健康相談事例 事例1～事例9						
	⑩ 健康相談及び保健指導事例②健康相談事例 事例10～事例19						
	⑪ 健康相談及び保健指導事例③保健指導事例 事例1～事例9						
	⑫ 健康相談及び保健指導事例④保健指導事例 事例10～事例18						
	⑬ 児童生徒の主な心身の健康問題①身体の問題(内科系)						
	⑭ 児童生徒の主な心身の健康問題②身体の問題(外科系)						
⑮ 児童生徒の主な心身の健康問題③心の問題							
成績評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績 (70点) 受講態度 (30点)						
参考文献等	テキスト: ①教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引 文部科学省 ②養護教諭のための児童虐待対応の手引 文部科学省 参考図書: 新・衛生管理 第1種用 上 中央労働災害防止協会 新版・養護教諭執務のてびき 監修・植田誠治 石川県養護教諭教育研究会編 東山書房						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	216	授業科目	病理学 (Pathology)			担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 病理学は病気の成り立ちを研究する学問であり、すべての臨床医学の基礎となる。病気の発生・進展・経過について理解する。医学に関連する分野を学ぶものには、本科目は必修かつ最も重要な科目の一つである。テキストを熟読することを期待する。						
	2. 授業の内容 病理学の基礎である総論から始める。総論では炎症、腫瘍、免疫などを学習する。各論として器官別に、各種疾患について学習をする。疾患については、まれな病気ではなく、日常的によく発症する疾患を中心に学習する。できるだけ、臨床的な面も含んだ学習とする。毎回、小テストを行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 病理学とは						
	② 医学における病理学の位置						
	③ 医学における病理学の役割						
	④ 炎症						
	⑤ 腫瘍						
	⑥ 循環器						
	⑦ 呼吸器						
	⑧ 消化器						
	⑨ 内分泌						
	⑩ 神経						
	⑪ 感覚						
	⑫ 運動						
	⑬ 骨						
	⑭ 筋肉						
⑮ リンパ							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等	病理学・堤寛・医学芸術社						
備考							
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ~ 研究室: 408 但し、2名以上					

科目番号	217	授業科目	解剖学Ⅱ (Anatomy Ⅱ)			担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。構造相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることが目標とする。						
	2. 授業の内容 講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体構造を解説することにより、日常生活にも役立つ内容にしたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 内分泌（副腎、性腺、ホルモンによる調節）						
	② 骨格・関節（骨格とは、骨の連結、体幹の骨、頭蓋）						
	③ 骨格・関節（上肢・下肢の骨）						
	④ 筋肉（筋肉の構造と種類、体幹・頭蓋の筋肉）						
	⑤ 筋肉（上肢・下肢の筋肉）						
	⑥ 中枢神経（神経系の組織構造と機能、脳）						
	⑦ 中枢神経（脊髄）						
	⑧ 末梢神経（脳神経）						
	⑨ 末梢神経（脊髄神経）						
	⑩ 末梢神経（自律神経）						
	⑪ 感覚器（眼、耳）						
	⑫ 感覚器（舌、鼻、皮膚）						
	⑬ 生殖器（男女生殖器）						
	⑭ 人体の発生（受精と胎児の発生）						
⑮ 人体の発生（成長と老化）							
成績評価	毎授業ごとの小テストの結果を合計し100点に換算						
参考文献等	テキスト : 系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 : 新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円 参考図書 : 井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	218	授業科目	解剖生理学実験 (Experiments of Anatomy and Physiology)			担当者	竹中 正巳
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	実験	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得することを目標とする。						
	2. 授業の内容 自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋内系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能についての理解を深める実験・実習を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション						
	② 循環に関する実験(血圧[循環器系の形態と機能、血圧とその調節]、運動機能検査)						
	③ 感覚に関する実験Ⅰ(味覚)						
	④ 感覚に関する実験Ⅱ(錯視)						
	⑤ 骨格に関する実習Ⅰ(人体構造の立体的位置関係の把握)						
	⑥ 骨格に関する実習Ⅱ(人体構造の立体的位置関係の把握)						
	⑦ 歯に関する実習Ⅰ(乳歯、永久歯の形態の観察)						
	⑧ 歯に関する実習Ⅱ(永久歯列と無歯顎)						
	⑨ 循環に関する実験(心電図、運動機能検査)						
	⑩ 体温に関する実験(身体各部の油皮、体温とその調節機構)						
	⑪ 神経疲労に関する実験(フリッカー試験、疲労とは、視環境・音環境による人体機能の変化)						
	⑫ 疲労とその予防(疲労とは、疲労の原因、疲労の分類、疲労の経過、疲労の測定、疲労の予防、疲労の回復、運動機能検査(健康測定)、体重測定)						
	⑬ 呼吸に関する実験(スパイロメーターを用いた実験、肺機能検査、労働時の呼吸量)						
	⑭ 組織標本の観察						
⑮ 組織標本の観察							
成績評価	実験ごとのレポート(60点)、筆記試験(30点)、実験態度(10点)						
参考文献等	プリント等を適宜、配布する。 参考図書 : 川村一男編 解剖生理学実験 建帛社 1,785円 : 系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 : 井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円 : 新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円						
備考							
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	219	授業科目	微生物学 (Microbiology fundamental and pathogenic microbes)			担当者	小林 武一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 近年の微生物学領域は分子生物学の進展と相俟って著しい発展を遂げている。看護では主に病原微生物が対象となるのは当然のことであるが、その基礎となる微生物学を細菌などを含む全微生物を視野に入れ、形態と微細構造並びにそれらの機能性について、最近の研究成果も合わせて、しっかり理解する。その上で、病原微生物の特性とヒト(人体)との関係について学ぶとともに、補足的に人間の暮らしと健康に役立つ微生物に関しても理解を深める。						
	2. 授業の内容 地球上至るところに微生物が存在し、今日その1%位が微生物学の対象となっていると言われている。微生物として、細菌、ウイルス、酵母、カビなどの形態的、生理的特徴や代謝系について基礎となる事項について解説する。その上で、種々の感染症を引き起す病原性微生物とその感染と発症、化学療法や予防法などについて説明する。さらに、人の生活に役立つ微生物として発酵、醸造などに貢献している細菌や酵母などにも言及する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 細菌の形態と分類／二命名法、形と大きさ、グラム染色性、細胞壁、細胞膜など						
	② 細菌の培養と増殖、EM経路、TCA回路、変異原、細菌の遺伝現象						
	③ 細菌の病原性1. グラム陽性菌(炭疽菌、破傷風菌、ブドウ球菌、肺炎球菌、結核菌など)						
	④ 細菌の病原性2. グラム陰性菌(緑膿菌、大腸菌、赤痢菌、コレラ菌、ピロリ菌など)						
	⑤ 細菌の応用(乳酸発酵、酢酸発酵、アミノ酸発酵、洗剤用酵素、生ゴミ処理など)						
	⑥ 放線菌の形態と病原性及び応用(抗生物質)						
	⑦ ウイルスの形態・構造、増殖、伝播(感染)						
	⑧ ウイルスの病原性1. DNA型ウイルス、RNA型ウイルス						
	⑨ ウイルスの病原性2. RNA型ウイルス、肝炎ウイルスなどと治療						
	⑩ 真菌類(酵母とカビ)の形態と増殖、分類						
	⑪ 酵母の病原性(カンジダ属、クリプトコックス属)とカビの病原性(アスペルギルス属、トリコフィトン属)						
	⑫ 酵母とカビの応用(製パン、アルコール発酵、醤油、焼酎など)						
	⑬ 臓器感染症(皮フ、粘膜系、呼吸器系、消化器系など)と感染症の予防						
	⑭ 滅菌と消毒						
⑮ まとめ							
成績評価	筆記試験 ※60分で実施(75%)、レポート提出(15%)、受講態度(10%)						
参考文献等	コンパクト微生物学(改訂第3版)、編集:小熊恵二、堀田博 南江堂						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	220	授業科目	薬理概論 (Pharmacology)			担当者	西川 殷維
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 薬理学は、薬物が生体におよぼす影響を考究する学問であり、薬理概論の授業では、薬理作用とその機序、薬物動態、副作用・有害作用と薬物相互作用、臨床的応用、処方箋等について、極めて平易に解説・教授する。近年の情報化社会においては、一般の人も薬物について、ある程度の知識をもっている。医療分野である養護教諭や医療秘書に携わろうとする人は、薬理学全般に亘って、より広い知識と理解が世間に求められていることを認識し、これらの事柄をしっかりと学習し、身に付けることを目標とする。						
	2. 授業の内容 薬理学は、解剖学、生化学、生理学、細菌学、病理学等の基礎系医学科目と関連するばかりでなく、臨床系医学科目とも密接に関連があり、各種疾患の治療と予防に直接関連をもつ学科目として位置付けられている。ゆえに、授業では、薬理学の一般的な考え方、薬理作用とその機序、薬物の体内動態、臨床的応用ならびに副作用、毒性、薬物を併用適用した場合の相互作用に加え、幼小児、高齢者、妊産婦、病態者における薬物の作用を、生化学・生理学・細菌学・病理学的な基礎知識を背景として教授し、薬理学の概略を理解させる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 薬理学総論						
	② 薬理学総論						
	③ 薬理学総論						
	④ 与薬						
	⑤ 病原微生物・腫瘍・ウイルスに対する化学療法薬						
	⑥ 病原微生物・腫瘍・ウイルスに対する化学療法薬						
	⑦ 中枢神経系に作用する薬物						
	⑧ 中枢神経系に作用する薬物						
	⑨ 末梢シナプスに作用する薬物、ビタミンおよびホルモン関連薬						
	⑩ 心臓・血管系に作用する薬物						
	⑪ 心臓・血管系に作用する薬物						
	⑫ 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物						
	⑬ 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物、抗痛風薬						
	⑭ 体液平衡に影響する薬物、皮膚科・救急・消毒薬						
⑮ まとめ							
成績評価	筆記試験(90分で実施)に加え、レポート提出(70%)、受講態度(15%)、発表等(15%)で評価する。総合評価で、100点満点の60点以上を合格とする。不合格者には、再試験やレポートを再提出させる場合もあるが、授業に出席することで概ね修得したものとみなし、合格させる方向で進んでいる。						
参考文献等	薬理学(系統看護学講座、疾病の成り立ちと回復の促進、大賀英世、吉岡充弘著、医学書院) NEW薬理学(田中千賀子、加藤隆一編集、南江堂) 歯科薬理学(石田甫、大浦清、上崎善規、土肥敏弘編集、医歯薬出版) 使用視聴覚機器：液晶プロジェクター、大型モニター						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	221	授業科目	看護実習 (Practice nursing)			担当者	満田 ツツ江
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期 2年・前期	生活科学 生活科学	実習	2	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 看護、養護、教育に共通する概念であるケア(care)は、人間がより健康的に生きるのを援助することである。児童生徒の健康ニーズに対し適切に対処できるよう、観察力、判断力を育成し、健康生活の援助技術及び傷病の第一次的処置を修得する。						
	2. 授業の内容 看護、養護、教育に共通する概念であるケア(care)は、人間がより健康的に生きるために援助することである。児童生徒の健康ニーズに対し適切に対処できるよう、観察力、判断力を育成し、健康生活の援助技術及び傷病の第一次的処置を修得する。						
授業計画	3. 授業計画						
	1年後期			2年前期			
	①	オリエンテーション、入院時・来室時の援助			①	薬についての知識と管理	
	②	バイタルサインの測定と記録			②	医療的ケア	
	③	ベッドメイキング			③	包帯法、傷の手当て	
	④	シーツ交換と体位			④	学校における救急処置①	
	⑤	安楽法と運搬			⑤	学校における救急処置②	
	⑥	口腔内の清潔			⑥	訴えや症状に対する理解と看護①	
	⑦	身体の清潔			⑦	訴えや症状に対する理解と看護②	
	⑧	頭髮の清潔			⑧	訴えや症状に対する理解と看護③	
	⑨	食生活の援助			⑨	診察の介助	
	⑩	排泄の世話			⑩	身体の清潔(入浴・シャワー浴)	
	⑪	罨法・衛生材料の種類と作り方			⑪	経管栄養法、褥瘡の予防	
	⑫	小児看護			⑫	検査と看護	
	⑬	滅菌と消毒			⑬	リハビリテーションと看護	
	⑭	感染予防①			⑭	死後のケア 他	
⑮	感染予防②			⑮	看護用語と看護記録		
成績評価	筆記試験(90分で実施) 学期末試験の成績(70点) 受講態度(30点)						
参考文献等	テキスト: 基礎看護技術ガイド 川島みどり監修 照林社 養護教諭のための看護学 藤井寿美子他 大修館書店 参考図書: けがの種類と応急手当 少年写真新聞社						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	222	授業科目	救急処置Ⅱ (First aid)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校では、医師が常駐していないため、傷病等の第一次的処置は、養護教諭及び教諭にゆだねられている。突然の事故や傷病者に対し、観察し、適切な判断と対応ができるよう、知識と技術を修得する。						
	2. 授業の内容 傷病者を正しく救助して、医療機関を受診するまでの応急手当の基本的知識と技術、及び救助者としての心得と態度を学ぶ。 日本赤十字社の救急法を4日間の集中演習で行い「救急法救急員」の認定資格を取得する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 救急法の概要						
	② 一次救命処置(心肺蘇生法、AEDの使用法、気道異物除去)						
	③ けが 各部のけがと手当 特殊なけが						
	④ きずの手当 止血、包帯 三角巾						
	⑤ 骨折の手当 脱臼、捻挫						
	⑥ 搬送 1人で・多人数での搬送 特殊な状況での移動方法						
	⑦ 救護 災害時の心得と救護						
	⑧ 総合実技						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験及び実技試験を90分で実施 筆記試験 (50点) 実技試験 (50点)						
参考文献等	テキスト: 救急法講習教本 日本赤十字社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	223	授業科目	教育心理学 (Educational Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 ピアヘルパー必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 教育心理学とは、教育に関する様々な事象を、心理学の方法を基礎において研究している学問です。本講義では、人の発達や適応、学習のメカニズムといった事柄に関する基礎的な心理学的理解を深め、その上で学習支援や人間関係における適応の支援に関して学ぶことを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション / 教育心理学とは					
	②	発達過程 ① (発達とは何か)					
	③	発達過程 ② (知的発達)					
	④	発達過程 ③ (社会的発達)					
	⑤	個人差への対応 ① (個人差の理解)					
	⑥	個人差への対応 ② (適応とカウンセリング)					
	⑦	個人差への対応 ③ (特別支援教育のシステム)					
	⑧	学習過程 ① (動機付けと学習)					
	⑨	学習過程 ② (学習の原理)					
	⑩	学習過程 ③ (知識、スキルの獲得)					
	⑪	支援の手立て ① (学力と教育評価)					
	⑫	支援の手立て ② (個に応じた学習指導)					
	⑬	支援の手立て ③ (主体的学びの授業)					
	⑭	人間関係の理解 ① (学習集団)					
⑮	人間関係の理解 ② (教師－生徒関係)						
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト: 杉江修治(編著)「教師教育テキストシリーズ④ 教育心理学」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	224	授業科目	発達心理学 (Developmental Psychology)			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	ピアヘルパー必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ひとは一生涯をかけて成長し、変化し、発達する存在である。講義を通して、人間と発達に関するさまざまな考え(観発達)を学び、人間の心理発達の理解を図る。また、人間の一生の中で起こりうる発達の課題を学び、現代社会に生きる自分自身について洞察を深める。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 序論:人間と発達						
	② 発達の原則と発達の期定因						
	③ 発達観の変遷①前成説と先決説						
	④ 発達観の変遷②遺伝説と経験説						
	⑤ 発達観の変遷③相互作用説						
	⑥ 発達段階とは						
	⑦ 発達段階とその特徴①発達の始まり～胎児期～新生児期						
	⑧ 発達段階とその特徴②乳幼児期						
	⑨ 発達段階とその特徴③児童期						
	⑩ 発達段階とその特徴④青年期						
	⑪ 発達段階とその特徴⑤成人期～老年期						
	⑫ 各側面の発達:知覚と知能・認知・思考						
	⑬ 各側面の発達:ことばとコミュニケーション						
	⑭ 各側面の発達:情緒と意思・社会性、道徳性とパーソナリティ						
⑮ 発達をつまづきと援助							
成績評価	試験						
	筆記試験は90分で実施 試験 80% 受講態度 20%						
参考文献等	テキスト: 発達心理学 無藤隆/中坪史典/西山修 編著 ミネルヴァ書房						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時					

科目番号	225	授業科目	教育方法の研究 (Teaching Method)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 児童整頓心身の健康問題が複雑、多様化してきている現代、人間形成に必要な「生きる力」を育む保険教育を実践できる資質能力及び指導力を育成する。						
	2. 授業の内容 児童生徒の「生きる力」を育むための教育法について、課題解決学習や体験学習を取り入れた保険教育を通して考える。実際に保険便りの作成や模擬授業を行いお互いで評価し合う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 学校教育活動と教員						
	② 保健教育と学習指導案						
	③ 保健学習の内容						
	④ 学習指導案作成について						
	⑤ 模擬授業と授業研究						
	⑥ 模擬授業と授業研究						
	⑦ 模擬授業と授業研究						
	⑧ 模擬授業と授業研究						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート(100%)の提出 ・ただし模擬授業(グループ)を行う事を前提とする。						
参考文献等	参考文献は講義中に適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	226	授業科目	医療事務総論(医療秘書実務含む) (Medical coding outline)			担当者	児玉 利大
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 少子、高齢化社会へ急速に移行しているわが国において、医療を取り巻く社会環境の変革を求められる現在、患者のためのより良い医療提供と医師本来の社会的責務が達成できるよう、補佐業務を身につけ医療秘書実務士の資格を取得する。						
	2. 授業の内容 保健、医療、福祉等の社会保障は、私たちの生活にとってなくてはならないものであるが、これらは複雑多岐にわたる法律や条例で定められている。それら運用されている制度、施策を人間一生のサイクルの中で十分理解し活用できること、さらに医学及び医療技術の進歩による医療内容の向上、また国及び自治体の福祉行政の推進に伴う医療秘書業務の複雑化は、ますます専門化させることになり、そのスペシャリティにふさわしい専門知識を学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 医療事務総論の必要性と医療事務の特性						
	② 病院医療の概要						
	③ 医療事務の仕事						
	④ 医療秘書の役割と業務						
	⑤ 社会保障制度						
	⑥ 医療保険制度の概要						
	⑦ 医事関係法規						
	⑧ 医療施設の概要						
	⑨ 保険請求業務						
	⑩ 医事業務						
	⑪ 外来、入退院業務						
	⑫ 料金徴収業務、統計業務						
	⑬ 介護保険制度						
	⑭ 医療秘書としての人間関係と接遇						
⑮ 医療事務総論のまとめ							
成績評価	1. 受講態度 20%						
	2. 筆記試験 80%						
参考文献等	日本医療福祉実務教育協会監修 「医療秘書実務士選書 医療事務総論」建帛社 社会保険研究所 新訂「医療事務の手引」						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	227	授業科目	医療事務演習 I (Medical coding exercizes I)			担当者	児玉 利大
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 医療秘書実務士養成の趣旨に沿って、医療事務及び診療報酬点数の基本を短時間で学べることを目的とし、医療福祉の現場で活躍することを目指している。						
	2. 授業の内容 国民皆保険の下、社会保険制度を学び一般社会での社会保険事務、労務管理事務及び医療関係職場での医療事務、請求事務等、実務に対応できる知識を養う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 診療報酬の仕組みと診療報酬明細書						
	② 診療報酬明細書の作成と提出						
	③ 診療報酬明細書の記載の一般的事務						
	④ 医科診療報酬点数の算定 1.基本診療料						
	⑤ 医科診療報酬点数の算定 2.医学管理等・在宅医療料						
	⑥ 医科診療報酬点数の算定 3.投薬料						
	⑦ 医科診療報酬点数の算定 4.注射、処置料						
	⑧ 医科診療報酬点数の算定 5.手術、麻酔料						
	⑨ 医科診療報酬点数の算定 6.検査料						
	⑩ 医科診療報酬点数の算定 7.画像診断、リハビリテーション料						
	⑪ 医科診療報酬点数の算定 8.入院基本、特定入院料						
	⑫ 医科診療報酬点数の算定 9.入院料の算定とレセプトの作成						
	⑬ 診療報酬請求事務						
	⑭ 診療報酬明細書の総括						
⑮ 診療報酬のまとめ							
成績評価	1. 受講態度 20% 2. 筆記試験 80%						
参考文献等	日本医療福祉実務教育協会監修 「医療秘書実務士選書 医療事務総論」建帛社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	228	授業科目	社会福祉 (Social Welfare)			担当者	久永 繁夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会においては、日々の暮らしと社会福祉は切り離すことが出来ない。市民生活を送る上で、自らが生活に困った時や周りに困った人がいたときに生活を守り、安心して豊かな人生を築いていくために必要な社会福祉・社会保障制度の基礎的知識を身につける。						
	2. 授業の内容 (1) 社会福祉の現代的意義 (2) 社会福祉の法体系と実施体系 (3) 貧困問題と生活保護 (4) 高齢者福祉 (5) 障害者福祉 (6) 児童福祉 (7) 社会保障制度 (8) 社会福祉援助技術						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	社会福祉の現代的意義		(社会福祉の意義と概念)			
	②	社会福祉の現代的意義		(社会福祉の歴史)			
	③	社会福祉の法体系と行政		(社会福祉の法制)			
	④	貧困問題と生活保護		(生活保護制度等)			
	⑤	高齢者福祉		(老人福祉法と老人福祉サービス)			
	⑥	高齢者福祉		(介護保険制度)			
	⑦	障害者福祉		(障害者福祉の全体像)			
	⑧	障害者福祉		(身体障害者・知的障害者の福祉)			
	⑨	児童福祉		(少子化対策と児童福祉)			
	⑩	福児童社		(児童福祉法と児童福祉サービス)			
	⑪	社会保障制度		(年金・医療保険制度)			
	⑫	社会福祉援助技術		(対人援助の考え方)			
	⑬	社会福祉援助技術		(個別援助技術の原則)			
	⑭	社会福祉の動向と今後の展望					
⑮	まとめ(社会福祉と養護教諭)						
成績評価	筆記試験(80点) 60分のテスト、小テスト20点 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。						
参考文献等	テ キ ス ト・片山義弘／李木明德／編著「社会福祉」保育ライブラリー 北大路書房 ・社会福祉六法 ミネルヴァ書房 そ の 他 ・適宜ビデオとプロジェクターを使用する。 ・社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。						
備 考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	229	授業科目	情報処理演習 (Ms-Windows&Ms-Office Practice)			担当者	有馬利加子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 Office-Soft (主にWord&Excel&PowerPoint)を活用して、ビジネス文書や実習で利用できる文書作成、Word・Excel連携の応用文書作成、PowerPointによるプレゼンテーション(実習報告)までを目指しています。						
	2. 授業の内容 ①「Word・Excel・PowerPoint」基本操作 ②ビジネス文書(基本・応用)作成 ③「Word・Excel」連携活用演習 ④総合演習 ⑤インターネット活用 ⑥「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション(実習報告) (e・ラーニング「Moodle」利用)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①「Word」基礎演習						
	②「Excel」基礎演習						
	③「Internet」活用①						
	④「Internet」活用②(mail)						
	⑤「実習」のための文書作成演習						
	⑥「実習」のためのインターネット活用演習						
	⑦「Word」活用演習(ビジネス文書・表・図形等)						
	⑧「Excel」活用演習(複合課題)						
	⑨総合演習(Office-Soft連携等)						
	⑩「PowerPoint」基礎復習①						
	⑪「PowerPoint」基礎復習②						
	⑫「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」作成①						
	⑬「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」作成②						
	⑭「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」発表①						
⑮「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」発表②							
成績評価	○演習時における課題作成等の提出・受講態度等の総合評価で行います。 (レポート等の提出状況:50%、受講態度(出席点を含む):50%)						
参考文献等	○参考(演習)資料:演習中配付 ○使用機器:パソコン、液晶プロジェクター						
備考							
	オフィスアワー	随時(西館418研究室)出来れば、事前連絡で確認をお願いします。					

科目番号	230	授業科目	精神保健 (mental health)			担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代日本はストレス社会と言われ、ストレスに関係する心の病(精神疾患)が急増している。この科目では、ストレス及びストレスに関係する疾患や統合失調症などの精神疾患について、その基礎を理解し、ストレス対処法や疾患への対応法についても理解を深める。						
	2. 授業の内容 精神医療の歴史や現状、精神症状、生物学的な基礎、ストレスとは何かなどの総論と統合失調症、気分障害、不安障害、発達障害、人格障害、薬物依存症などの各論についての基礎を学び、看護や対応についても理解を深める。毎回小テストを行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 精神医療の歴史と現在						
	② 精神機能の生物学的基礎						
	③ 精神症状1						
	④ 精神症状2						
	⑤ ストレスと対処法						
	⑥ 統合失調症						
	⑦ 気分障害						
	⑧ 不安障害1						
	⑨ 不安障害2						
	⑩ 発達障害						
	⑪ 認知症						
	⑫ 人格障害						
	⑬ 薬物依存症						
	⑭ アルコール依存症						
⑮ 心身症							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ~ 研究室: 408 但し、2名以上					

科目番号	231	授業科目	疾病学 (disease control)			担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 疾病すなわち病気について勉強する。疾病とは何かから始めて、疾病の総論を数回述べる。概要の理解が大方の学生諸君に行渡れば、1年次の病理学で学習した事項を基礎に、実地的臨床を論述する。その際、看護における重要事項を網羅したい。						
	2. 授業の内容 実地臨床医学的観点から、各疾病の概要を述べ、人体に及ぼす影響につき検討・考察する。具体的事例を挙げ、わかりやすい授業にしたい。すなわち高適な理論より、日常的事項を重視する。総論から入り、10の器官系を中心に各論を進めたい。毎回小テストを行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 疾病学とは？						
	② その種類						
	③ 日常遭遇する疾病						
	④ 各論 1 循環						
	⑤ 2 呼吸						
	⑥ 3 消化						
	⑦ 4 内分泌						
	⑧ 5 神経						
	⑨ 6 精神						
	⑩ 7 生殖						
	⑪ 8 泌尿						
	⑫ 9 骨・筋肉						
	⑬ 10 感覚						
	⑭ 11 皮膚						
⑮ 12 免疫							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等	病理学・堤 寛・医学芸術社 養護教諭のための看護学・藤井寿美子・大修館書店						
備考							
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ~ 研究室：408 但し、2名以上					

科目番号	232	授業科目	環境衛生学 (Environmental hygienics)			担当者	村山恵美子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人間が健康で安心・安全な生活をおくるためには、先ず、その生活する環境が健全でなければならないが、最近その健全性を脅かす様々な環境問題が生じている。この講義では、地球規模から身近な生活環境にいたる環境汚染の実態に目を向け、環境問題を現状認識し理解することを目的とする。						
	2. 授業の内容 地球環境規模から、生活環境、さらには食品環境まで幅広く現状を認識し、その問題点を探り、健全な生活を営むにはどうすれば良いかを講義をとおして考える。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	大気(大気汚染)					
	②	大気(地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨)					
	③	エネルギー(現在のエネルギー、今後のエネルギー)					
	④	廃棄物とリサイクル					
	⑤	水(水質汚染、浄化処理、水の循環)					
	⑥	土壌(土壌汚染、物質の循環)					
	⑦	化学物質による環境汚染と人体影響(重金属、有機ハロゲン化合物、有機塩素系化合物等)					
	⑧	化学物質による環境汚染と人体影響(内分泌攪乱物質、ダイオキシン等)					
	⑨	食品汚染と安全性の確保					
	⑩	寄生虫症					
	⑪	自然毒					
	⑫	食品添加物					
	⑬	新しい食品の安全性問題(遺伝子組み換え食品、放射線照射食品、食品表示等)					
	⑭	環境対策調査・報告①					
⑮	環境対策調査・報告②						
成績評価	筆記試験(60分)70%、調査報告プレゼンテーション20%、小試験(随時)10%						
参考文献等	教科書：篠田純男他共著「環境衛生の科学 第2版」三共出版 参考書：中村好志・西島基弘編「食品安全学」同文書院 中央労働災害防止協会編「新衛生管理上(第一種用)」 液晶プロジェクター、VHS、DVD使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	233	授業科目	運動生理学 (Sports Physiology)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するかを明らかにする。学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、これらの諸器官の働き、変化をウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して解説することで理解を深められるようにする。						
	2. 授業の内容 身体のさまざまな器官、機能のうち、身体組成、呼吸、循環、筋肉、神経などについて解説する。また、諸器官、機能がどのような働きを示し、運動による影響など合わせて解説する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)						
	② 運動と骨格筋(収縮メカニズムと筋肉のタイプ、運動による筋肉の適応)						
	③ 運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動の種類、その効果)						
	④ 運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動の種類、その効果)						
	⑤ 運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)						
	⑥ 運動と循環(運動による循環系への適応、スポーツ心臓)						
	⑦ 運動と神経(運動と技能の上達、神経系の役割)						
	⑧ 運動と骨(骨粗しょう症、運動の効果)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)						
参考文献等	テキストは使用しない(毎回、印刷資料を配布する) パワーポイントを使用 石井喜八 他:運動生理学概論、大修館						
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	234	授業科目	臨床看護実習(学外) (Practice nursing in Hospital)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 病院における看護の実際を参観、体験することにより、養護教諭に必要な学校における看護能力(知識・技術・態度)と実践力を育成する。養護教諭として医療機関と連携していく上で必要な病院の組織・機構とその機能を理解させる。						
	2. 授業の内容 それぞれの病院の指導方針に従って参観・実習する。特に、学校において必要な観察・清潔・技術をしっかり身につけ、責任をもって実践する態度を養う。実習の内容は、実習先によって異なるが見学または指導者とともに実務を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション(病院機構と看護組織・看護体制)					
	②	臨床における観察と記録					
	③	看護におけるコミュニケーション					
	④	日常生活の援助					
	⑤	訴えや症状に対する理解と看護					
	⑥	母性の看護					
	⑦	小児の看護					
	⑧	救急法					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	臨床指導者の評価 (70点) 受講態度、提出物 (30点)						
参考文献等	テキスト: 基礎看護技術ガイド 川島みどり監修 照林社 参考図書: 養護教諭のための看護学 藤井寿美子他 大修館書店						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	235	授業科目	臨床看護実習指導 (Guidance about practice nursing in Hospital)			担当者	満田 ツツ江
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 臨床看護実習は養護教諭の専門性の向上を図るために行われる。その意義・目的を十分理解し、より高い実習効果をめざす。同時に、実習成果を児童生徒の保健管理や健康教育に活用するための実践的能力を育成する。						
	2. 授業の内容 実習機関及び病院組織について理解し、実習生としてまた、社会人としての心得を習得する。さらに、記録物の記録の仕方、実習中の態度、事前訪問時の諸注意等について学習し、養護教諭をめざす学生としての臨床看護実習のあり方を模索する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 臨床とは、病院について(病院の形態と組織)						
	② 診療部門と看護部門						
	③ 実習資料・記録物等の配布と諸注意						
	④ 臨床看護実習の意義・目的						
	⑤ 実習上の心得と実習連絡会						
	⑥ 臨床看護実習事前訪問指導						
	⑦ 実習記録の書き方						
	⑧ 実習事後についての指導						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート(70点) 受講態度(30点)						
参考文献等	テキスト: 養護教諭のための看護学 藤井寿美子他 大修館書店						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	236	授業科目	教育制度論 (Educational Law System)			担当者	池田 哲之
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 わが国の学校教育制度は、明治5(1872)年の『学制』の頒布来、移り変わる社会の中で絶えざる変化を遂げながら今日にいたっている。ところで、『学制』の頒布から十数年の間を「第一の教育改革」の時代とするなら、大東亜・太平洋戦争終結後には「第二の教育改革」期があり、現在は「第三の教育改革」の時代であるともいわれている。本講義では、主に、明治維新时期から現在におよぶわが国学校教育制の変遷を通観し、時代・社会と学校教育制度相互の関連性について考察する。このことから、「学校教育」とは、きわめて人為的・人工的な営為であるという事実を理解したい。またとくに、改正教育基本法成立の経緯と学校教育にもたらす同法の作用に関しては詳しく講ずる予定である。						
	2. 授業の内容 学校教育制度を理解するには、それを支える関係法令の知識だけでなく、同時に、それら法令がなぜ定められるにいたったのか、という法令制定の背後にある社会・政治状況に対する的確な理解が不可欠である。この講義では、近代国家としてのわが国の軌跡を時系列的に押さえつつ、社会と教育法制のあるべき関係を探ってゆく。また教員採用試験受験希望者のため、適宜、教員採用試験問題の紹介もおこなってゆきたい。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 幕末期の教育						
	② 「学制」の頒布－近代学校教育制度の萌芽－						
	③ 諸学校令と教育勅語						
	④ 大正期の教育動向						
	⑤ 昭和戦前・戦中期の教育体制						
	⑥ 占領下の教育改革Ⅰ－4大教育改革指令を中心に－						
	⑦ 占領下の教育改革Ⅱ－米国教育使節団報告書と教育刷新委員会－						
	⑧ 教育基本法の制定						
	⑨ 戦後教育改革諸法－学校教育法を中心に－						
	⑩ 高度経済成長下の教育政策						
	⑪ 臨時教育審議会－戦後教育体制の転換－						
	⑫ 子ども達の変容						
	⑬ 教育改革国民会議－旧教育基本法への懐疑－						
	⑭ 改正教育基本法の成立						
⑮ 現代教育の諸課題－親学、児童虐待、教免更新制等－							
成績評価	定期試験(60分)分に85点、平常点(受講姿勢・態度等)分に15点を配点し、その合算で評価する。受講態度のかんばしくない者は、注意の程度・回数により減点する場合がある。						
参考文献等	教員作成のレジュメを、ほぼ毎時配布する。 テキストとして『改訂版 現代教育本質論』高橋浩・金田健司編、池田哲之ほか著(学文社)を指定する。						
備考	オフィスアワー	随時。鹿児島県ほかの教員採用試験受験を考える者の相談・指導には、情報提供を含め積極的に応じる。					

科目番号	237	授業科目	教育課程の研究 (Teaching Method)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校において変性する教育課程について学び、児童生徒および地域や学校の実態等を考慮して各学校独自の特色を生かした教育計画であることを学ぶ						
	2. 授業の内容 学習指導要領が改訂される際の、教育課程の変性絵、実施について、一般方針や基本的事項および各教科等の目標や内容および指導計画の作成と内容の取り扱いなどがどのように変わったかを、最新の改訂を中心に、小学校指導要領・注が高指導要領のそれぞれについて進めていく。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 教育課程と学習指導要領						
	② 教育課程の基準と法令						
	③ 教育課程編成の原則及び一般方針						
	④ 各教科の目標と内容の取扱い						
	⑤ 授業時数及び指導計画の作成						
	⑥ 道徳・特別活動・総合的な学習の時間						
	⑦ 学校保健・安全に関すること						
	⑧ 人権・同和教育に関すること						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(70%)、受講態度(30%)						
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省 中学校学習指導要領 文部科学省						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	238	授業科目	保健科教育法 (Teaching Method for Health education)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校での健康教育の基礎の上に立ち、家庭・近隣・学校・地域社会など、生徒が身近な社会の生活における自己や他人の健康・安全についての基礎的な理解を深め、健康生活の実践に必要な習慣・態度・能力・技能を養い、健康生活を自主的に実践できるような指導法、教育法について学ぶ。						
	2. 授業の内容 中学校保健体育における保健編に示されている内容について(下記授業計画参照)、学習させるとともに学生によるプレゼンテーションも交えながら、教育法、指導法に関する技能、技術の向上をはかる。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	心身の発達と心の健康(体の発育・発達、呼吸・循環機能の発達)					
	②	心身の発達と心の健康(性機能の成熟、欲求やストレスへの対処)					
	③	健康と環境(快適な環境の条件、水とわたしたちの生活)					
	④	健康と環境(環境の汚染と保全)					
	⑤	傷害の予防(傷害の原因と防止、交通事故の防止)					
	⑥	傷害の予防(自然災害に備えて、応急処置の意義と手順)					
	⑦	健康な生活と病気の予防(健康の成り立ち、生活習慣病とその予防)					
	⑧	健康な生活と病気の予防(喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防)					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	定期試験結果(50%)および授業中の学生プレゼンテーションなど(50%)をもとに評価する。						
参考文献等	中学校「保健体育」テキスト、学習ノート、中学校学習指導要領						
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	239	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)			担当者	松元 理恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会の変容の中で、幼児、児童、生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向もみられません。また近年の子どもの健康に与える家庭の教育力や地域の機能の低下等を概観し、教師としてそれらの子ども・家族・関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学びます。						
	2. 授業の内容 教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を学びながら、問題を抱える子どもの心理状態を把握・理解し、その具体的ななかかわり方について話し合います。また、自己理解や他者理解を深めるエクササイズを実施し、その経験をこれからの相談活動に役立てます。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教育相談の理論と方法						
	② 現代生きる子ども達～子どもの行動をどう理解するか						
	③ 子どもの発達理解と相談・支援～乳児期・幼児期						
	④ 子どもの発達理解と相談・支援～学童期・思春期						
	⑤ 子どもの不適応行動とその心理～いじめに対する支援手順						
	⑥ 子ども不適応行動とその心理～集団不適応、非社会的行動(不登校等)に対するかかわり方						
	⑦ 子ども不適応行動とその心理～情緒障害、反社会的行動(逸脱行動等)に対するかかわり方						
	⑧ 保護者への対応～親子の関係づくり、「親育ち」のための発達支援						
	⑨ 保護者への対応～保護者の要望と方針との間で						
	⑩ 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり						
	⑪ 子どもの発達とアセスメント						
	⑫ 虐待について(身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待)						
	⑬ 危機に直面した子どもと心のケア						
	⑭ 教育相談の具体的な方法～カウンセリングの基本事項、傾聴(ロールプレイング)						
⑮ 社会資源の活用～関係機関を知る							
成績評価	筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	240	授業科目	養護実習事前事後指導 (Guidance about before and after practice yogo teacher)			担当者	満田 タツ江
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実習生としての心構えや、実習にあたって必要な、社会人としての常識や礼儀について指導し、さらに感謝の気持ちをもって事後処理のできる態度を養う。また、学生は実習校の教職員に対しては「実習生」であるが、子どもに対しては「養護教諭」であり指導者であるという立場の自覚を促す。						
	2. 授業の内容 養護実習の実際面に即した指導を行う。事前訪問や、実習上の諸注意、実習中の事例や実習連絡会における指導者からの要望等について指導し、書類の書き方の実務も行う。さらに実習終了後は実習先へ、心のこもったお礼状を書く。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 養護実習の心得						
	② 事前訪問と実習オリエンテーション						
	③ 記録物等の記録及び提出について						
	④ 保健室来室者への対応						
	⑤ 保健指導について						
	⑥ 学校保健事務						
	⑦ 養護実習事後指導						
	⑧ 実習体験発表						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートの提出状況 (70点)						
	受講態度 (30点)						
参考文献等	プリント配布						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	241	授業科目	養護実習(学外) (Practice yogo teacher in school)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	3	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 養護実習(臨地実習)は、専門知識と技術の集大成である。教育を志す者としての自覚と積極的な姿勢及び養護教諭としての資質と実践力を育成する。さらに、学校全体の教育活動に参加することでその中の養護教諭の特性やあり方を多様な視点から考える。						
	2. 授業の内容 観察・参加・実習の三領域にわたり、協力小学校、協力中学校において行う。実習内容や方法については、それぞれの学校の指導方針に従う。従って実習生の側から学ぼうとする意欲と姿勢によって学ぶ量と成果が違ってくる。具体的には、学校保健活動における養護教諭としての役割の全てを体験する内容である。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	学校の概要			⑰	学校給食について	
	②	学校保健組織活動と学校保健委員会			⑱	保健室における器材、薬品等の管理	
	③	学校保健安全計画に関する事項			⑲	学校医・歯科医・薬剤師との連携について	
	④	保健室経営について			⑳	学校保健関係機関との連携について	
	⑤	養護教諭の執務計画とその展開			㉑	担任・家庭・地域との連携について	
	⑥	健康観察と来室者への対応					
	⑦	健康診断の準備・実施・事後措置					
	⑧	健康相談と保健指導(個別)					
	⑨	疾病異常者の救急処置と必要な看護					
	⑩	保健指導と保健学習					
	⑪	環境衛生の点検と管理					
	⑫	安全管理と安全指導					
	⑬	保健室登校者への支援と健康相談活動					
	⑭	日本スポーツ振興センターに関する事務処理					
	⑮	児童生徒の保健活動の指導について					
⑯	諸帳簿、記録簿の記載、処理保管について						
成績評価	協力小学校、協力中学校に設けられた評価委員会の評価 (70点) 受講態度、提出物 (30点)						
参考文献等	テキスト: 新版・養護教諭執務の手引き 監修 植田誠治 石川県養護教育研究会編 けがの種類と応急手当 少年写真新聞社 参考図書: 新訂版・学校保健実務必携 学校保健・安全実務研究会 第一法規						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	242	授業科目	教育実習(保健)事前事後指導 (Guidance about before and after practice teacher (health) in School)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保健科教育の目標や課題について学習し、教育実習への基本的な心構えを養う。実習生としての心得・立場・勤務・態度・義務等について指導し中学校教諭をめざす気持ちを明確にさせる。						
	2. 授業の内容 教育実習に向けて事前訪問から実習内容・実習後の指導にいたるまでを行う。特に、保健体育科保健分野の教材研究を含む学習指導計画の作成とその展開は重点的に行い、指導力の向上を目指す。実習にあたっての抱負・問題意識・課題をまとめ事前訪問時実習校に提出する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教育実習の意義						
	② 教育実習の心得						
	③ 教育実習の内容と方法						
	④ 教材研究と学習指導案の作成、点検						
	⑤ 教材研究と学習指導案の作成、点検						
	⑥ 模擬授業による授業研究						
	⑦ 模擬授業による授業研究						
	⑧ 教育実習の報告と反省						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートの提出状況 (70点) 受講態度 (30点)						
参考文献等	教科書： 中学校保健体育 学研 参考図書： 中学校学習指導要領 保健体育編 文部科学省						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	243	授業科目	教育実習(保健) (Practice teacher in School (health))			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	4	選択	中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 教育現場で実際に教育活動を体験することによって、これまで学習した知識と指導法をさらに具体的に理解し、教育者としての自覚と資質の向上を目指す。同時に教育とは何か、教員とは何かを実践的にみつめる機会とする。						
	2. 授業の内容 教育実習は、学校教育の全体に参加する。保健分野の指導とともに教育活動の全てを参観・実践し、教員の様々な役割を学習する。また、教育についての知識や技術はもちろん、生徒とのふれあいの中から教育に対する情熱や誠意を含む全人格についても考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教師としての心構え、服務規律等						
	② 学校経営と教育計画						
	③ 生徒指導の概要と教育相談						
	④ 進路指導の概要と中学生の進路指導						
	⑤ 保健部(保健・安全)の概要と活動への参加						
	⑥ 学級担任と学級経営、学級指導						
	⑦ 学習指導案の作成と教材研究						
	⑧ 授業参観(1年～3年)						
	⑨ 授業実習と授業研究						
	⑩ 道徳指導の参観						
	⑪ 特別活動への参加						
	⑫ 総合的な学習の時間への参加						
	⑬ 体育・健康に関する指導						
	⑭ 特別支援教育への参加						
⑮ 職員朝会や職員研修会等、教育職員としての活動への参加							
※5～15は実習期間中可能な限り繰り返し実習する。							
成績評価	実習校の評価委員会による評価 (70点) 受講態度、提出物 (30点)						
参考文献等	参考図書：中学校学習指導要領 総則編 文部科学省 中学校学習指導要領 保健体育 文部科学省 教科書： 中学保健体育 学研						
備考							
	オフィスアワー	随時(満田研究室)					

科目番号	244	授業科目	医療秘書実務実習(学外) (Practice medical secretary and medical office work in Hospital)			担当者	胸元 孝夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 病院での実務を見学・実習し、病院の業務の流れ、医事部門の実務の現状と病院における医療事務職の役割を知り、受付業務や秘書実務についての実践力を育成する。医療秘書実務士は、医療秘書や医療事務としての働きに加え福祉施設でも役立つ人材を目指している。						
	2. 授業の内容 それぞれの病院の指導方針に従い、実際に医療事務や秘書実務の体験を行う。特に接遇マナーについては、その病院の印象にかかわるので、積極的に指導を受ける。さらにコメディカルスタッフと患者との間のコミュニケーターとしての役割も学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション						
	② 受付事務						
	③ 診療報酬請求事務・医事業務						
	④ 医局・看護部門での秘書業務						
	⑤ 病歴管理						
	⑥ 病棟クラーク						
	⑦ 診療部門での医療サポーター						
	⑧ 患者さんとのコミュニケーション						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習先からの評価 (80点) 受講態度 (20点)						
参考文献等	テキスト: 医療秘書実務 建帛社 医療事務演習 建帛社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	245	授業科目	医療事務演習Ⅱ (Medical coding exercises Ⅱ)			担当者	胸元 孝夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 医療業務の効率化や患者サービスの向上のために、電子カルテ導入の医療機関が増えている。従って、医療秘書実務実習に向けて、実習指導とともにカルテ入力の基本を指導する。						
	2. 授業の内容 実習機関及び病院組織について理解し、実習生としての心得を修得した上で、事前訪問を行うまでの過程を学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 臨床とは 病院について(病院の形態と組織)						
	② 医事部門と医療の電子化(オータリングシステム・電子カルテ)						
	③ 電子カルテ入力演習(1)						
	④ 電子カルテ入力演習(2)						
	⑤ 医療秘書実務演習資料・記録の配布と諸注意						
	⑥ 実習上の心得						
	⑦ 実習指導(1)						
	⑧ 実習指導(2)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート (70点) 講義態度 (30点)						
参考文献等	テキスト: 医療秘書実務 建帛社 医療事務演習 建帛社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	246	授業科目	家族関係論 (Family Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ・社会の動きにともなう家族の変化を理解する。 ・家族を多角的に捉える視点を身につける。 ・教育現場や医療現場で状況に応じた柔軟な対応ができる態度を身につける。						
	2. 授業の内容 この授業では、前半で、家族に関わる出来事や社会的事象について、普段、一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉えることを通して、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す作業を行う。そして後半では、主に子どもや高齢者をめぐる家族関係や社会情勢、制度など、教育職や保健・医療職とかかわりが深い事項を学ぶ。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 家族とは何か—アンケートからの考察						
	② 家族の特性・定義						
	③ 家族の類型						
	④ 家族の変動(1) 家族と全体社会の変動・家族変動の諸側面						
	⑤ 家族の変動(2) 産業化と戦後家族の変動						
	⑥ 家族の変動(3) 家族変動の行方						
	⑦ 家族周期と親子関係						
	⑧ 子どもの社会化と親子関係(1)						
	⑨ 子どもの社会化と親子関係(2)						
	⑩ 高齢期の親子関係(1)						
	⑪ 高齢期の親子関係(2)						
	⑫ 少子化と子育て支援(1) 少子化						
	⑬ 少子化と子育て支援(2) 子育て支援						
	⑭ 多様化する家族						
⑮ 授業のまとめ、質疑							
成績評価	筆記試験(50%)※筆記試験は60分で実施、 レポート(40%) 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 木下謙治ほか編『新版 家族社会学—基礎と応用』九州大学出版会 2008年 参考文献 井上眞理子編『現代家族のアジェンダー—親子関係を考える』世界思想社 2004年 厚生労働省『子ども・子育て白書』ほか授業中に紹介 一部視聴覚教材(DVD)使用						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	月・火・金曜日 随時(研究室)					

科目番号	247	授業科目	調理実習 (Practice of Cooking)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	実習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 食生活を健康的に営むために、科学的・合理的な基礎知識にもとづき、日本料理,西洋料理,中国料理の各様式を取り入れ、献立立案から食卓までの諸要素についての的確にとらえられるようにする。さらに、健康で楽しく正しい食生活のあり方について、実践力の育成を目指す。						
	2. 授業の内容 調理の基本操作から、栄養面を考えた献立について、日本料理,西洋料理,中国料理の各様式別に特徴を捉えた実習を行う。また、郷土料理や正月料理などの行事食を取り入れ、食文化についても学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 調理実習の心得と諸注意						
	② 器具の特徴と扱い方, 計量の方法, 味覚検査						
	③ 日本料理 ①						
	④ 日本料理 ②						
	⑤ 西洋料理 ①						
	⑥ 西洋料理 ②						
	⑦ 日常食の献立作成						
	⑧ 中国料理 ①						
	⑨ 中国料理 ②						
	⑩ 郷土料理						
	⑪ 正月料理						
	⑫ 日本料理 ③						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度40%・実習レポート40%・課題レポート20%の総合評価						
参考文献等	参考文献：食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	248	授業科目	住環境学 (Residential Environment)			担当者	古川 恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 高齢者や障がい者の生活空間も含めて、身近な環境としての住宅内部空間から近隣地域あるいは都市に至るまでの住環境について理解することを目標とする。						
	2. 授業の内容 住生活論の内容を基礎として、今後整備すべき高齢者や障がい者にとって住み心地のよい近隣コミュニティ、まちづくりを考える。またシルバーハウジング、グループホーム等の多様な住まい方について述べ、現在注目されているシックハウスの問題や環境共生についても実例を紹介しながら講義する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 住まいに必要な環境調整： 温熱環境・空気環境						
	② 光環境・音環境住まいの設備						
	③ アレルギーやシックハウス現象をおこさない住まい						
	④ エコスクエア見学						
	⑤ 住まいの構造・材料－風土と構造・構法、環境調整材料等						
	⑥ 法と住宅－日常生活関連の建築基準法						
	⑦ 都市計画－用途地域、建築協定						
	⑧ 安心・安全の住まい						
	⑨ 地域生活とコミュニティ－過疎・高齢化進展地域における高齢者の住環境						
	⑩ 地域生活とコミュニティ－高齢者住宅のあり方、生活施設						
	⑪ 県民交流センターでの研修－モデルハウス、福祉機器、福祉用具						
	⑫ 地球に優しいエコ住宅						
	⑬ 高齢化対応住宅リフォームとは						
	⑭ 自宅を見直す						
⑮ 個室の計画							
成績評価	・レポート(90%)、受講態度(10%)による。						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：中根芳一編／私たちの住居学／理工学社/2006年 ・プリント資料配布 ・パワーポイント・DVD使用 						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー						

科目番号	249	授業科目	人類学 (Anthropology)			担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人類学は、「発達した文化を持つ生物種としての人類」を総合的に研究する学問であり、ヒトとは何かを科学的に偏りなく、理解することを目標としている。言い換えれば、人類の本質(他の生物種との共通性と異質性、人類の独自性・特質)、変異(集団や個体ごとの違い。ばらつき、およびその意味)、由来(起源と進化・変遷)を対象とし、それらを明らかにすることが人類学の目的であり、目標である。						
	2. 授業の内容 具体的には、過去および現在の人類の解剖・生理・発育・運動機能・遺伝・行動・生態・文化、地球における人類の出現と変遷に関わる場所・時代・環境など、また、それらに関する人類と近縁な動物との比較などについて講義する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① はじめに～人間とはなにか～						
	② ヒトの生物学的位置づけ						
	③ ヒトの生物学的位置づけ						
	④ ヒトの生物学的位置づけ						
	⑤ ヒトの生物学的位置づけ						
	⑥ 人類の600万年の歴史						
	⑦ 人類の600万年の歴史						
	⑧ 人類の600万年の歴史						
	⑨ モンゴロイドの拡散						
	⑩ モンゴロイドの拡散						
	⑪ 日本人の起源						
	⑫ 日本人の起源						
	⑬ 日本人の起源						
	⑭ 日本人の起源						
⑮ 日本人の起源							
成績評価	レポート(100点)						
参考文献等	参考文献 : 「史話・日本の古代(第1巻)日本人はどこから来たかー日本文化の深層」 植原和郎編 作品社 2003 : 「人間史をたどるー自然人類学入門ー」片山一道他 朝倉書店 1996 : 「日本人になった祖先たち」篠田謙一 NHK出版 2007 : 「アフリカで誕生した人類が日本人になるまで」溝口優司 ソフトバンククリエイティブ 2011 : 「骨考古学からみた蝦夷・隼人」瀧川渉編 同成社 2012						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	250	授業科目	健康管理概論 (health and behavior)			担当者	胸元 孝夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免必修 第1種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校現場や一般の職場における健康管理の基礎を理解できることが目標である。健康についての概念と健康管理についての最近の考え方を理解し、さらに、職場の衛生管理についても理解を深める。養護教諭や衛生管理者としての職務を行うための必修科目である。						
	2. 授業の内容 健康についての総論と職場衛生管理について学習する。労働衛生管理は、「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」の3管理を核にしている。従ってこの3管理について学習し、労働安全衛生法で定められた労働衛生に関する事項を修得する。毎回小テストを行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 健康問題の概観、生活習慣と健康						
	② 労働衛生管理とは						
	③ 衛生管理の進め方①						
	④ 衛生管理の進め方②						
	⑤ 作業環境要素と職業性疾病①						
	⑥ 作業環境要素と職業性疾病②						
	⑦ 作業環境管理①						
	⑧ 作業環境管理②						
	⑨ 作業管理						
	⑩ 健康管理①						
	⑪ 健康管理②						
	⑫ 心とからだの健康づくり						
	⑬ 快適職場づくり						
	⑭ 労働衛生教育						
⑮ 衛生管理の具体的な進め方							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等	テキスト:衛生管理・上 第一種用 中央労働災害防止協会						
備考							
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ~ 研究室:408 但し、2名以上					

科目番号	251	授業科目	公衆衛生学 (Public Health)			担当者	波多野 浩道
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人間の健康擁護のための学的体系とその実践を教授し、次の目標を達成する。 1) 対象の認識から出発し、平均人的個体概念のみでない集団概念を理解する 2) 健康そのものに指向した体系として理解する 3) 疫学・保健統計の基本を修得する 4) 公衆衛生リテラシーを獲得する						
	2. 授業の内容 講義により、人間の健康擁護のための学的体系つまり公衆衛生学とその実践つまり公衆衛生を理解する上で、基本となる疫学方法論の修得および保健統計の読み方、主要な概念を修得する。その上で、過去に起こった公衆衛生上の出来事や現在のトピックを素材に、養護教諭等の保健医療従事者にとって必要な公衆衛生リテラシーを獲得できるように、講義以外に、グループワーク、テーマ別ディベートを行なう。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 公衆衛生学概論1:ヒ素ミルク事件と丸山博、公衆衛生の定義						
	② 公衆衛生学概論2:予防の概念と健康転換						
	③ 疫学1:Snow、記述疫学						
	④ 疫学2:分析疫学、介入疫学(高木兼寛の業績)						
	⑤ 保健統計1:国民衛生の動向より、人口静態、人口動態、生命表						
	⑥ 保健統計2:健康指標とヘルスケアシステム評価のための指標						
	⑦ 環境保健1:公害と生態学的環境論						
	⑧ 環境保健2:地球環境保健とリスクコミュニケーション						
	⑨ 母子保健・学校保健						
	⑩ 成人・老人保健						
	⑪ 産業保健、精神保健						
	⑫ 感染症対策と健康危機管理						
	⑬ 公衆衛生行政と健康づくり施策						
	⑭ 関心のあるテーマによるディベート						
⑮ 医療制度(含介護制度)と制度改革							
成績評価	レポート(40点)、筆記試験60分(60点)で評価する						
参考文献等	○ テキスト 国民衛生の動向(厚生省の指標臨時増刊2013年8月31日発行) ○ 使用視聴覚機器:液晶プロジェクター(含PC接続)、ビデオ						
備考							
	オフィスアワー	メールで対応 hatano@health.nop.kagoshima-u.ac.jp					

科目番号	252	授業科目	疾患看護学 (disease nursing)			担当者	胸元 孝夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 医療の中で、治療効果を上げるために、看護業務は重要な位置を占める。看護師はいつも患者さんのそばにいて、患者さんやその家族の支援、疾病についての教育、予防などを担当する。また、医師の診療の補助を行う場合もある。これらの業務を行うためには、疾患に対する深い知識理解が必須である。この科目では、各疾患に対する知識を深め、さらにその看護について理解を深めることが授業の目標である。						
	2. 授業の内容 病理学で習得した疾患の概念を基礎に、臨床的視点から授業をすすめる。視聴覚材料を積極的に取り入れ、各疾患を理解しやすくし、どのように対応すべきかを講義する。患者さんの支援、教育、予防などに焦点を当てた講義を行う。毎回小テストを行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 看護学とは						
	② 疾患の基礎						
	③ 疾患に及ぼす看護学の影響						
	④ 疾患と看護者のかかわり						
	⑤ 疾患の概要						
	⑥ 各論 循環						
	⑦ 呼吸						
	⑧ 消化						
	⑨ 内分泌						
	⑩ 生殖・泌尿						
	⑪ 骨・筋						
	⑫ 神経						
	⑬ 感覚						
	⑭ 免疫						
⑮ 医学における看護学							
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(出席、小テスト) 40%						
参考文献等	アーネステイン・ウイーデンバック・臨床看護の本質・現代社						
備考							
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ~ 研究室 : 408 但し、2名以上					

科目番号	253	授業科目	道徳教育の研究 (A Study of Moral Education)			担当者	小柳 正司
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。						
	2. 授業の内容 ①学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する。 ②「道徳の時間」の役割と意義について、理解する。 ③栄養教諭の立場から見た道徳指導の課題について、理解する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 導入						
	② 小学校の道徳授業のビデオを見る。						
	③ 道徳授業の特色について、グループで話し合う。						
	④ 道徳教育がどうおこなわれているか、資料に基づき現状を知る。						
	⑤ 自分たちが受けてきた道徳教育についてグループで話し合い、道徳教育の課題を探る。						
	⑥ 学校における道徳教育の仕組みを、学習指導要領に基づいて、理解する。						
	⑦ 「道徳の時間」の意義について、実践例(ビデオ)を見ながら、グループで考察する。						
	⑧ 道徳授業の展開の特色、特に「価値の内面化」について理解する。						
	⑨ 読み物資料の読み込みと分析を試みる。						
	⑩ いのちの授業の実践をビデオで見る。						
	⑪ 生命尊重の精神を育てるための学校の取組みについて理解する。						
	⑫ 食育の課題について、ビデオを見ながらグループで話し合う。						
	⑬ 養護教諭の職務と道徳教育との関係について、グループで話し合う。						
	⑭ 小論文作成。						
⑮							
成績評価	グループ討議などの参加・貢献度 (50%) 小論文 (50%)						
	参考文献等						
備考	参考文献:『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省) ビデオ						
	オフィスアワー						

科目番号	254	授業科目	特別活動の研究 (To-learn-by-doing-theory)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は養護教諭免許、栄養教諭免許の必修科目である。これらの教諭にとって教科外の特別活動は非常に重要なものである。特別活動をどのように各自の教育活動の中に位置づけるかについて一定の考えを得ることを目標とする。						
	2. 授業の内容 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。本講義では、学習指導要領に常に依拠しながら、子どもの調和的な発達に特別活動がどのように関わり、どのように指導していくかを考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 特別活動とは？－その変遷、概略的内容						
	② 特別活動とは？－特別活動で望まれるもの						
	③ 小中高学校学習指導要領の比較						
	④ 学級活動について－その内容と事例研究						
	⑤ 生徒会活動について－その内容と事例研究						
	⑥ 学校行事について－具体的な学校行事とその事例研究						
	⑦ 特別活動の新しい実践課題と具体策						
	⑧ まとめ						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	255	授業科目	生徒指導 (Student Counseling)			担当者	宮里 新之介
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 生徒指導は、全生徒を対象にして一人ひとりのよりよき人格の発達を目指すとともに、学校生活がより充実したものになるようにするための教育活動です。本講義では、心の発達を視点にして、人格の発達や、社会的適応を促す指導、生徒の自己実現につながる支援についての理解を深めることを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 生徒指導とは						
	② 生徒指導と教育課程						
	③ 生徒指導のための基礎理論						
	④ 問題行動と非行(社会的不適応について)						
	⑤ 登校拒否といじめ ① (登校拒否)						
	⑥ 登校拒否といじめ ② (いじめ)						
	⑦ 青年期と心身の不適応 ① (青年期の心身の不適応—その成り立ち)						
	⑧ 青年期と心身の不適応 ② (心身症)						
	⑨ 青年期と心身の不適応 ③ (摂食障害)						
	⑩ 青年期と心身の不適応 ④ (神経症)						
	⑪ 生徒指導と学校カウンセリング						
	⑫ 生徒理解の方法						
	⑬ 生徒指導と進路指導						
	⑭ 生徒指導と健康教育						
⑮ 授業のまとめと質疑							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	講義中、適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	256	授業科目	教職実践演習(養護教諭) (Senior Seminar for Yogo Teacher)			担当者	満田 タツ江
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	養教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ①入学以来履修してきた授業、学外での研修、養護実習等を学生が有機的に関連づけているか、またこれらを通して学生が養護教諭として必要な資質能力を身につけたかを確認する。 ②専攻の教育目標にも掲げている、「人々の健康を創造できるよう指導する能力と、社会で役立つ実践的な能力を身につけた」養護教諭への到達度を個々の学生が確認し、目標達成のための課題を見だし、その課題を解決し、実践力をより高める。						
	2. 授業の内容 上記の目標を達成するため、まず、「履修カルテ」を用いて入学時からの学修を振り返り、学生自ら養護教諭としての資質の到達速度を確認し、課題と目標を見いだす。そして、教職経験者による講義や学校内外の安全管理や危機管理についての講義、実地点検(調査)、学校現場の見学をもとにロールプレイングやグループ討論をおこない、教員としての責任感や使命感を自覚し、児童生徒の理解を深め、学生自身の社会性や対人関係能力を確認する。さらに模擬授業(保健指導)を通して、養護実習でおこなった保健指導の課題が克服されたか、点検する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り					(竹中)
	②	養護教諭の役割や職務内容に関するグループ討論					(満田)
	③	ロールプレイングによる保健指導の理解					(満田)
	④	管理職経験者による学校内及び地域の関係者との連携に関する講義					(竹中)
	⑤	学校内及び地域の関係者との連携に関するグループ討論					(胸元)
	⑥	(警察官による) 児童生徒の学外での安全管理・危機管理に関する講義					(胸元)
	⑦	通学路・公園等の安全点検					(胸元)
	⑧	ロールプレイングによる学外での児童生徒の行動理解					(竹中)
	⑨	児童生徒理解に関するグループ討論、小中学校見学のための事前指導					(満田)
	⑩	学校現場の見学と現場教員の講義 ①					(全員)
	⑪	学校現場の見学と現場教員の講義 ②					(全員)
	⑫	学校見学振り返り:児童生徒理解の重要性や教員の責任に関するグループ討論					(竹中)
	⑬	模擬授業(保健指導) ① 保健指導力の点検					(満田)
	⑭	模擬授業(保健指導) ② 保健指導力の点検					(満田)
⑮	授業の振り返り、自己点検・評価					(竹中)	
成績評価	受講態度(50%)、模擬授業指導案及びレポートの提出状況(50%)						
参考文献等	必要に応じてプリント・資料を適宜配布する 『小学校学習指導要領』文部科学省 『小学校保健学習の指導と評価』財団法人日本学校保健会						
備考							
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	257	授業科目	教職実践演習(中・保健) (Senior Seminar for Junior High School Teacher)			担当者	竹中・満田・胸元
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 入学以来履修してきた授業、学外での研修、教育実習等を学生が有機的に関連づけているか、また、これらを通して学生が中学校保健科教諭として必要な資質能力を身につけているかを確認し、さらなる資質向上を目指す。						
	2. 授業の内容 上記の目標を達成するため、まず、「履修カルテ」を用いて入学時からの学修を振り返り、学生自ら中学校保健科教諭としての資質の到達度を確認し、課題と目標を見いだす。そして、教職経験者による講義や学校内外の安全管理や危機管理についての識義、実地点検(調査)、学校現場の見学をもとにロールプレイングやグループ討論をおこない、教員としての責任感や使命感を自覚し、生徒の理解を深め、学生自身の社会性や対人関係能力を確認する。さらに模擬授業を通して、教育実習で実施した授業の反省点が改善されたかを点検する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り					(竹中)
	②	中学校教諭の職務内容に関するグループ討論					(満田)
	③	管理職経験者による教員としての責任や教職員及び地域の関係者との連携に関する講義					(竹中)
	④	教員としての責任や教職員及び地域の関係者との連携に関するグループ討論					(胸元)
	⑤	教職経験者による教科内容の指導力に関する講義					(満田)
	⑥	ロールプレイングによる教科内容の指導力の点検					(竹中)
	⑦	(警察官による)生徒の学外での安全管理・危機管理に関する講義					(胸元)
	⑧	通学路・公園等の安全点検					(胸元)
	⑨	学級経営に関するグループ討論および学校見学のための事前指導					(満田)
	⑩	学校現場の見学と現場教員の講義 ①					(全員)
	⑪	学校現場の見学と現場教員の講義 ②					(全員)
	⑫	学校見学振り返り：生徒理解の重要性や教員の責任に関するグループ討論					(満田)
	⑬	模擬授業 ① 教科内容の指導力の点検					(竹中)
	⑭	模擬授業 ② 教科内容の指導力の点検					(竹中)
⑮	授業の振り返り、自己点検・評価					(満田)	
成績評価	受講態度(50%)、模擬授業指導案及びレポートの提出状況(50%)						
参考文献等	参考文献：『中学校学習指導要領』、『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』文部科学省『中学校保健体育』学研 その他、必要に応じて適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ~ 12:50 (研究室)					

科目番号	258	授業科目	労働基準法 (Labor standards Act)			担当者	畑井 清隆
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	第一種衛生管理者免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 労働基準法および関連法令の内容を理解する。						
	2. 授業の内容 労働基準法および関連法令の内容を解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① ガイダンス、労働条件の明示、労働契約の期間						
	② 解雇予告、退職時の証明、解雇権濫用法理						
	③ 就業規則						
	④ 賃金						
	⑤ 労働時間						
	⑥ 変形労働時間制、フレックスタイム制						
	⑦ 裁量労働制、適用除外						
	⑧ 休憩、休日・時間外労働						
	⑨ 年次有給休暇						
	⑩ 年少者、女性(妊産婦等)						
	⑪ 災害補償、労災保険(1)						
	⑫ 労災保険(2)						
	⑬ 懲戒						
	⑭ 平等原則、労働憲章						
⑮ 監督機関、労働法規範の構造							
成績評価	期末試験(100%)で評価する。						
参考文献等	テキストは使用しない。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	259	授業科目	労働安全衛生法 (Industrial Safety and Health Act)			担当者	畑井 清隆
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	第一種衛生管理者免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 労働安全衛生法および関連法令の内容を理解する。						
	2. 授業の内容 労働安全衛生法および関連法令の内容を解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	ガイダンス、総則					
	②	労働災害防止計画、安全衛生管理体制(1)					
	③	安全衛生管理体制(2)					
	④	安全衛生管理体制(3)					
	⑤	危険・健康障害防止措置(1)					
	⑥	危険・健康障害防止措置(2)					
	⑦	機械等に関する規制					
	⑧	危険物・有害物に関する規制					
	⑨	労働者の就業に当たっての措置					
	⑩	健康の保持増進のための措置(1)					
	⑪	健康の保持増進のための措置(2)					
	⑫	快適な職場環境形成のための措置、免許等、安全衛生改善計画等					
	⑬	監督等					
	⑭	雑則、罰則					
⑮	まとめ						
成績評価	期末試験(100%)で評価する。						
参考文献等	テキスト： 木村嘉勝『図解よくわかる労働安全衛生法(改訂2版)』労働調査会						
備考							
	オフィスアワー						

專 門 科 目

生活福祉專攻

生活福祉専攻の授業科目の履修について

生活福祉専攻で履修できる授業科目は、学科共通の「一般教養科目」と生活福祉専攻の「専門科目」の3種に大別できます。「専門科目」は、卒業履修単位科目と介護福祉士履修単位科目に分かれます。「一般教養科目」と「専門科目」は、卒業履修単位となり、別表第4の「一般教養科目」の最低修得単位数を満たしたうえで専門科目を含めて総計62単位を修得すれば、卒業できます。介護福祉士の国家試験をとるには、「専門科目」の介護福祉士履修単位数の欄の「必修」科目のすべての単位を修得しなければなりません。

● 「一般教養科目」の履修について

一般教養科目では、皆さんに幅広い教養を身につけてもらうために30科目が用意してあります。これらの科目は、原則としてどれでも履修できます。しかしながら、1年間で開講されるすべての科目を履修することは不可能ですから、自分の興味や関心によって、科目を選んでください。ただし、次の2点については、十分に留意して科目を選択してください。

1. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の4つの科目群から、1科目連続(4単位)は、必ず履修すること。
2. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の1科目を含めて他の選択科目を加えて、最低で14単位、多くて16単位を目標とすること。
3. 介護福祉士国家資格を取得するためには、一般教養科目の★印の科目から3～4科目(8単位以上)を履修すること。

● 「専門科目」の履修について

生活福祉専攻には、介護福祉士の資格を取得するための必修科目と、本学独自の科目として選択科目が用意されています。これらの科目は、高齢者や障害者に関する医学・社会学・心理学・社会福祉・介護福祉の理論を理解しながら、健康管理、家事、社会活動や相談援助等の方法を学び、将来の介護のリーダーとなり得る人材を養成することを目標としています。また、時代の要請に応じた科目も用意してあります。専門科目の履修については、次の2点について、十分に留意して履修してください。

1. 介護福祉士の国家資格との関連

介護福祉士の国家資格を取得するには、一般教養科目14単位以上を修得した上で、専門科目の必修科目のすべての単位修得が必要です。この中には2年間で10週間の学外での実習が含まれます。

2. 社会福祉主事任用資格との関連

社会福祉主事任用資格については、介護福祉士の国家資格を取得することで、資格要件を満たすことができます。

3. レクリエーションインストラクター資格との関連

レクリエーションインストラクターの資格を取得するには、レクリエーション概論、レクリエーション活動援助法の単位を修得し、学外で行われる日本レクリエーション協会の主催する事業に2年間で3日間出席しなければなりません。したがって、次のことに留意してください。

- (1) 資格取得を希望する人は、レクリエーション概論を履修すること。
- (2) 3日間の学外事業については、必要の都度掲示しますので、その指示に従うこと。

科目番号	301	授業科目	社会福祉概論 (Study of Social welfare)			担当者	久永 繁夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会においては、日々の暮らしと社会福祉は切り離すことが出来ない。時代と社会の変化に対応して、社会福祉の制度も大きく変化してきている。介護福祉士として必要な社会に関する知識と福祉の諸制度の基礎的知識を身につける、サービス利用者に説明できる能力を身につける。						
	2. 授業の内容 (1) 社会福祉の現代的意義 (2) 介護保険制度のあり方 (3) 貧困問題と生活保護 (4) 介護実践にかかわる諸制度						
授業計画	3. 授業計画						
	① 私たちの生活と福祉①						
	② 私たちの生活と福祉①						
	③ 私たちの生活と福祉①						
	④ 私たちの生活と福祉①						
	⑤ 介護保険制度の背景と目的						
	⑥ 介護保険制度の仕組み①						
	⑦ 介護保険制度の仕組み②						
	⑧ 介護保険制度の仕組み③						
	⑨ 介護保険制度の仕組み④						
	⑩ 介護保険制度の仕組み⑤						
	⑪ 障害者の自立支援と法制度①						
	⑫ 障害者の自立支援と法制度②						
	⑬ 障害者の自立支援と法制度③						
	⑭ 介護実践にかかわる諸制度①						
⑮ 介護実践にかかわる諸制度②							
成績評価	筆記試験(80点) 60分のテスト、小テスト(20点) 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。						
参考文献等	テキスト：新・介護福祉士養成講座 社会の制度の理解 中央法規 その他の関連科目の「新・介護福祉士養成講座」のテキストを併用する。 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 その他：社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	302	授業科目	レクリエーション概論 (Contemporary Issues on Recreation)			担当者	大村一光
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	1	選択	レクリエーション インストラクター資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法などを学ぶことで、各自の職場や地域社会の活動に対して学生諸君が積極的に取り組んでいけるようにするとともに、レクリエーション活動を、より多面的な視点から捉えるための資質向上を目的としている。						
	2. 授業の内容 これまでの歴史に触れながら、21世紀へ向けてのレクリエーション活動のあり方などについて理解を深め、具体的な支援の展開や方法論について学習する。また、対象者に応じたレク活動のあり方、効果を高めるための手法(CSSなど)、安全対策などについても考えていく。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	21世紀の社会とこれからのレクリエーション運動					
	②	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史					
	③	レクリエーション支援の展開と方法					
	④	市町村レク協会の役割と経営					
	⑤	レクリエーション運動を支える組織とその役割					
	⑥	事業と安全					
	⑦	対象者に応じたレクリエーション支援					
	⑧	目的に応じたレクリエーション支援					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)						
参考文献等	レクリエーション支援の基礎、日本レクリエーション協会						
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	303	授業科目	介護の基本 I (Fundamentals of care I)			担当者	加藤 玲子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、介護福祉を取り巻く状況や介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについての理解を深める。						
	2. 授業の内容 ① 介護福祉士とは(介護福祉士を取り巻く状況・社会福祉士及び介護福祉士法等) ② 自立にむけた介護とは ③ 介護サービスと介護福祉士のはたらく場について ④ 介護のはたらきと基本的視点						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業内容と進め方						
	② 介護の概念や定義、介護の見方・考え方の変化						
	③ 介護の原則(職業倫理)						
	④ さまざまな生活支援とその意義(生活文化と介護)						
	⑤ さまざまな生活支援とその意義(生活歴と介護)						
	⑥ 尊厳を支える介護(QOLの考え方)						
	⑦ 尊厳を支える介護(ノーマリゼーション)						
	⑧ 『生活支援』としての介護とは(QOL・自立支援・自己選択・自己決定)						
	⑨ 『生活支援』としての介護とは(QOL・自立支援・自己選択・自己決定)						
	⑩ 『生活支援』としての介護とは(専門性・高い倫理観を持つこと)						
	⑪ 『生活支援』としての介護とは(専門性・高い倫理観を持つこと)						
	⑫ ICFの捉え方・介護におけるリハビリテーションの考え方						
	⑬ 「自立支援」を支える介護、「自立支援を支える」を支える介護						
	⑭ 障害のある人の自立支援 1						
⑮ 障害のある人の自立支援 2							
成績評価	学期末試験の成績・レポートに基づいて総合的に評価する。(100%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護の基本 I」「介護の基本 II」(中央法規出版) 社会福祉小六法 (ミネルヴァ書房) 中央法規出版編集部編集 介護福祉用語辞典 (中央法規出版) 国民衛生の動向						
備考							
	オフィスアワー	加藤:随時(研究室)					

科目番号	304	授業科目	介護の基本Ⅱ (Fundamentals of care Ⅱ)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、高齢者や障害のある人のくらしの実際に触れ、施設での生活や生活環境を観察することにより、介護を必要とする人の理解を深める。							
	2. 授業の内容 (1) 介護を必要とする人の理解 (2) 施設見学							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	オリエンテーション、授業の内容と進め方、本科目の位置づけや意義、目的					(小城)	
	②	施設見学についての事前指導、介護を必要とする人に接する時の心構え					(小城)	
	③	施設見学(高齢者施設、障害者施設)					(加藤・浜崎・小城)	
	④	施設見学(高齢者施設、障害者施設)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑤	施設見学についての事後指導					(浜崎)	
	⑥	人間の多様性・複雑性の理解					(浜崎)	
	⑦	高齢者のくらしの理解の実際①高齢者の健康、生活のリズム、生活文化、家族、世帯構成の理解					(小城)	
	⑧	高齢者のくらしの理解の実際②住まいと環境、就労、仕事、社会、生計の理解					(小城)	
	⑨	高齢者のくらしの理解の実際③社会活動、余暇活動、レクリエーションとアクティビティの理解					(小城)	
	⑩	障害のある人のくらしの理解①障害のある人の生活ニーズについて					(加藤)	
	⑪	障害のある人のくらしの理解②生活環境の理解					(加藤)	
	⑫	障害のある人のくらしの理解③社会における家族の機能についての理解					(加藤)	
	⑬	介護を必要とする人の理解:地域の結びつき①介護分野における高齢者、家族、地域、社会の結びつきを学ぶ①					(浜崎)	
	⑭	介護を必要とする人の理解:地域の結びつき②介護分野における高齢者、家族、地域、社会の結びつきを学ぶ②					(浜崎)	
⑮	高齢者・障害のある人のくらしを振り返る、介護福祉士と高齢者・障害のある人について					(浜崎)		
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は60分で実施 レポート(施設見学に必要な事前・事後指導関連)(20%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」・「介護の基本Ⅱ」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)						

科目番号	305	授業科目	生活支援技術A (Life support skills A)			担当者	西郷 ヨシ子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立、自己決定を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目的とする。このために、本講義では「衣類・寝具の衛生管理」、「自立に向けた身支度の介護」、「自立に向けた移動の介護」、「自立に向けた食事の介護」を中心として必要な技術を習得し、介護現場で必要とされる実践能力を高める。						
	2. 授業の内容 (1) 衣類・寝具の衛生管理 (2) 自立に向けた身支度の介護 (3) 自立に向けた移動の介護 (4) 自立に向けた食事の介護						
授業計画	3. 授業計画						
	① 介護技術の基礎的理解。寝具の衛生管理、ベッドメイキングの目的						
	② 寝具の衛生管理①ベッドの操作方法、1人で行うベッドメイキング						
	③ 寝具の衛生管理②ベッドに人がいる場合のシーツ交換						
	④ 身支度の意義と目的、自立生活を支える身支度の介護						
	⑤ 生活習慣と身支度・目的・衣服の種類と選択・着脱介助						
	⑥ 利用者の状況に応じた身支度の介助・留意点						
	⑦ 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)						
	⑧ 運動・移動における介護の原則とボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位変換						
	⑨ 運動・移動の技法、ベッド上の移動(上方・下方移動、水平移動と対面法、水平移動と背面法)						
	⑩ 運動・移動の技法、移動に関するアセスメント、車椅子の基本構造、車椅子介助の留意点						
	⑪ 運動・移動の技法、車椅子介助、移動介助(段差・坂道・エレベーター・階段)						
	⑫ 車椅子での外出援助の技法、不整地、段差昇降、坂道(スロープ)、エレベーターの介助						
	⑬ 食事の意義と目的、食事に関するアセスメント(ICFの視点にもとづく)						
	⑭ 利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点、自立を支える食事の介助とは、食事前の準備体操						
⑮ 利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点、誤嚥・窒息の防止、脱水の防止、自具具							
成績評価	実技試験・レポートにもとづいて総合的に評価(100%)する。筆記試験(60分)。						
参考文献等	「編集」介護福祉士養成講座生活支援技術Ⅱ						
備考							
	オフィスアワー	随時					

科目番号	306	授業科目	生活支援技術(住) (Life support skills (housing))			担当者	古川 恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 生活支援技術(住)では、社会的視野を持ちながら、高齢者、障がい者の生活も含む人間生活の基盤としての住生活の意義を考え、理解し、さらに管理する能力を養うことを目標とする。						
	2. 授業の内容 長寿社会における住宅・住環境をノーマライゼーションの視点から考える。また、介護予防、介護保険下での住宅改修など、地域社会での住生活の継続に必要なことを考える。視聴覚教材を用いて現実の住生活への理解を深め、生活援助の視点や支援内容を具体的に検討する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	居住環境整備の視点と目標:住居の役割と機能－住居の役割(シェルター、生活の伝承)					
	②	家族と住居(ライフサイクルと住居、生活時間と住行為、住要求)					
	③	住居と地域(近隣との交流、まちづくり、バリアフリーの住環境)					
	④	居住環境整備における問題点:ADLへの対応、バリアフリー、UD					
	⑤	生活行動と生活空間:人体と空間との関係(モジュール、身体の変化と空間、起居様式)					
	⑥	空間の配列とゾーニング、独立住宅の計画(室内環境計画、ライフスタイル等)					
	⑦	集合住宅の計画、近隣との空間的なつながり					
	⑧	快適な室内環境:空気環境の調節、光の調節、温湿度の調節、音の調整					
	⑨	高齢期の多様な住まい:多様な住まいの種類、心身機能に対応した住まい					
	⑩	住宅における居住環境整備:安全な住まい(関連法も含む)					
	⑪	住居の維持・管理、衛生管理、シックハウス対策					
	⑫	住宅改修の進め方、介護保険下の住宅改修の内容、認知症対応					
	⑬	施設における居住環境整備:従来の施設環境とユニット型特養の環境					
	⑭	認知症高齢者への環境支援指針					
⑮	ユニバーサル・デザインの広がり:基本的な考え方と今後						
成績評価	・筆記試験(80%)・レポート(20%)の総合評価による。※筆記試験は、60分で実施						
参考文献等	テキスト: 川井太加子編/生活支援技術I/メヂカルフレンド社/2008年 参考文献 外山義/クリッパンの老人たち－スウェーデンの高齢者ケア/ドメス出版 外山義/自宅でない在宅－高齢者の生活空間論/医学書院/2003年 佐野眞一/大往生の島/文藝春秋/1997年 ・パワーポイント、VHS、DVD使用						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー						

科目番号	307	授業科目	介護過程 I (Care process I)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。						
	2. 授業の内容 (1) 介護過程とは何か、利用者の個別性を尊重しようとする介護福祉の流れを踏まえて理解する。 (2) 「問題解決思考」とは問題をどのように受け止めることなのか、「問題解決過程」とはどのような解決方法なのかを理解する。 (3) 専門職として介護実践において、介護過程が必要である理由を理解する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	「介護過程」の展開を学ぶ前に					(小城)
	②	教育課程における「介護過程」の意義と法令で規定する「介護」の意味					(小城)
	③	問題解決過程の応用としての介護過程					(小城)
	④	日常生活で体験する問題解決過程					(小城)
	⑤	他者を援助する専門職にとつての課題					(小城)
	⑥	介護過程における「問題」という用語					(加藤)
	⑦	ICFと介護過程との関係、実習着の準備					(加藤)
	⑧	介護過程とケアマネジメント(介護保険制度)との関係、オリエンテーション記録					(加藤)
	⑨	オリエンテーション記録について、毎日の実習記録					(加藤)
	⑩	毎日の実習記録					(加藤)
	⑪	カンファレンスについて、カンファレンス記録の仕方					(浜崎)
	⑫	介護実習要項説明他、赤ファイル、個人票の作成					(浜崎)
	⑬	介護実習 I 配置計画について、事前訪問の意義・目的・電話のかけ方					(浜崎)
	⑭	事前訪問に必要な資料配布、実習記録の書き方(確認)					(浜崎)
⑮	実習事前準備の確認(服装チェック等)、実習反省会について(日時やテーマ等)					(浜崎)	
成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 メヂカルフレンド社 ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規) 						
備考							
	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	308	授業科目	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ (General practice caring I・II)			担当者	加藤玲子・浜崎眞美 小城百代・有馬恵子 池田喜代子・折田喜美子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする							
	2. 授業の内容 介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行うことができるようになることをねらいとする。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	介護総合演習の目的、実習の意義・目的・目標について					(浜崎)	
	②	介護実習の種類、実習前の学びと実習後の学びの活かし方、実習施設について					(浜崎)	
	③	事前学習の内容と方法、実習記録について					(小城)	
	④	実習の心得、実習期間終了時の注意、事前訪問について					(小城)	
	⑤	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(訪問介護)					(池田)	
	⑥	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(訪問介護)					(池田)	
	⑦	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(グループホーム)					(折田)	
	⑧	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(グループホーム)					(折田)	
	⑨	実習反省会					(加藤・浜崎・小城)	
	⑩	働くことの意識、心構え					(有馬)	
	⑪	ワーカーに求められる資質及び能力					(有馬)	
	⑫	第一印象について					(有馬)	
	⑬	挨拶、話し方、言葉づかい、敬語について					(有馬)	
	⑭	介護実習Ⅰ-②における情報交換					(加藤)	
⑮	介護実習の目標について(介護実習Ⅱ)					(加藤)		
成績評価	加藤・浜崎・小城:筆記試験(40点) ※筆記試験は60分で実施 池田・折田:講義内容に関連したレポート提出(それぞれに20点ずつ) 有馬:レポート提出(20点)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社) 近喰晴子他「新生活教養-社会人としての基本マナー」(建帛社)							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室) 有馬:随時(研究室)						

科目番号	309	授業科目	発達と老化の理解 (Understanding the Development and Aging)			担当者	宮里 新之介
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、介護職が頻繁に関わる高齢者に対してより良い介護を提供するための基礎的知識として、「老化」に関する理解を深めます。まず「発達」に関する心理学的知見を学び、老化による心理や身体機能の変化といった基本的な知識を得ながら、人が「老化」に適応していくことを如何に支援していくかということについて理解を深めることを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の計画に沿って授業を進めて行きます。発達の観点から老化に関する基礎的知識を学び、対人援助の手助けとなるように知識の定着を深めることをねらいとします。授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 発達とは何か						
	② 人間の成長と発達 ① (人間の発達段階と発達課題)						
	③ 人間の成長と発達 ② (発達と個人差)						
	④ 老年期の発達と成熟 ① (老化とは)						
	⑤ 老年期の発達と成熟 ② (老年期の発達課題: 人格と尊厳)						
	⑥ 老年期の発達と成熟 ③ (老年期の発達課題: 老いの価値・喪失体験)						
	⑦ 老化が及ぼす心理的影響 ① (高齢者のこころの問題)						
	⑧ 老化が及ぼす心理的影響 ② (要介護による高齢者の心理)						
	⑨ 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響						
	⑩ 高齢者に多い症状や訴えについての理解						
	⑪ 高齢者に多い精神疾患とその留意点						
	⑫ 認知症高齢者についての基礎的理解①(アルツハイマー型認知症の心理について)						
	⑬ 認知症高齢者についての基礎的理解②(脳血管型認知症、ピック病の心理について)						
	⑭ 高齢者とのコミュニケーションの基礎(言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、傾聴)						
⑮ 授業のまとめと質疑							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト: 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)「発達と老化の理解」中央法規出版 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	310	授業科目	介護技術の基礎 (Mechanism of mind and body)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心身の状況に応じた介護について理解する学習とする。							
	2. 授業の内容 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。 ① 日常生活におけるこころとからだのしくみ(身支度、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠、ターミナルケア)							
授業計画	3. 授業計画							
	①	身支度に関連したこころとからだのしくみ①					(加藤)	
	②	身支度に関連したこころとからだのしくみ②					(加藤)	
	③	身支度に関連したこころとからだのしくみ③					(加藤)	
	④	移動に関連したこころとからだのしくみ①					(加藤)	
	⑤	移動に関連したこころとからだのしくみ②					(加藤)	
	⑥	移動に関連したこころとからだのしくみ③					(加藤)	
	⑦	食事に関連したこころとからだのしくみ①					(浜崎)	
	⑧	食事に関連したこころとからだのしくみ②					(浜崎)	
	⑨	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①					(加藤)	
	⑩	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②					(加藤)	
	⑪	排泄に関連したこころとからだのしくみ①					(浜崎)	
	⑫	排泄に関連したこころとからだのしくみ②					(浜崎)	
	⑬	睡眠に関連したこころとからだのしくみ					(浜崎)	
	⑭	死にゆく人のこころとからだのしくみ①					(浜崎)	
⑮	死にゆく人のこころとからだのしくみ②					(浜崎)		
成績評価	学期末試験の成績(90点) ※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(10点)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎:随時(研究室)						

科目番号	311	授業科目	レクリエーション活動援助法 I (Recreational Activities Assistance Act I)			担当者	福満 博隆
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	レクリエーション・インストラクター資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標						
	<p>1. レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について理解する。</p> <p>2. レクリエーション種目(ニュースポーツを中心に)体験し、その特性を理解する。</p> <p>3. レクリエーション種目の指導法を理解する。</p> <p>4. レクリエーション種目のイベントを企画と運営方法について実践的に学ぶ。</p> <p>5. レクリエーション活動を通して他者との交流が深まることを理解するとともにコミュニケーション能力も高める。</p>						
授業の目標及び内容	2. 授業の内容						
	<p>レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。</p> <p>1. レクリエーション種目(ニュースポーツを中心に)の実技体験</p> <p>①種目特性の理解と楽しさの体験</p> <p>2. レクリエーション種目イベントの企画と運営実践</p> <p>①活動領域(地域社会, 学校教育, 職場, 社会福祉分野等)を考慮した立案とその比較検討</p> <p>②活動援助者の役割分担およびグループワーク</p> <p>3. 企画と運営実践に対する振り返り(評価)</p>						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション, レクリエーション活動援助法についての解説						
	② レクリエーション種目(ソフトバレー)の実技体験と指導法						
	③ レクリエーション種目(スポレック)の実技体験と指導法						
	④ レクリエーション種目(ユニホック)の実技体験と指導法						
	⑤ レクリエーション種目(ティーボール)の実技体験と指導法						
	⑥ レクリエーション種目(ペタンク)の実技体験と指導法						
	⑦ レクリエーション種目イベントの企画づくり						
	⑧ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践1						
	⑨ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践2						
	⑩ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践3						
	⑪ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践4						
	⑫ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践5						
	⑬ 企画と運営実践に対する振り返り						
	⑭ チャレンジ・ザ・ゲームの実技体験と指導法						
⑮							
成績評価	<p>受講態度50点満点</p> <p>レクリエーション種目イベントの企画と運営実践に対する評価25点満点</p> <p>企画・運営実践に対する振り返りレポートの評価25点満点</p>						
参考文献等							
備考							
備考	オフィスアワー						

科目番号	312	授業科目	人間の尊厳と自立 (Dignity and Independence of man)			担当者	久永 繁夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 『人間』の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養うことを目標とする。 このために、本講義では「人間の尊厳と自立」に焦点をあて、人間の尊厳の自立、介護における尊厳の保持・自立支援のあり方について理解を深める。						
	2. 授業の内容 (1)人間の尊厳と自立 (2)介護における尊厳の保持・自立支援						
授業計画	3. 授業計画						
	① 生命の誕生と人権 ①世界人権宣言、障害者の人権宣言						
	② 生命の誕生と人権 ②人権と社会福祉						
	③ 人間の尊厳とは何か (グループ討議を含む)						
	④ 身近な人権侵害と介護 (グループ討議を含む)						
	⑤ 自立・自律とは何か ①身体的・精神的・社会的自立、(グループ討議を含む)						
	⑥ 自立・自律とは何か ②依存的自立(重度障害者には、自立・自律はできないのか)						
	⑦ 介護における尊厳の保持 ①苦情解決制度と介護サービスに関する苦情の実態						
	⑧ 介護における尊厳の保持 ①介護サービスに関する苦情の実例 (グループ討議を含む)						
	⑨ 福祉施設等における人間の尊厳の保持とは						
	⑩ 権利擁護制度 ①地域福祉権利擁護事業						
	⑪ 権利擁護制度 ②成年後見制度						
	⑫ 自立・自律支援とは何か						
	⑬ 自立・自立を支える介護実践 (介護現場で働く人の実践を聞く)						
	⑭ まとめ 1(グループ討議を行い、個人レポートの準備をする)						
⑮ まとめ 2(全体的なまとめ)							
成績評価	授業への参加態度(20点)、レポート及びテスト結果(80点)として総合的に評価する。						
参考文献等	テキスト：「人間の理解」新・介護福祉士養成講座 (中央法規)						
備考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	313	授業科目	社会保障制度 (Social Security System)			担当者	久永 繁夫	
			開講学期	学科・専攻	履修方法			単位数
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1)わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。 (2)介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。							
	2. 授業の内容 (1)社会保障の歴史と理念 (2)所得保障制度と関連制度 (3)医療保障制度と関連制度 (4)障害者自立支援制度と介護							
授業計画	3. 授業計画							
	①	社会保障と社会福祉の歴史		①社会保障と社会福祉の相互関連				
	②	社会保障と社会福祉の歴史		②社会保障制度の概要				
	③	社会保障と社会福祉の歴史		③医療保障制度の歴史				
	④	社会保障と社会福祉の歴史		④医療保障制度の歴史				
	⑤	所得保障制度の概要		①公的年金制度の概要				
	⑥	所得保障制度の概要		②公的年金制度の概要と公的扶助制度				
	⑦	医療保障制度の概要		①医療保険制度の概要				
	⑧	医療保障制度の概要		②医療保険制度の概要と公的扶助制度等				
	⑨	障害者自立支援法制定の経過と障害者総合支援法						
	⑩	障害者自立支援法の概要		①障害者自立支援法の全体像				
	⑪	障害者自立支援法の概要		②総合的な自立支援システム				
	⑫	障害者総合支援法の概要		①総合支援法の概要				
	⑬	障害者総合支援法の概要		②総合支援法に基づくサービスの提供				
	⑭	障害者の自立支援と介護サービス						
⑮	社会保障制度のまとめ							
成績評価	レポート(30点)及びテスト結果(70点)で評価する。							
参考文献等	テキスト：「社会と制度の理解」新・介護福祉士養成講座（中央法規） 参考図書：2012社会保障入門(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)						

科目番号	314	授業科目	介護の基本Ⅲ (Fundamental of care Ⅲ)			担当者	加藤 玲子 浜崎 真美	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、介護における安全やチームケア等について理解を深める。							
	2. 授業の内容 (1)介護における安全の確保とリスクマネジメント (2)介護従事者の安全							
授業計画	3. 授業計画							
	①	オリエンテーション、授業の内容と進め方、健康管理の意義・目的					(浜崎)	
	②	健康管理に必要な知識と技術 ①こころの健康管理					(加藤)	
	③	健康管理に必要な知識と技術 ②からだの健康管理					(加藤)	
	④	健康管理に必要な知識と技術 ③腰痛対策					(加藤)	
	⑤	職場が取り組むストレス対策					(加藤)	
	⑥	生活管理(身体的疲労の予防)					(加藤)	
	⑦	介護従事者の安全－職場の安全対策					(加藤)	
	⑧	介護従事者の安全－介護従事者の安全に関する法規					(加藤)	
	⑨	感染対策の基礎知識①					(浜崎)	
	⑩	感染対策の基礎知識②					(浜崎)	
	⑪	感染管理のための方策①生活の場での感染対策					(浜崎)	
	⑫	感染管理のための方策②高齢者介護施設と感染対策					(浜崎)	
	⑬	感染対策とリスクマネジメント					(浜崎)	
	⑭	感染症発生時の対応①					(浜崎)	
⑮	感染症発生時の対応②					(浜崎)		
成績評価	学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施 グループワークでのまとめ及びレポート(30%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅱ」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎:随時(研究室)						

科目番号	315	授業科目	コミュニケーション演習 (Studies on Communication)			担当者	久永 繁夫 宮里新之介	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を演習を通して身につける。							
	2. 授業の内容 介護は、対人援助に関わる他職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法(記録、報告、会議)について学ぶ。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	コミュニケーションとは何か、その意義と目的					(宮里)	
	②	自己紹介を通しての自己覚知					(宮里)	
	③	介護現場(施設)でのコミュニケーションの実際					(宮里)	
	④	相談・面接を通じたコミュニケーション					(宮里)	
	⑤	障がい者に対するコミュニケーションのとり方 ①脳性麻痺による言語障害					(宮里)	
	⑥	障がい者に対するコミュニケーションのとり方 ②知的障害・自閉症					(宮里)	
	⑦	支援者間(チーム)のコミュニケーションの実際(連絡・報告等)					(宮里)	
	⑧	施設での利用者の支援記録の実際					(宮里)	
	⑨	多職種間のコミュニケーション					(宮里)	
	⑩	利用者・介護職間のコミュニケーションの実際					(宮里)	
	⑪	記録の意義と記録の形式					(久永)	
	⑫	記録の実際とその活用					(久永)	
	⑬	会議の開き方(準備から進行・司会・会議録)					(久永)	
	⑭	記録の実際					(久永)	
⑮	まとめ					(久永)		
成績評価	授業への参加態度(20点)、レポート(80点)に基づいて総合的に評価する。							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「コミュニケーション技術」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)						

科目番号	316	授業科目	生活支援技術B (Life support skills B)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目標とする。このために、本講義では「自立に向けた入浴・清潔保持の介護」「自立に向けた身じたくの介護」を中心に、利用者の立場から「よりよい入浴・清潔保持・身じたくの支援」を考え、施設実習、訪問介護実習、卒業後の介護福祉の現場で実践できる力を身につける。							
	2. 授業の内容 (1) 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(バイタルサインを含む) (2) 自立に向けた身じたくの介護							
授業計画	3. 授業計画							
	①	入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)					(加藤)	
	②	安全・的確な入浴介助の技法、演習前のグループワーク(役割分担)					(加藤)	
	③	安全・的確な入浴介助時の移動に関する技法(ベッドからストレッチャー)					(加藤)	
	④	安全・的確な入浴介助の技法①シャワー浴、②家庭浴槽・一般浴槽					(加藤)	
	⑤	安全・的確な入浴介助の技法①シャワー浴、②家庭浴槽・一般浴槽					(加藤)	
	⑥	安全・的確な入浴介助の技法③特殊浴槽					(加藤)	
	⑦	安全・的確な入浴介助の技法③特殊浴槽					(加藤)	
	⑧	安全・的確な入浴介助の技法(実施後の評価及び考察)					(加藤)	
	⑨	生命徴候としての呼吸・体温・脈拍・血圧について					(浜崎)	
	⑩	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法①整容(洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等)					(浜崎)	
	⑪	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法②皮膚の清潔(軟膏塗布・湿布の貼布・点眼など)					(浜崎)	
	⑫	安全・的確な入浴介助の技法①全身清拭・部分清拭					(浜崎)	
	⑬	安全・的確な入浴介助の技法②陰部洗浄					(浜崎)	
	⑭	安全・的確な入浴介助の技法③足浴・手浴					(浜崎)	
	⑮	安全・的確な入浴介助の技法④洗髪					(浜崎)	
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※ 筆記試験は60分で実施 実技試験及びレポート(20%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術 II」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎:随時(研究室)						

科目番号	317	授業科目	介護過程Ⅱ (Care process Ⅱ)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であるということを理解する。							
	2. 授業の内容 (1)生活上のニーズを把握するための情報収集の方法を習得する。 (2)介護過程における介護アセスメントのポイントと位置づけを理解する。 (3)情報の解釈および判断の意味を理解し、利用者の生活上の課題を判断する方法を理解する。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	介護過程とは、介護実習Ⅰ－①における情報交換、実習評価表個人指導					(加藤・浜崎・小城)	
	②	展開のプロセス・介護実習Ⅰ－②具体的目標・方法					(浜崎)	
	③	展開の基本視点・実習記録について(オリエンテーション記録)					(小城)	
	④	生活支援の考え方と介護過程の必要性・実習記録について(カンファレンス記録)					(小城)	
	⑤	介護実習記録について まとめ方(参考例)、1日分の記録を改めて書き直してみる					(小城)	
	⑥	介護実習記録について まとめ方(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑦	観察をして情報を得たこと(まとめ方)・事前訪問について・事前訪問に必要な書類					(浜崎)	
	⑧	観察をして情報を得たこと(まとめ方)					(浜崎)	
	⑨	実習に関する確認 実習記録用紙確認					(浜崎)	
	⑩	実習反省会					(加藤・浜崎・小城)	
	⑪	アセスメントとは、フェイスシートについて					(小城)	
	⑫	情報収集について、アセスメント表(Ⅰ)について					(加藤)	
	⑬	情報の解釈・関連づけ・統合化について、アセスメント表(Ⅱ)について、介護実習Ⅱ目標・方法についての確認及び受け持ち利用者の希望についてまとめる					(加藤)	
	⑭	情報の解釈・関連づけ・統合化について、アセスメント表(Ⅱ)について、事前訪問について					(加藤)	
⑮	介護実習Ⅱ事前準備及び確認(服装チェック・実習記録用紙)、実習反省会について(日時・テーマ等)					(小城)		
成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規) 							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)						

科目番号	318	授業科目	介護実習 I (Care practice I)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	実習	3	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。						
	2. 授業の内容 実習施設・事業等(I)						
授業計画	3. 授業計画						
	①						
	②	方法					
	③	<介護実習 I - ①>					
	④	・多様な施設・事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活や介護職員の業務内容を見て学ぶ。					
	⑤						
	⑥	・コミュニケーション、食事、清潔などの生活支援技術を用いて介護を行い、利用者の特性を知る。					
	⑦						
	⑧	<介護実習 I - ②>					
	⑨	・多様な施設・事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活や介護職員の業務内容を見て学ぶ。					
	⑩						
	⑪	・障害特性や利用者のニーズに応じた生活支援技術を用いて介護を行い、利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る。					
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点) ※ 介護実習 I - ①、介護実習 I - ②を合わせて介護実習 I の評価とする。						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	久永・加藤・浜崎・小城: 随時(研究室)					

科目番号	319	授業科目	介護実習Ⅱ (Care practice Ⅱ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子
							浜崎 眞美・小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	実習	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標						
	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し他科目で学習した知識や技術を統合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p>						
授業計画	2. 授業の内容 実習施設・事業等(Ⅰ)(Ⅱ)						
	3. 授業計画						
授業計画	①	<p>③ 方法</p> <p>・多様な施設・事業所の概要や役割を理解し、様々な利用者の生活像・障害像を理解できる。</p> <p>⑥ ・実習施設・事業等(Ⅰ)(Ⅱ)の領域における多様な施設・事業所の理解と多様な介護サービスの理解ができる。</p> <p>⑧ ・障害特性や利用者のニーズに応じた生活支援技術を用いて介護を行い、利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る。</p> <p>⑩ ・多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p>					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	久永・加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	320	授業科目	高齢者の介護 (Care for the elderly)			担当者	西郷 ヨシ子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体の機能の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。						
	2. 授業の内容 成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体の機能の変化およびその特徴に関する基礎的知識を習得するところをねらいとする。 ① 老化に伴う心と体の変化と日常生活(老化に伴う心身の変化の特徴・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響・高齢者の心理) ② 高齢者の健康(高齢者の疾病と生活上の留意点・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点・保健医療職との連携)						
授業計画	3. 授業計画						
	① 老化に伴う心身の変化の特徴(心理的影響)						
	② 老化に伴う心身の変化の特徴(老いの価値観)						
	③ 老化に伴うこころの変化(老化の受け止め方・役割喪失など)						
	④ 老化に伴うこころの変化(心の問題と精神障害)						
	⑤ 老化に伴うこころの変化(要介護者の心理)						
	⑥ 外見上の変化と生活への影響						
	⑦ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響①						
	⑧ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響②						
	⑨ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響③						
	⑩ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響④						
	⑪ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響⑤						
	⑫ 老化に伴う運動機能の変化						
	⑬ 老化に伴う知的機能の変化①						
	⑭ 老化に伴う知的機能の変化②						
⑮ 保健医療との連携							
成績評価	筆記試験(60分) 学期末試験(70%)、レポート提出(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「発達と老化の理解」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	321	授業科目	認知症の理解 (Understanding of Dementia)			担当者	町田良子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 認知症のある人がその人らしさを発揮出来るための介護の基礎的知識を習得する。また認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境についての介護の視点を習得する学習とする。						
	2. 授業の内容 認知症を取り巻く歴史的背景や施策・認知症の人の体験している世界に注目しその人らしさを理解する。認知症の原因になる主な疾患や症状の特徴について学習する。また病気によって引き起こされている機能の変化や日常生活への影響について理解する。個々に合った確なケアが提供出来るための知識、さらには地域で生活する認知症のある人と、その家族を24時間サポートできる支援体制のあり方やその具体的な取り組み方法について習得することをねらいとする。 ① 認知症のある人がその人らしく生活出来るための環境を整え、日常生活が安全・安楽に暮らすことが出来るよう援助するための知識・技術を学ぶ。 ② 認知症のある人を取り巻く状況を理解する(認知症ケアの歴史や理念・認知症高齢者の現状と今後の課題) ③ 医学的側面から見た認知症の基礎的な知識						
授業計画	3. 授業計画						
	① 認知症を理解するための言葉の概念						
	② 認知症の人を取り巻く状況(認知症ケアの歴史や理念・認知高齢者の現状と今後の課題)						
	③ 認知症の人の体験している世界の理解						
	④ 認知症ケアの理念と尊厳について						
	⑤ 認知症の人の医学・行動・心理的理解(主な疾患の特徴・治療・検査)						
	⑥ 認知症の人の生活行動の理解						
	⑦ 認知症を治すためのケアとは(実習事前学習)						
	⑧ 認知症のある人との関わりを通して体験したこと(GW)						
	⑨ 気づきの共有(全体発表会)						
	⑩ 認知症のある人と一緒に生きるとは(介護の善し悪し) ビデオ						
	⑪ 環境の力(環境による働きかけ・環境作りの為の指針)						
	⑫ 認知症のある人への介護の基本						
	⑬ 認知症の進行に応じた介護						
	⑭ 人が生きることを支えるということ(家族・ターミナル)						
⑮ 認知症の予防・地域・家族の力を両方からの協働する力を考える							
成績評価	筆記試験(100%)を60分で行う。						
参考文献等	新・介護福祉士養成講座「認知症の理解」(中央法規出版) ビデオ						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	322	授業科目	障害の理解 I (Understanding of disabilities I)			担当者	堀田 哲一郎
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。障害者福祉の基本理念となる、ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。身体的、知的な面に障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を学ぶ。						
	2. 授業の内容 障害の基礎的理解 障害のある人の生活の理解						
授業計画	3. 授業計画						
	① 障害の概念(1)						
	② 障害の概念(2)						
	③ 障害者福祉の基本理念(1)						
	④ 障害者福祉の基本理念(2)						
	⑤ 視覚障害のある人の生活						
	⑥ 聴覚・言語障害のある人の生活(1)						
	⑦ 聴覚・言語障害のある人の生活(2)						
	⑧ 重複障害のある人の生活						
	⑨ 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活(1)						
	⑩ 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活(2)						
	⑪ 内部障害のある人の生活(1)						
	⑫ 内部障害のある人の生活(2)						
	⑬ 内部障害のある人の生活(3)						
	⑭ 知的障害のある人の生活(1)						
⑮ 知的障害のある人の生活(2)							
成績評価	筆記試験(100点) ※60分で実施						
参考文献等	福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』中央法規 OHC、ブルーレイ、VHS使用						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	323	授業科目	こころとからだのしくみ I (医学) (Mechanism of Mind and Body I -medical science-)			担当者	河野 史代 林 清人 中野 静雄
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。						
	2. 授業の内容 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。 ① からだのしくみの理解(生命の維持・恒常のしくみ、人体部位の名称、人体各部の名称、ボディメカニクス、関節可動域)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	からだのしくみの理解(解剖生理学)					(中野)
	②	からだのしくみの理解(解剖生理学)					(中野)
	③	からだのしくみの理解(解剖生理学)					(中野)
	④	生活習慣病・高脂血症・動脈硬化症のしくみの理解					(河野)
	⑤	高血圧症のしくみの理解					(河野)
	⑥	糖尿病のしくみの理解					(河野)
	⑦	虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)心不全のしくみの理解					(河野)
	⑧	脳血管疾患(脳出血・脳梗塞)のしくみの理解					(河野)
	⑨	泌尿器・内分泌疾患のしくみの理解					(河野)
	⑩	消化器疾患、肝疾患のしくみの理解					(河野)
	⑪	呼吸器疾患のしくみの理解					(河野)
	⑫	悪性新生物のしくみの理解					(河野)
	⑬	高齢者と健康の理解					(河野)
	⑭	口腔衛生のしくみの理解					(林)
⑮	口腔衛生のしくみの理解					(林)	
成績評価	筆記試験(100%)で行う。						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	324	授業科目	レクリエーション活動援助法Ⅱ (Recreational Activities Assistance Act Ⅱ)			担当者	福満 博隆
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	レクリエーション・インストラクター資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標						
	<p>1. レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について理解する。</p> <p>2. コミュニケーション・ワークを体験し、その実技特性とその指導法を理解する。</p> <p>3. レクリエーション活動(ゲーム、ダンス、ソング)における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。</p> <p>4. ゲーム、ダンス、ソング、野外活動の指導法を実践的に学ぶ</p> <p>5. レクリエーション活動を通して他者との交流が深まることを理解するとともにコミュニケーション能力も高める。</p>						
授業計画	2. 授業の内容						
	<p>レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。</p> <p>1. コミュニケーション・ワークの体験</p> <p>①ゲーム、ダンス、ソング、野外活動の実技体験と指導法</p> <p>②ゲーム、ダンス、ソング指導実践</p> <p>③コミュニケーション過程の観察と評価の方法</p> <p>2. 指導実践に対する振り返り(評価)</p>						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション、野外活動についての解説						
	② 野外活動の実技体験・・・平成25年9月17日(火)～19日(木)(2泊3日)						
	③ //						
	④ //						
	⑤ //						
	⑥ //						
	⑦ //						
	⑧ //						
	⑨ ゲーム、ダンス、ソングの実技と指導法の体験						
	⑩ ゲーム、ダンス、ソングの指導練習						
	⑪ ゲーム、ダンス、ソングの指導実践と振り返り(評価)						
	⑫ //						
	⑬ //						
	⑭ //						
⑮ ゲーム、ダンス、ソングの指導実践と振り返り(評価)とまとめ							
成績評価	<p>受講態度50点満点</p> <p>ゲーム、ダンス、ソングの指導実践に対する評価25点満点</p> <p>野外活動及びゲーム、ダンス、ソングの実技と指導法に対する振り返りレポートの評価25点満点</p>						
参考文献等							
備考							
考	オフィスアワー						

科目番号	325	授業科目	情報処理 I (Information processing I)			担当者	瀬戸 博幸
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 コンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、デジカメで写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固める。						
	2. 授業の内容 コンピュータの基礎を確認した上で、インターネットの使い方を考える。その上でWordやExcelの基礎的演習を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	コンピュータの基本操作					
	②	インターネットの歴史					
	③	電子メール その1					
	④	電子メール その2					
	⑤	WWWを活用する					
	⑥	WWWを活用する					
	⑦	ホームページを作る その1					
	⑧	ホームページを作る その2					
	⑨	ホームページを作る その3					
	⑩	Wordを使う その1					
	⑪	Wordを使う その2					
	⑫	Excelを使う その1					
	⑬	Excelを使う その2					
	⑭	最終レポート その1					
⑮	最終レポート その2						
成績評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考文献等	テキスト 実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応 noa出版						
備考							
	オフィスアワー	随時(西417 瀬戸研究室)					

科目番号	326	授業科目	住環境と福祉 (Residential Environment and Welfare)			担当者	古川 恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 高齢者や障がい者の生活空間も含めて、住宅内部空間から近隣地域あるいは都市に至るまでの住環境について理解することを目標とする。 高齢者や障がい者にとって住み心地のよい住宅や、シルバーハウジング、グループホーム、ユニット型福祉施設等の多様な生活空間のあり方、また、近隣コミュニティ・まちづくりの必要性への理解を目的とする。						
	2. 授業の内容 住環境には、住宅内部と外部、近隣地域、都市全体と、その範囲には段階がある。それぞれにおける基礎的なことを理解した上で、安心して住み続けられる環境の視点を述べる。 また、福祉住環境コーディネーターの試験内容から住宅改修のポイントを理解する。さらにシックハウスの問題や環境共生についても実例を紹介しながら講義する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 用途地域、建ぺい率・容積率、斜線制限について						
	② 集団規定と単体規定						
	③ 住宅構造・材料						
	④ 木造住宅の構造・名称						
	⑤ 室内環境の調節：採光・照明・温熱						
	⑥ " : 通風・換気・遮音・吸音						
	⑦ インテリア：建具、仕上げ、色彩、テクスチャー						
	⑧ 福祉住環境コーディネーター試験問題から住宅改修のポイント理解－1						
	⑨ 福祉住環境コーディネーター試験問題から住宅改修のポイント理解－2						
	⑩ 介護保険における住宅改修の範囲						
	⑪ 住宅改修の事例紹介－パワーポイントで実例紹介、VHS視聴						
	⑫ 介護予防に配慮した住宅の事例						
	⑬ 福祉施設の事例から計画主旨の理解						
	⑭ } 県民交流センターでの研修－モデルハウス、福祉機器、福祉用具						
⑮ }							
成績評価	筆記試験(50%) ※60分、レポート(50%)の総合評価。						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト／東京商工会議所編□ ・パワーポイント、DVD使用 						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	327	授業科目	社会福祉援助技術 (Social Work Skill)			担当者	久永 繁夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「社会保障制度」や「高齢者福祉論」等で学ぶ社会福祉制度とその関連施策は、生活障害をもつ人のニーズと結びついて、そのニーズを充足することで目的を達成することになる。この過程が社会福祉実践であり、実践過程で用いられる技術が社会福祉援助技術である。介護福祉の実践に必要な相談援助技術と知識を身につけて実践することができる。						
	2. 授業の内容 (1) 社会福祉援助技術の歴史的展開 (2) 社会福祉援助技術の原則 (3) 社会福祉援助技術の機能と介護福祉士役割 (4) 個別援助技術 (5) 集団援助技術 (6) 介護相談の事例 (7) スーパービジョンの意義と方法						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 社会福祉援助技術の歴史的展開 (個別援助技術)						
	② 社会福祉援助技術の歴史的展開 (集団援助技術)						
	③ 社会福祉援助技術の原則						
	④ 社会福祉援助技術の機能と介護福祉士役割						
	⑤ 個別援助技術 (個別援助技術の原則)						
	⑥ 個別援助技術 (個別援助技術の過程)						
	⑦ 個別援助技術 (個別援助技術の過程)						
	⑧ 集団援助技術 (集団援助技術の原則)						
	⑨ 集団援助技術 (集団援助技術の過程)						
	⑩ 集団援助技術 (集団援助技術の過程)						
	⑪ 介護相談の事例						
	⑫ 介護相談の事例						
	⑬ スーパービジョンの意義と方法						
	⑭ スーパービジョンの意義と方法						
⑮ まとめ							
成績評価	筆記試験(70点) レポート(30点)						
参考文献等	<p>テキスト：資料を作成して配布する。参考図書を紹介を行う。 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 介護用語辞典(中央法規出版編集部編)</p> <p>その他：適宜視聴教育資料を使用する。</p>						
備考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	328	授業科目	リハビリテーション論 (Introduction of rehabilitation)			担当者	大西 芳輝
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 リハビリテーションの理念、障害の構造・分類、更に様々な障害の特性や特徴について説明を行う。リハビリテーションの視点から、障害と生活に関する事項の理解が図れることで、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることを目標とする。						
	2. 授業の内容 リハビリテーション総論、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学の4部門の講義と実技で構成し、身体的障害の捉え方、高次脳機能障害者への援助方法、摂食・嚥下のメカニズムなどについて、事例を交えながら進める。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	リハビリテーション総論 リハビリテーションの歴史、理念と障害の概念など					
	②	チームワークとしてのリハビリテーション、医学的リハビリテーションの流れ、共通言語の説明					
	③	小テスト、理学療法学に関する講義、基本動作と姿勢、運動障害					
	④	主な疾病の障害、廃用症候群					
	⑤	小テスト、リスク管理					
	⑥	実技					
	⑦	小テスト、作業療法学に関する講義、日常生活動作(動作分析含む)					
	⑧	高次脳機能障害、認知症					
	⑨	小テスト、福祉用具・自助具、実技					
	⑩	言語聴覚学に関する講義、言語発達学、失語症					
	⑪	構音障害、摂食・嚥下のメカニズム					
	⑫	小テスト、授業内容の復習					
	⑬	介護予防、リハビリテーション専門職との連携					
	⑭	まとめ①					
⑮	まとめ②						
成績評価	受講態度 小テスト(10分) 筆記試験(60分で実施) 課題レポート						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本I」(中央法規) 配布資料にて進める						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	329	授業科目	コミュニケーションの基礎 (Fundamentals of Communication)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義では、言語コミュニケーションや非言語コミュニケーションといった一般的なコミュニケーションの基礎的知識を学びます。また、介護の現場におけるコミュニケーションについて、知識・技術・態度などを理解し、その技法を習得することを目標にします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / コミュニケーションとは何か						
	② リレーションづくりについて						
	③ 自己開示について						
	④ 言語的コミュニケーションの技法①(受容、繰り返し、明確化)						
	⑤ 言語的コミュニケーションの技法②(支持、質問)						
	⑥ 非言語的コミュニケーションの技法①(視線、表情、ジェスチャー、身体接触、服装の与える影響)						
	⑦ 非言語的コミュニケーションの技法②(すわり方、歩き方、ことば遣い、挨拶の与える影響)						
	⑧ コミュニケーション上の諸問題への対処(私的感情、抵抗、沈黙について)						
	⑨ 介護における生活支援とコミュニケーション						
	⑩ 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション						
	⑪ 利用者の特性に応じたコミュニケーション①(コミュニケーション障害の理解)						
	⑫ 利用者の特性に応じたコミュニケーション②(コミュニケーション障害のある利用者への対応)						
	⑬ 利用者の特性に応じたコミュニケーション③(高次脳機能障害、失語症、構音障害)						
	⑭ 利用者の特性に応じたコミュニケーション④(認知症、視力障害、聴力障害、言語障害)						
⑮ 授業のまとめと質疑							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	講義中、適宜紹介します。 新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ピアヘルパーハンドブック 日本教育カウンセラー協会編 ピアヘルパーワークブック 日本教育カウンセラー協会編						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	330	授業科目	生活支援技術C (Life support skills C)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目標とする。このために、本講義では心理面に配慮した「自立に向けた排泄の介護」について考え、その技術を身につけていく。さらに、排泄に関する福祉用具を活用した援助方法についても、演習を通して学ぶ。また、「自立に向けた移動の介護」では、個別性を考慮した移動介助に必要な技術を習得する。						
	2. 授業の内容 (1) 自立に向けた排泄の介護 (2) 自立に向けた移動の介護						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ)					(加藤)
	②	安全・的確な排泄の介助の技法(ポータブルトイレ)					(加藤)
	③	利用者の状態・状況に応じたトイレ介助の留意点(感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している人)					(加藤)
	④	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点(失禁時の介護の留意点)					(加藤)
	⑤	安全で的確な移動・移乗の介助の技法①歩行の介助の技法②歩行補助具・装具と自立支援					(加藤)
	⑥	安全で的確な移動・移乗の介助の技法③ベッドから車いすへの移乗(一部介助)					(加藤)
	⑦	安全で的確な移動・移乗の介助の技法③ベッドから車いすへの移乗(全介助)					(加藤)
	⑧	安全で気兼ねなく動けることを支える介護(外出の環境づくり、社会参加、余暇活動、レクリエーション、その他)					(加藤)
	⑨	排泄の意義・目的、排泄に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)					(浜崎)
	⑩	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ)					(浜崎)
	⑪	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ)					(浜崎)
	⑫	安全・的確な排泄の介助の技法(尿器・差し込み便器)					(浜崎)
	⑬	安全・的確な排泄の介助の技法(尿器・差し込み便器)					(浜崎)
	⑭	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ・尿器・差し込み便器での介助:実技試験)					(浜崎)
⑮	利用者の状態・状況に応じた排泄の介護について(頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁へのアセスメント及び対応、その他の排泄に関する様々な介助について)					(浜崎)	
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は60分で実施 実技試験及びレポート(20%)						
参考文献等	・介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術 II」(中央法規)						
備考							
	オフィスアワー	加藤・浜崎:随時(研究室)					

科目番号	331	授業科目	生活支援技術D (住環境含む) (Life support skills D)			担当者	古川 恵子 浜崎 眞美
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目標とする。このために、本講義では「自立に向けた睡眠の介護」、「終末期の介護」を中心に、個々の感性・人間観・共感を土台に考えを深め、技術に習熟し、専門職としての介護能力を高める。 また、住環境においては生活支援技術(住)の履修内容を発展させ、住環境に関する理解を深める。						
	2. 授業の内容 ① 住環境:生活空間の安全性と使いやすさ、住宅改修事例や改修の演習を通じて住環境整備の重要性を理解する。さらにモデルハウスや近隣地域で環境整備の現状確認をし、今後の課題を把握する。 ② 自立に向けた睡眠の介護 ③ 終末期の介護						
	3. 授業計画						
授 業 計 画	①・②	生活空間と寸法、住空間の安全性と使いやすさのチェック					(古川)
	③・④	超高齢社会における居住環境へのニーズと対応、高齢者の居住状況と居住施策					(古川)
	⑤・⑥	高齢社会に対応した住まいづくり、住宅改修の事例					(古川)
	⑦・⑧	住宅改修と建築分野との連携、高齢者の住宅内事故と安全な住まいの工夫					(古川)
	⑨・⑩	在宅生活における福祉用具の活用と認知症高齢者への在宅環境配慮					(古川)
	①	睡眠の意義・目的、睡眠に関する利用者のアセスメント(ICFの視点に基づく)					(浜崎)
	②	安眠のための介護、安眠を促す介助の技法(ベッドメイキング)					(浜崎)
	③	ベッドメイキング(実技試験)					(浜崎)
	④	利用者の状態・状況に応じた介助(感覚・運動・認知・知覚機能が低下している人)、不眠時の対応、他職種連携					(浜崎)
	⑤	終末期における介護の意義、目的、尊厳の保持					(浜崎)
⑥	終末期における利用者のアセスメント、医療との連携、看取りのための制度					(浜崎)	
⑦	臨終時の介護、グリーフケア、死後のケア					(浜崎)	
⑧	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)に関する基礎知識①					(浜崎)	
⑨	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)に関する基礎知識②					(浜崎)	
⑩	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の実施手順					(浜崎)	
成績評価	古川:学期末試験の成績25点(筆記試験は60分で実施)、提出物25点で総合的に評価する。 浜崎:学期末試験の成績45点(筆記試験は60分で実施)、実技試験5点にて総合的に評価する。						
参考文献等	児玉桂子他編、高齢者が自立できる住まい作り、彰国社、2003年 児玉桂子編、超高齢社会の福祉住環境、中央法規、2008年 介護福祉士養成講座編集委員会編集、「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」「生活支援技術Ⅲ」、(中央法規)						
備考	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	332	授業科目	生活支援技術（食・衣含む） (Livelihood Support Skills Including food and clothing)			担当者	福司山 エツ子 鶴 東 章 子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であつてもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。							
	2. 授業の内容 (食) 「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得するとともに、学習した知識・技術を総合して具体的な食事サービスの提供となる実践力を身につける。 (衣) 家事の中のひとつである、被服の管理について必要な基礎知識又は技術を身につける。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	食事の意義・調理学と栄養					(福司山)	
	②	調理操作基本、理論と実習(和食)					(福司山)	
	③	自立に向けた介護食(日常食・おやつ)					(福司山)	
	④	「おいしく食べる」ことを支える介護食(器具・食卓・食器の工夫)					(福司山)	
	⑤	ひとり暮らしに便利な調理法(ソフト食)					(福司山)	
	⑥	安全で的確な食事介護の技法(加工食品の活用と保存)					(福司山)	
	⑦	安全で的確な食事介護の技法(食中毒とその予防)					(福司山)	
	⑧	認知・知覚機能低下している人の介助・留意点					(福司山)	
	⑨	ありあわせの食材を用いて実習(実習後の報告発表会)					(福司山)	
	⑩	家事に参加する(グループホーム)ことを支える工夫(意欲を引き出す働きかけ)					(福司山)	
	⑪	被服生活の基礎知識(被服の機能、素材の性能、安全性)					(鶴 東)	
	⑫	被服生活における感覚・運動機能が低下している人の留意点、衣類・寝具の衛生管理					(鶴 東)	
	⑬	家事の介助の技法(被服の種類・素材別の洗濯方法・しみ抜き)					(鶴 東)	
	⑭	裁縫(衣類の補修)					(鶴 東)	
⑮	裁縫(ミシンの操作方法と作品製作)					(鶴 東)		
成績評価	(食)レポート(30%)、筆記試験等(60%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。 (衣)レポート・作品・小テスト4回実施(70%)、受講態度(30%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術I」(中央法規出版) 中川英子編著 「介護福祉のための家政学実習」(建帛社) 村山篤子・鎌田浩子編 「新版 家政学実習」(建帛社) 資料による手作りのプリント集							
備考								
	オフィスアワー							

科目番号	333	授業科目	介護過程Ⅲ (Care process Ⅲ)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。そのために利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決するのに必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。						
	2. 授業の内容 (1) 介護計画を立案する目的を理解し、介護計画に記入すべき項目をあげることができる。 (2) 援助目標である「利用者の目指す状態」はどのような内容であるべきか理解する。 (3) 「援助方法」を考える際にどのような点に注意しなければならないか理解する。 (4) 介護計画を立案する手順と表へのまとめ方を習得する。 (5) 「問題解決的な介護」「利用者主体の介護」という点から介護計画の実施を理解する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	授業計画について、介護過程の全体像(復習)、アセスメントとは(復習)					(小城)
	②	情報収集とは、情報収集の方法や留意点(復習)					(加藤)
	③	情報の解釈・関連づけ・統合化について(復習)					(加藤)
	④	アセスメントについて(介護実習Ⅱの事例を用いて整理する)					(加藤)
	⑤	アセスメントについて(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
	⑥	アセスメントについて(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
	⑦	アセスメントについて(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
	⑧	課題の明確化とは					(浜崎)
	⑨	明確にした課題について(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
	⑩	計画の立案について(個別援助計画とは)					(小城)
	⑪	計画の立案について(目標の設定など)					(小城)
	⑫	計画の立案について(支援内容・方法の決定など)					(浜崎)
	⑬	計画の立案について(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
	⑭	計画の立案について(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)
⑮	介護実習Ⅲでの事例を基に介護過程の展開について振り返りを行う					(浜崎)	
成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> 最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) 介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規) 						
備考	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	334	授業科目	介護総合演習Ⅲ (General practice caring Ⅲ)			担当者	加藤 玲子・浜崎 真美 小城 百代・松園 タミ子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。							
	2. 授業の内容 介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行うことができるようになることをねらいとする。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	講義内容説明、プロセスレコード①(目的・内容・分析について)					(浜崎)	
	②	プロセスレコード②(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	③	プロセスレコード③(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	④	施設における介護の理解と実習の心得・進め方について					(小城)	
	⑤	介護実習Ⅲの目標・方法について、実習前検査の説明					(小城)	
	⑥	実習先の概要(介護老人保健施設)、実習の心得と進め方について					(松園)	
	⑦	実習先の概要(小規模多機能型居宅介護・通所介護)					(松園)	
	⑧	福祉用具について(福祉機器展示相談センターへ見学)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑨	福祉用具について(福祉機器展示相談センターへ見学)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑩	介護実習Ⅲの目標・方法の確認、受け持ち利用者について					(浜崎)	
	⑪	介護実習Ⅲの目標・方法の確認、事前訪問について					(浜崎)	
	⑫	介護実習Ⅲについて(自己の実習計画を立てる)					(浜崎)	
	⑬	実習記録用紙など配布、実習反省会について(日時・テーマ等)					(小城)	
	⑭	実習反省会					(加藤・浜崎・小城)	
⑮	介護実習Ⅲの振り返り					(加藤)		
成績評価	加藤・浜崎・小城:レポート(介護過程の展開:アセスメント～介護計画の立案等)(80点) 松園:講義内容に関連したレポート提出(20点)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社)							
備考	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)						

科目番号	335	授業科目	事例研究(ゼミナール) (Case Study)			担当者	久永繁夫・古川恵子 加藤玲子・宮里新之介・浜崎眞美	
			開講学期	学科・専攻	履修方法			単位数
区分	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 介護福祉士の実践をより科学的に高める、事例研究方法の知識と技術の習得。							
	2. 授業の内容 事例研究の目的の理解、事例研究の書き方、研究テーマの設定法などを学び、実習で取り組んだ介護家庭や認知症、障害者の住環境、介護者等の側面から事例研究書作成に向け取り組む。 ○介護保険制度下における施設及び居宅のケアプラン作成(久永) ○環境と福祉(古川) ○心理指導(宮里) ○介護過程の展開(加藤・浜崎)							
授業計画	3. 授業計画							
	①	事例研究に取り組む意義・目的・方法について、テーマの希望調査					(浜崎)	
	②	テーマの希望調査結果について、研究計画書作成について					(浜崎)	
	③	研究計画書作成について					(加藤)	
	④	論文の書き方について					(加藤)	
	⑤	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑥	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑦	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑧	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑨	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑩	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑪	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑫	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑬	事例研究のまとめ					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑭	研究発表会					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
⑮	研究発表会					(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)		
成績評価	事例研究のまとめ及び発表(100点)							
参考文献等	和田 要、大嶋美登子、江原勝幸 ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き(日総研)							
備考								
	オフィスアワー	久永・古川・宮里・加藤・浜崎:随時(研究室)						

科目番号	336	授業科目	介護実習Ⅲ (Care practice Ⅲ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	実習	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し他科目で学習した知識や技術を統合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
	2. 授業の内容 実習施設・事業等(Ⅱ)						
授業計画	3. 授業計画						
	①						
	②	方法					
	③						
	④	・一連の介護過程の展開を行うことができる。					
	⑤	① 受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。					
	⑥	② 受け持ち利用者の情報を解釈・分析し、この利用者にとって何が課題かを見出す。					
	⑦	③ 見出した課題をもとに、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。					
	⑧						
	⑨						
	⑩	・各種の住設備機器や福祉用具を知り、その使用方法を理解し、活用できる。					
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	久永・加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	337	授業科目	認知症者の介護 (Care for a Dementia patient)			担当者	永峯 登美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 認知症者の介護の基本を知り、その人らしさを配慮した対応を提供するために 認知症者に応じた支援技術を学ぶ。						
	2. 授業の内容 ① 認知症者の理解を深め、介護の基本を身につける ② 若年認知症の理解と介護の視点を学ぶ ③ BPSDの事例を通してアセスメントを行い 対応を考えることができる ④ 家族支援、地域包括支援センターについて考えることができる						
授業計画	3. 授業計画						
	①	認知症者の理解(アルツハイマー・脳血管障害)人口動態統計より 認知症者の増加					
	②	認知症者の介護の目的と原則 「脳と心」 ビデオ					
	③	〃	介護の方法	①その人らしい生活環境の提供(レポート)			
	④	②薬物療法(向精神薬の副作用の観察)					
	⑤	③対人関係(コミュニケーション技術)(ビデオ)					
	⑥	④非薬物療法(回想法、レクリエーション療法、芸術・音楽療法)					
	⑦	若年認知症について		介護と支援			
	⑧	事例Ⅰ	暴食	①中核症状とは 周辺症状とは			
	⑨	事例Ⅱ	徘徊	②その人らしさを支える対応			
	⑩	事例Ⅲ	入浴拒否	事例を通して対応を考える (レポート)			
	⑪	事例Ⅳ	暴力行為				
	⑫	認知症の進行に応じた介護					
	⑬	介護のプロフェッサーとは (ビデオ)					
	⑭	家族支援と地域包括支援センター					
⑮	権利擁護のサービス(利用者本位に基づく制度と施策)						
成績評価	筆記試験(45分)(80%) 受講態度、実技、発表態度(10%) レポート(10%)						
	参考文献等	新 介護福祉養成講座 12 認知症の理解 (中央法規出版) 新 介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規出版)					
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	338	授業科目	障害の理解Ⅱ (Understanding of disabilities Ⅱ)			担当者	堀田 哲一郎
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 精神面に障害のある人、重症心身障害のある人、難病のある人について、医学的理解、心理的理解、介護上の留意点を学ぶ。障害のある人の自己決定、エンパワメント、権利擁護、生活のニーズの把握、アセスメント、介護過程について学ぶ。家族への支援も軽視しない。関連職種との連携と協働のあり方、地域における社会資源の活用に関する地域自立支援協議会の機能及び役割について学ぶ。						
	2. 授業の内容 障害のある人の生活の理解(続き) 障害のある人に対する介護 家族への支援 連携と協働						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 精神障害のある人の生活(1)						
	② 精神障害のある人の生活(2)						
	③ 高次脳機能障害のある人の生活						
	④ 発達障害のある人の生活						
	⑤ 重症心身障害のある人の生活						
	⑥ 難病のある人の生活(1)						
	⑦ 難病のある人の生活(2)						
	⑧ 障害のある人に対する介護の基本的支援						
	⑨ 基本的視点に基づいた個別支援						
	⑩ 社会資源の利用と開発						
	⑪ 家族への支援とは何か						
	⑫ 家族の状態の把握と介護負担の軽減						
	⑬ 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携						
	⑭ 地域におけるサポート体制						
⑮ 総括							
成績評価	筆記試験(100点)						
参考文献等	福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』中央法規 OHC、ブルーレイ、VHS使用						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	339	授業科目	レクリエーションワーク (Recreation Work)			担当者	小松・井上・松下・中村
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択		
授業の目標及び内容	授業の目標 (美術) 描いたり、作ったりする活動を通して、基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう。 (音楽) 介護の現場に於いて、心豊かな自己表現のできる介護福祉士としての音楽の基本的な実践力を身につけていく。 (表現) 音を伴う運動教材の習得を通して、動くことの喜びを味合わせることやコミュニケーションの円滑化をはかる手立てを学ぶ。上演用教材を製作し豊かな表現力を養う。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。 1～10 ⇒ 美術(井上・松下) 11～20⇒ 音楽(中村) 21～30 ⇒ 表現(小松)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	水彩絵具による描画表現①		⑰	手話のうたを学ぼう		
	②	水彩絵具による描画表現②～シュタイナー教育のぬらし絵		⑱	楽器を鳴らしてみよう		
	③	紙粘土制作		⑲	合唱や合奏でアンサンブル		
	④	紙粘土作品の彩色		⑳	総括とレポート		
	⑤	紙粘土作品のニス塗りと粘土遊びについての学習		㉑	レクリエーション・ダンスの習得と創作		
	⑥	自然物を主題にした絵葉書制作(構図・形の捉え方)		㉒			
	⑦	着色・総括(水彩絵の具の特徴と指導上の留意点)		㉓	車椅子体操製作		
	⑧	技法遊び① こすりだし・墨流し		㉔			
	⑨	技法遊び② 型押し・洗い出し		㉕	車椅子ダンスの習得		
	⑩	コラージュ版画		㉖	フーセンバレーボールの習得		
	⑪	高齢者と音楽について		㉗	レクリエーション教材の製作と演技技術の習得(エプロンシアター・パネルシアター等)及び発表		
	⑫	心を癒す音楽Ⅰ(明治時代のうたを中心に)					
	⑬	心を癒す音楽Ⅱ(大正時代のうたを中心に)					
	⑭	心を癒す音楽Ⅲ(昭和時代のうたを中心に)					
	⑮	郷土のわらべうたや民謡を中心に		㉘			
⑯	リトミックを体験しよう						
成績評価	(美術) 出席回数と受講態度(30点)・作品評価(70点) (音楽) 授業中の表現活動や態度(50%)とレポート(50%)で評価する。 (表現) 各課題の評価(90%)と受講態度(10%)で評価する。						
参考文献等	(美術) 参考文献:基礎・基本をおさえた絵の指導 東山明監修 明治図書 (音楽) 思い出の愛唱歌・こどものうた(野ばら社) (表現) 講義中に指示する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	340	授業科目	人間関係とコミュニケーション (Human Relations and Communication)			担当者	園田 美保
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他者と関わりながら生きている自分や、自分と関わっている他者・社会について、主に心理学の視点から理解する。そのうえで、他者と関わって生きていく事に敏感になる。 さらに、日常生活での自身の行動や、これからの行動を見直すきっかけとする。						
	2. 授業の内容 主には社会心理学や発達心理学などでの知見をもとに、対人関係を様々な視点から見ていく。その中には、親子やきょうだい、仲間関係といった関係性から見る視点や、関係づくりの中で働く心理的作用という視点、コミュニケーションをスキルでとらえる視点などが含まれ、今後の対人関係に役立つ内容を紹介する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション ー講義形式、授業計画、例えば人間関係を心理学してみると？ー						
	② 人間関係の始まり ー親子関係、愛着、養育態度、しつけ法ー						
	③ きょうだいや仲間 ーきょうだいの性格、きょうだいへの親の対応、仲間関係のはじまりと発展ー						
	④ 非言語コミュニケーション ー種類、社会的知能ー						
	⑤ 社会的スキル ー人間関係のスキル、社会的スキルの訓練法ー						
	⑥ 主張性 ー真の主張性を身につけるために、問題解決のためのアサーションー						
	⑦ 共感性 ー思いやりと共感性、共感の発達、共感的理解、共感的な接し方ー						
	⑧ 対人認知と感情 ー他者のパーソナリティ認知、認知の歪み、偏見ー						
	⑨ 印象形成 ー情報間の影響、印象がつくられるしくみ、印象を作らせる自己呈示ー						
	⑩ 対人魅力 ー好意を高める条件; 個人特性/空間の近接性/態度の類似/自己開示の適切さ/好意の返報性ー						
	⑪ 友情と愛情 ー友人関係の意義と成立要因、友情を守るルール、恋愛関係の類型化、恋愛プロセスー						
	⑫ 社会的自己 ー自己概念、自己の形成過程、自己評価、自己開示ー						
	⑬ ストレスと人間関係 ー対人ストレス、ストレス緩和要因ー						
	⑭ 幸福感と人間関係 ー主観的幸福感、幸せ感と関連する要因、心理的well-being ー						
⑮ 総括・振り返り							
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度(70%)・最終レポート(30%)						
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材: プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト						
備考							
	オフィスアワー	金曜日以外で随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	341	授業科目	介護の基本Ⅳ (Fundamentals of care IV)			担当者	加藤 玲子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、介護従事者の倫理及び介護における安全やチームケア等について理解を深める						
	2. 授業の内容 (1) 生活空間と介護 (2) 介護における安全の確保とリスクマネジメント						
授業計画	3. 授業計画						
	① 利用者の人権と介護						
	② プライバシー保護						
	③ 高齢者の理解(機能低下)						
	④ 高齢者の理解(認知症)						
	⑤ 障害者の理解						
	⑥ 障害者の理解(視覚障害者)						
	⑦ 障害者の理解(難病)						
	⑧ 自立支援						
	⑨ 在宅生活						
	⑩ 在宅での事故の特徴と対策						
	⑪ 受診援助、服薬、医療行為へのチームアプローチ						
	⑫ 施設内事故の特徴と対策						
	⑬ 緊急・事故時対応、救急対応の実際						
	⑭ 事故防止、安全対策、防火・防災対策						
⑮ 災害時ネットワークや日々の見守り等							
成績評価	筆記試験(60分で実施)・受講態度・レポートに基づいて総合的に評価する。						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅱ」(中央法規) 介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」(ミネルヴァ書房)						
備考							
	オフィスアワー	加藤:随時(研究室)					

科目番号	342	授業科目	介護過程Ⅳ (Care process Ⅳ)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、実習での経験をふまえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。また、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。							
	2. 授業の内容 (1) 介護における「記録」の意義を理解する。 (2) 介護過程において、評価とは何かを理解する。 (3) 事例を通して、介護過程がどのように行われるのかを把握する。 (4) 介護過程とチームアプローチについて理解する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	授業計画について、介護過程の展開(アセスメント～計画の立案)について(復習)					(加藤)	
	②	介護過程の展開:実施について					(浜崎)	
	③	実習事前準備(介護実習Ⅳにおける受け持ち利用者を決める)					(小城)	
	④	介護過程の展開:評価について					(小城)	
	⑤	介護過程の展開及び受け持ち利用者希望について(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑥	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑦	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑧	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑨	介護過程の展開(介護実習Ⅳ)での実践内容を報告書にまとめる					(小城)	
	⑩	介護過程の展開(介護実習Ⅳ)での実践内容について報告書にまとめたものを報告し、相互に評価していく(GW)					(小城)	
	⑪	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:ケースカンファレンス					(加藤)	
	⑫	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:サービス担当者会議					(加藤)	
	⑬	介護過程とケアマネジメントの関係性					(浜崎)	
	⑭	介護過程とケアマネジメントの関係性					(浜崎)	
⑮	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:演習					(加藤)		
成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> 最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) 介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規) 							
備考								
	オフィスアワー	加藤・浜崎・小城:随時(研究室)						

科目番号	343	授業科目	ケアマネジメント (Care Management)			担当者	久永 繁夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの展開ができる能力を身につける。また、「施設サービス計画」および「居宅サービス計画」を作成することにより、サービス計画を読み取る能力と介護計画作成の能力を身につけて、介護現場での対応能力を身につける。						
	2. 授業の内容 演習の進め方:介護保険法に基づく施設サービス計画書の様式で作成する。適宜グループをつくり作成した計画を発表しながら、相互に学ぶ活動を学びあう機会を作りながら、サービス計画を完成させる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 施設サービス計画書の構成及び作成の手順に対する説明						
	② 施設サービス計画の作成 ① サービス目標の設定と総合的な援助方針の作成						
	③ ② 生活全般の解決すべき課題の設定						
	④ ③ 援助目標の設定						
	⑤ ④ 援助内容の作成						
	⑥ ⑤ サービス担当者会議の開催						
	⑦ ⑥ ケアプランのプレゼンテーション						
	⑧ 居宅サービスの作成 ① サービス目標の設定と総合的な援助方針の作成						
	⑨ ② 生活全般の解決すべき課題の設定						
	⑩ ③ 援助目標の設定						
	⑪ ④ 援助内容の作成						
	⑫ ⑤ その他週間計画・日課票等の作成						
	⑬ ⑥ サービス担当者会議の開催						
	⑭ ⑦ ケアプランのプレゼンテーション						
⑮ プレゼンテーションのまとめと講評							
成績評価	授業への参加態度(20点)、レポート(80点)に基づいて総合的に評価する。						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「コミュニケーション技術」(中央法規)						
備考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	344	授業科目	介護総合演習Ⅳ (General practice caring Ⅳ)			担当者	加藤 玲子・浜崎 眞美 小城 百代・福留 弘 若松 喜美代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。						
	2. 授業の内容 介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行うことができるようになることをねらいとする。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 後期講義内容の説明、介護実習Ⅳに向けて自己課題を明確にする、実習施設についての理解を深める。実習評価表個人指導 (加藤・浜崎・小城)						
	② 介護実習Ⅳについて、実習事前検査説明、事前訪問について (小 城)						
	③ 施設における介護の理解と実習の心得・進め方について(障害者支援施設) (福 留)						
	④ 施設における介護の理解と実習の心得・進め方について(重症心身障害児施設) (福 留)						
	⑤ 多職種協働について (若 松)						
	⑥ 家族との連携について (若 松)						
	⑦ 介護実習Ⅳについて(夜勤のことや会議等への参加について) (小 城)						
	⑧ 救急蘇生法(講義・演習) (加藤・浜崎・小城)						
	⑨ 救急蘇生法(講義・演習) (加藤・浜崎・小城)						
	⑩ 介護実習Ⅳについて(実習・事業等Ⅱでの学ぶべき内容の確認)、実習反省会について(日時やテーマ等)、実習記録などの準備・確認 (小 城)						
	⑪ 介護実習Ⅳについて(自己の実習計画を立てる) (浜 崎)						
	⑫ 実習反省会 (加 藤)						
	⑬ 介護実習Ⅳにおいて情報交換 (加 藤)						
	⑭ 介護福祉士とは、介護福祉士の役割について明確にする(GW) (小 城)						
⑮ 専門職能団体の理解(介護福祉士会)、介護福祉士登録証登録のための説明 (小 城)							
成績評価	加藤・浜崎・小城:レポート(介護過程の展開:アセスメント～介護計画の実施・評価・考察等)(80%) 福留・若松:講義内容に関連したレポート(20%)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護過程」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社)						
備考	オフィスアワー 加藤・浜崎・小城:随時(研究室)						

科目番号	345	授業科目	介護実習Ⅳ (Care practice Ⅳ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	実習	3	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し他科目で学習した知識や技術を統合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
	2. 授業の内容 実習施設・事業等(Ⅱ)						
授業計画	3. 授業計画						
	①						
	②	方法					
	③	・一連の介護過程の展開を継続的に実施することができる。					
	④	① 受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。					
	⑤	② 受け持ち利用者の情報を解釈・分析し、この利用者にとって何が課題かを見出す。					
	⑥	③ 見出した課題をもとに、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。					
	⑦	④ 安全・安楽に十分留意しながら、立てられた具体的計画を実際に行ってみる。					
	⑧	⑤ 実施したことに対する利用者の変化や反応を観察し、どのような効果があったか、工夫すべき点は何か、今後どのように活かしていけばよいかなどを評価・考察する。					
	⑨						
	⑩	・チームの一員としての役割を自覚し、介護体制を知り、総合的な判断力を身につけ、介護業務を遂行することができる。					
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	久永・加藤・浜崎・小城:随時(研究室)					

科目番号	346	授業科目	こころとからだのしくみⅡ（精神） （Mechanism of Mind and BodyⅡ -Mind-）			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義では、介護技術の根拠となる精神機能について学び、老化に伴う身体の変化と精神機能及び心理状態の関連についての理解を深めます。心身の両面から被介護者の状態を読み取り、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、いかにして被介護者の残存能力・潜在能力を引き出し、自立を支援するための適切な介護方法ができるのかを考える力を養うことを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション / 健康とは何か					
	②	こころのしくみの基礎 ①（意欲・動機づけ）					
	③	こころのしくみの基礎 ②（学習・記憶・思考）					
	④	こころのしくみの基礎 ③（感情・適応）					
	⑤	人間の欲求について					
	⑥	自己概念と尊厳について					
	⑦	自己実現といきがいについて					
	⑧	移動に関連したこころとからだのしくみ					
	⑨	食事に関連したこころとからだのしくみ					
	⑩	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ					
	⑪	排泄に関連したこころとからだのしくみ					
	⑫	睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
	⑬	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみ					
	⑭	高齢者への心理的サポートを目的とした関わり(回想法、心理劇)					
⑮	高齢者への心理的サポートを目的とした関わり(動作療法)						
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会(編集)「こころとからだのしくみ」中央法規出版 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	347	授業科目	ターミナルケア (Terminal care)			担当者	馬見塚 勝郎 長倉 伯博 楠本 信道	
			開講学期	学科・専攻	履修方法		単位数	必修・選択の別
区分	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。更に、今後迎える高齢化社会において加齢を背景とした慢性期疾患、その中でも癌患者の増加が予想されるため、施設における終末期医療の在り方について福祉の観点から考察を深める。							
	2. 授業の内容 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。具体的には①死にゆく人のこころとからだのしくみの理解(『死の捉え方、終末期から危篤・死亡時のからだの変化の理解』)②『死』に対する利用者・家族のこころの理解 ③ターミナル期における医療職との相互連携の必要性の理解							
授業計画	3. 授業計画							
	①	ターミナルケアとは					(馬見塚)	
	②	全人的医療とは					(馬見塚)	
	③	ホスピスの歴史					(馬見塚)	
	④	ターミナル期における身体的変化					(馬見塚)	
	⑤	高齢者の身体的変化					(馬見塚)	
	⑥	病状告知					(馬見塚)	
	⑦	症状コントロール					(馬見塚)	
	⑧	家族ケア					(馬見塚)	
	⑨	死をめぐる倫理的な問題(安楽死、尊厳死)					(馬見塚)	
	⑩	臨死期における身体的変化と看取り					(馬見塚)	
	⑪	トータルペインについて 1)理論と意味					(長 倉)	
	⑫	2)症例を通して学ぶ					(長 倉)	
	⑬	3)演習					(長 倉)	
	⑭	インドにおける死生観と看取り					(楠 本)	
⑮	日本における死生観と看取り					(楠 本)		
成績評価	講義中に触れた内容を元にした、各自が考える施設でのターミナルケアの実践に関してレポートを提出してもらう。キーワードに対する理解の深さをレポート内容から点数化して採点する。 ・レポート 80%、受講態度 20%							
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ ・緩和ケア百科 春秋社 ・よく生き よく笑い よき死と出会う アルフォンス・デーケン 新潮社 ・ビハラー実践活動研究会[1993]『ビハラー活動―仏教と医療と福祉のチームワーク…』 							
備考								
	オフィスアワー	(久永研究室に事前連絡)						

科目番号	348	授業科目	聴覚障害者の生活支援 (A hearing-impaired person's assisted living)			担当者	下田代 修子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話を学ぶことにより、言語が人間形成にどのような関わりを持つのかを知る。障害を持つ人たちの社会参加が促されているが、一方、社会はどうか？ 障害者に対する社会的な状況を理解し、自らの役割について考えさせる。						
	2. 授業の内容 現在までの歴史を振り返り聴覚障害者の福祉を学び、福祉のあり方について学ぶ。聴覚障害者の日常的な不便について考え、さらにコミュニケーション手段である手話を学び、日常的な会話ができるようになる。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 表現の基礎 挨拶と名前を表現する						
	② 挨拶と名前を含めた会話編を表現する						
	③ 身体表現をさせる。家族の単語の表現を学ぶ。						
	④ 家族の表現、会話編を表現させる。						
	⑤ 耳のしくみについて						
	⑥ 言葉の獲得について						
	⑦ 聞こえること、聞こえないことの違いについて						
	⑧ 動きの表現、数字の表現、名前の表現の復習						
	⑨ 自己紹介のまとめ 時制の表現						
	⑩ ケース討議—中途失聴者の就労問題に対するケース						
	⑪ 時間の表現の復習、物語を手話で表現する						
	⑫ 実習後の感想を手話で表現させる。(実技試験対象)						
	⑬ 聴覚障害者のバリアフリー 実技の復習						
	⑭ コミュニケーションと言語 実技の復習						
⑮ まとめ							
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートレポート(25%) ・技術評価(25%) ・演習(ケース討議)レポート(25%) ・授業態度(10%) ・出席状況(15%) 						
参考文献等	全日本ろうあ連盟 出版「新 手話教室 — 入門」 中央法規 8 生活支援技術Ⅲ						
備考							
	オフィスアワー						

專 門 科 目

食物栄養学専攻

科目番号	401	授業科目	基礎生化学 (Basic Biochemistry)			担当者	住澤 知之
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	3	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 栄養士に必要な基礎知識として、生命現象の仕組みについて理解する。						
	2. 授業の内容 私たちが健康的に生きていけるのは、体の中で種々の酵素による代謝が、速やかに、滞りなく、正しく行われているからです。そこでまず、三大栄養素の化学構造について概説し、それらが体内でどのように代謝されるのかについて学びます。 栄養士になるために、この生命現象の仕組みのすばらしさをよく理解して、栄養士実力認定試験に必要な基礎知識を取得してもらいます。また、生化学で必要な有機化学に関しては、その都度基礎から解説します。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識			⑯	解糖系	
	②	細胞と生体膜			⑰	クエン酸回路(1)	
	③	アミノ酸			⑱	クエン酸回路(2)	
	④	ペプチドとタンパク質			⑲	糖新生	
	⑤	酵素(1)			⑳	グリコーゲン(1)	
	⑥	酵素(2)			㉑	グリコーゲン(2)	
	⑦	単糖類			㉒	ほかの六炭糖の代謝	
	⑧	二糖類と多糖類			㉓	前期のまとめ	
	⑨	脂肪酸と単純脂質					
	⑩	複合脂質など					
	⑪	ATPの役割と生体酸化					
	⑫	電子伝達系と酸化的リン酸化					
	⑬	中間代謝の概要(1)(概要、糖質代謝)					
	⑭	中間代謝の概要(2)(脂質代謝、アミノ酸代謝)					
⑮	中間代謝の概要(3)(代謝経路の調節)						
成績評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「はじめて学ぶ生命科学の基礎」 化学同人 「ヴォート 基礎生化学」 第3版 東京化学同人 「ストライヤー 基礎生化学」 東京化学同人 「栄養科学イラストレイティッド 生化学」 羊土社						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	402	授業科目	食品学総論 (Food Science)			担当者	村山恵美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 わが国においては、現在多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品に関する基礎的知識を身に付けることを目的とする。						
	2. 授業の内容 食品成分の特性や化学変化、色、味、香り等の嗜好成分や食品の物性等について、実際の食生活と関連づけながら学習する。また、栄養士必携の食品成分表についてもその内容を理解できるように解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	人間と食品					
	②	食品成分表					
	③	水分、炭水化物					
	④	たんぱく質と酵素					
	⑤	脂質					
	⑥	無機質					
	⑦	ビタミン					
	⑧	色素成分					
	⑨	呈味成分					
	⑩	香気成分					
	⑪	食品成分の変化					
	⑫	食品の機能性					
	⑬	特別用途食品・保健機能食品					
	⑭	食品の物性					
⑮	官能検査						
成績評価	筆記試験(60分で実施、90%)、小試験(10%)						
参考文献等	教科書：種村安子他著「イラスト食品学総論」東京教学社 参考書：新しい「日本食品標準成分表2010」による食品成分表 液晶プロジェクター、VHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	403	授業科目	食品学実験 (Experiments of Food Science)			担当者	村山恵美子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実験に必要な基礎知識と基本操作を学び、後に続く種々の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実習できるように、基本的実験姿勢を身に付け、食品に対する理解を深めることを目的とする。						
	2. 授業の内容 水分測定やpH測定、各種滴定、分光光度計による測定、酵素を利用した測定、顕微鏡観察等基本的な実験手法を使って食品の分析を行う。また、食品成分表に記載されている成分に関しては、日本食品標準成分表分析マニュアルに従って測定を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 実験の基礎知識(機械・器具名、操作法、安全に実験を行うために、レポートの書き方等)						
	② 水分測定						
	③ 食酢中の酢酸の定量						
	④ 醤油中の塩化ナトリウムの定量						
	⑤ pHの測定と緩衝能						
	⑥ 無機質の定性、炎色反応						
	⑦ 糖質の定性						
	⑧ でんぷんの抽出、検鏡、性質						
	⑨ アミロース含量の測定						
	⑩ 醤油中のグルタミン酸定量						
	⑪ たんぱく質の定性実験						
	⑫ 酵素の活性測定						
	⑬ 食品の酵素による褐変、非酵素的褐変						
	⑭ 油脂の化学的試験(酸価、過酸化価、ケン化価)						
⑮ 官能検査							
成績評価	レポートの提出状況・受講態度(60%)、筆記試験(60分で実施、40%)						
参考文献等	教科書：江角彰彦「食品学総論実験-実験で学ぶ食品学-」(同文書院) プリント 液晶プロジェクター						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	404	授業科目	食品衛生学 (Food Hygienics)			担当者	村山恵美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化、劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽証表示、食料自給率低下、輸入食品の増加等の実態に目を向け、安全・安心な食生活を送るためにはどうすれば良いかを考える。						
	2. 授業の内容 各種食中毒、食品に関連する感染症、寄生虫症について学習し、その予防法や衛生管理法を習得する。また、環境汚染と食品汚染の関連、食品添加物の実態、遺伝子組み換え食品やアレルギー食品等、様々な食品に関する諸問題に目を向け、情報を理解するための表示法等を学ぶことによって現状認識をする。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	食品衛生と微生物					
	②	微生物性食中毒					
	③	〃					
	④	〃					
	⑤	自然毒食中毒					
	⑥	化学性食中毒					
	⑦	食中毒の予防と衛生管理					
	⑧	経口二類感染症と人獣共通感染症					
	⑨	食品寄生虫					
	⑩	食品汚染物質					
	⑪	食品の器具・容器包装の衛生					
	⑫	食品添加物総論					
	⑬	食品添加物各論					
	⑭	新しい食品の諸問題と表示					
⑮	食品衛生行政と法規						
成績評価	筆記試験(60分で実施、90%)、小試験(10%)						
参考文献等	教科書：小塚諭編「イラスト食品の安全性」(東京教学社) 参考書：中村好志・西島基弘編「食品安全学」同文書院 細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑」建帛社 液晶プロジェクター、VHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	405	授業科目	栄養指導論 I (Nutritional Guidance I)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 栄養指導の基礎(食事摂取基準)を学ぶ 2. 栄養指導の応用(食品構成と献立)を学ぶ 3. 栄養指導に関するの法令(栄養士法、健康増進法)を学ぶ 4. 栄養指導のための資料(食事調査)を学ぶ						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	ガイダンス					
	②	栄養指導の基礎①					
	③	栄養指導の基礎②					
	④	栄養指導の基礎③					
	⑤	栄養指導の基礎④					
	⑥	栄養指導の応用①					
	⑦	栄養指導の応用②					
	⑧	栄養指導の応用③					
	⑨	栄養指導の応用④					
	⑩	栄養指導に関する法令①					
	⑪	栄養指導に関する法令②					
	⑫	栄養指導に関する法令③					
	⑬	栄養指導のための資料①					
	⑭	栄養指導のための資料②					
⑮	まとめ(分かったこと、難しかったこと)						
成績評価	定期試験(85%)及び小テスト(15%)により評価						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食事摂取基準2010年度版(第一出版:厚生労働省) ・栄養学概論(同文書院:田中平三 中村丁次) ・栄養指導論(建帛社:相川りえこ他) 						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	406	授業科目	給食管理 (Food Service Management)			担当者	竹原 小菊
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 特定給食施設で給食を実施するために必要な栄養士の基礎知識を習得させ、給食経営管理を視野に入れた給食運營業務の実践力を身に付けた栄養士を目指す。						
	2. 授業の内容 「特定多数人に対して、通例として、継続的に1回100食以上、1日250食以上の食事を供給する施設」を特定給食施設という。この特定給食施設で給食を実施するにあたり、中間管理職としての栄養士の基礎知識として、栄養・献立管理、衛生・安全管理、食材料管理、作業管理、経営管理等、多方面からの管理について学び、病院、学校、事業所、社会福祉施設(保育所・老人福祉施設等)等の各特定給食施設に対応した給食管理の在り方を習得させる。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	給食の概念 給食の定義と目的					
	②	健康増進法における特定給食の位置づけ(栄養管理基準)					
	③	給食における栄養・食事管理・栄養・食事管理の目的及び献立計画					
	④	・栄養・食事管理の評価と栄養教育					
	⑤	給食の調理管理 ・食材料管理(購入・検収・保管)					
	⑥	・調理作業管理(大量調理の特性、工程・品質管理)					
	⑦	・安全・衛生管理(給食関係者、食材、施設設備、事故・災害時対策)					
	⑧	給食の組織・人事管理					
	⑨	給食の会計・原価管理(ABC分析)					
	⑩	給食の事務管理(情報処理管理)					
	⑪	保健・医療・福祉・介護における給食施設の給食管理 ・学校給食施設					
	⑫	・病院給食施設					
	⑬	・保育所等児童福祉施設					
	⑭	・高齢者・介護福祉施設					
	⑮	・事業所等					
⑯	定期試験(60分)						
成績評価	定期試験(80%)、受講態度(10%)、提出物(10%)						
参考文献等	テキスト：エスカベーション「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 栄養士必携(社)日本栄養士会 第一出版 参考文献：食品成分表 日本人の食事摂取基準(2010年版) 厚生労働省策定検討会報告書 第一出版 視聴覚機器：ビデオ、パワーポイント						
備考							
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

科目番号	407	授業科目	調理学 (Cooking Science)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 調理学は、「食べる」ことの生理的意義と、精神的意義をもつ人間学の原点と言える。 “食べ物”を対象とし、人々の心身の健康と幸せを願い、調理に関する事柄を科学的に究明し、再現性を見出し、調理操作や食品の調理特性を中心に、調理技術の向上・食生活の実践に役立つ理論について学ぶ。						
	2. 授業の内容 調理の目的を明確にし、安全性・栄養性・嗜好性・食の文化性を基本要素とし、経済性・実用性・簡便性等の流動的要素を組み込み、食事計画や調理操作,調理と味・食品素材の調理、また調理と環境について学ぶ。主に、調理と味,食品素材と調理に関する事項を中心に学習していく。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 調理学の意義・役割						
	② 調理操作 非加熱調理操作						
	③ 調理操作 加熱調理操作						
	④ 調理操作 調味操作						
	⑤ 調理操作 調理器具・エネルギー源						
	⑥ 調理と味 食物のおいしさ 化学的な味						
	⑦ 調理と味 食物のおいしさ 物理的な味						
	⑧ 食品素材と調理 主食として用いる食品の調理(米)						
	⑨ 食品素材と調理 主食として用いる食品の調理(小麦)						
	⑩ 食品素材と調理 主菜として用いる食品の調理(魚介類・食肉類)						
	⑪ 食品素材と調理 主菜として用いる食品の調理(卵類・豆類)						
	⑫ 食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(野菜類)						
	⑬ 食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(いも類)						
	⑭ 食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(牛乳・乳製品)						
	⑮ 食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(藻類・きのこ類・果実類)						
	⑯ 食品素材と調理 成分抽出素材 でんぷん・油脂・ゲル化剤						
成績評価	筆記試験(60分で実施)80%・受講態度10%・課題レポート10%の総合評価						
参考文献等	テキスト：NEW基礎調理学・石松,鋭,外西・医歯薬出版株式会社 参考文献：原色食品図鑑・菅原龍幸,井上四郎・建帛社布プリント 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	408	授業科目	調理学実習 I (Cooking Training I)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 食生活を健康的に営むために、科学的・合理的な調理学の基礎知識にもとづき、日本料理,西洋料理,中国料理の各様式を取り入れ、献立立案から食卓までの諸要素についての確にとらえられるようにする。 さらに、健康で楽しく正しい食生活のあり方について、一汁三菜の基本的な日常食の献立立案と実践力の育成を目指す。						
	2. 授業の内容 調理学理論の学習と並行し、調理の基本操作から、日本料理,西洋料理,中国料理の各様式別に特徴を捉えた実習を行う。また、実習と同時に食卓作法,供卓法および食事マナーについても学ぶ。さらに、栄養面を考慮した献立立案や食文化についても触れながら実習をすすめる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 調理学実習の心得と諸注意						
	② 基本調理:計量,包丁の使い方						
	③ 日常食の献立作成						
	④ 日本料理①						
	⑤ 日本料理②						
	⑥ 西洋料理①						
	⑦ 西洋料理②						
	⑧ 日本料理③						
	⑨ 中間まとめ						
	⑩ 中国料理①						
	⑪ 中国料理②						
	⑫ 西洋料理③						
	⑬ 日本料理④						
	⑭ 中国料理③						
⑮							
成績評価	受講態度20%・実習レポート60%・課題レポート10%・実技試験10%の総合評価						
参考文献等	テキスト：操作別調理学実習・中野,外西,二木,池田・同文書院 参考文献：調理と理論・山崎清子,島田キミエ・同文書院 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	409	授業科目	化学 (Chemistry)			担当者	横峯 孝昭
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 私たちの身の回りには多くの物質が存在している。私たちはこれらの物質を適切に用いたり、調理したりしているだろうか。適切に用い、調理するためには、素材の成分や性質をよく知り、これにあった取扱方法を考えることが必要となる。そこで、これらを理解するための化学の基本を体得することを目標とする。						
	2. 授業の内容 物質は何からできているか、化学変化、物質の状態、有機物、三大栄養素のように体内にある物質の役割について基本的なことから習得していけるよう進めていく。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 物質の成り立ち－原子・イオン・分子、地球上のものを形作るものの正体						
	② //						
	③ //						
	④ //						
	⑤ //						
	⑥ //						
	⑦ //						
	⑧ 物質の変化(1)－燃えるということ						
	⑨ 物質の変化(2)－原子や分子の「量」をはかる						
	⑩ 物質の変化(3)－色々な化学変化						
	⑪ 物質の変化(4)－化学変化と「熱」のかかわり						
	⑫ 物質の状態と性質(1)－物質の状態は変わる						
	⑬ 物質の状態と性質(2)－物質が水にとける						
	⑭ 物質の状態と性質(3)－電気を通す水溶液						
⑮ 総括							
成績評価	受講態度(30%)及び講義中に行う課題の達成(70%)						
参考文献等	参考文献は講義中に適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	410	授業科目	くらしとお茶A (Life and Tea)			担当者	福司山 エツ子 大城光高・中禮雅治		
								開講学期	学科・専攻
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	日本茶アドバイザー受験資格必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 日本茶は、2千余年の長きにわたり人類に愛用されたコーヒー、ココアと共に世界三大嗜好飲料である。鹿児島はその生産量で全国2位である。長い歴史があるだけに食文化、茶文化を形成している。近年、お茶の持つ効能が解明されるにつれ、健康飲料として見直されつつ、日本食文化の発展と日本茶の正しい理解と普及に携わる人を育成したい。								
	2. 授業の内容 日本茶は、日本の食文化、ひいては日本文化に深く影響を与えてきた国民的飲料である。このような背景のある日本茶について、茶の歴史、茶のサイエンス・品質、茶の効能、茶の利用など茶に関する正しい知識と理解を深め、茶と食育の関係を学び新たなお茶文化を通して礼儀作法を身につける。日本茶アドバイザーの意義と概要を理解する。								
授業計画	3. 授業計画								
	①	日本茶の歴史、鹿児島茶の歴史							
	②	茶と食育							
	③	茶業のあらまし							
	④	茶の栽培と製造							
	⑤	茶のサイエンス							
	⑥	茶の品質検査、鑑定法							
	⑦	茶の効能・効果							
	⑧	茶の利用							
	⑨	インストラクション技術(服装、話し方、接客)							
	⑩	〃 (茶の入れ方)							
	⑪	〃							
	⑫	〃							
	⑬	日本茶インストラクターによる指導							
	⑭	まとめ							
⑮	アドバイザー試験について								
成績評価	テキストに沿った毎回小テスト		70%		試験等総合評価			30%	
参考文献等	テキスト「日本茶アドバイザー講座」日本茶インストラクター協会								
備考									
	オフィスアワー	随時(研究室)							

科目番号	411	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、栄養教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション					
	②	教師とは誰かⅠ－教師の役割					
	③	教師とは誰かⅡ－教師の資質					
	④	教師とは誰かⅢ－法規から見た教師					
	⑤	学校における養護教諭の位置づけ－法規上の関係も含む					
	⑥	学校組織と教師－様々なチームワークの取り組み					
	⑦	教育問題を考える					
	⑧	学校問題を考える					
	⑨	子どもを知る(Ⅰ)－子どもの発達・成長(幼児期・児童期)と教育の目的					
	⑩	子どもを知る(Ⅱ)－子どもの発達・成長(青年期)と教育の目的					
	⑪	子どもを知る(Ⅲ)－現代の教育問題から					
	⑫	自分を知る(Ⅰ)－資質の検討のために					
	⑬	自分を知る(Ⅱ)－自分なりの教師像の模索のために					
	⑭	自分を知る(Ⅲ)－自分なりの教育観の模索のために					
⑮	まとめ						
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	412	授業科目	情報機器演習 (Introduction to Instruments for Information Use)			担当者	鈴木 雄清
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 Web検索において効率よく情報を検索し、必要な情報を選別できるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いて、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーション資料を作成したりすることができるようになる。さらに、情報モラルに関する用語の意味や、問題に直面したときどのように行動するべきかについて説明できるようになる。						
	2. 授業の内容 コンピュータリテラシ教育の一環として、学習や業務においてコンピュータを活用していくために必要な基礎的な知識や技能を学ぶ。情報の収集・加工や、ワードプロセッサや電子メールを使ってのレポート及びプレゼンテーション資料作成のスキルを習得する。また情報モラルに関するルールや用語について学ぶ。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	【1】ガイダンス、強いパスワードとパスワード管理					
	②	【1】インターネットの仕組み、検索エンジンと情報検索(論理式)、情報モラル(1)					
	③	【1】ファイルの拡張子、ドメイン制約・ファイル形式検索、情報モラル(2)					
	④	【1】ショートカットキー・プリンタと用紙、情報モラル(3)					
	⑤	【1】電子メールの利用、情報モラル(4)					
	⑥	【2】Wordによるレポート(1)作成と印刷、情報モラル(5)					
	⑦	【2】Wordによるレポート(2)図の挿入・校正・レビュー					
	⑧	【2】PowerPointによるプレゼン資料(1)作成・コンテンツ挿入・構成					
	⑨	【2】PowerPointによるプレゼン資料(2)共通デザイン・特殊効果					
	⑩	【2】Excelの基本(1)表の作成・参照方式・関数・グラフ・Word連携					
	⑪	【2】Excelの基本(2)シート間参照・書式					
	⑫	【3】プレゼン資料の作成方法					
	⑬	【3】プレゼン資料の作成(1)資料検索					
	⑭	【3】プレゼン資料の作成(2)					
⑮	総まとめ						
成績評価	<p>〈方法〉最終試験(60%)、最終課題(40%)の累積で評価する。欠席1回につき5点を減点する。 ※最終試験(オンラインテスト)は90分で実施 〈基準〉すべての小テスト(満点)とすべての課題の提出を単位取得の条件とする。</p>						
参考文献等	○テキスト1:富士通オフィス機器株式会社『学生に役立つWord&Excel&PowerPoint — Microsoft Word 2010/Microsoft Excel 2010/Microsoft PowerPoint 2010対応』FOM出版、2010年 [¥1,800] ○テキスト2:大橋真也・森夏節・立田ルミほか『ひと目でわかる最新情報モラル 第2版』日経BP社、2011年 [¥500] ○USBフラッシュメモリ [¥1,000程度] (詳細は授業中に説明する)						
備考	テキストは2冊とも授業で使用する。						
	オフィスアワー						

科目番号	413	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また成長期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーションー 自分たちの過去を思い出そう						
	② 成長するとは？(Ⅰ)ー 身体的成長と精神的成長						
	③ 成長するとは？(Ⅱ)ー 精神的成長と自立						
	④ 成長するとは？(Ⅲ)ー 精神的成長と自律						
	⑤ 成長するとは？(Ⅳ)ー 成長と教育の関係						
	⑥ 教育とは？(Ⅰ)ー 教育の目指すもの						
	⑦ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その一)						
	⑧ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その二)						
	⑨ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その三)						
	⑩ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その四)						
	⑪ 教育における諸問題(その一)						
	⑫ 教育における諸問題(その二)						
	⑬ 教育における諸問題(その三)						
	⑭ 課題と展望						
⑮ まとめ							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	414	授業科目	公衆衛生学 I (Public health I)			担当者	平川英司
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人口集中型の現代社会において、単に生物学的側面から人間個人にアプローチする医学のみでは疾病の予防、治療に限界がある。公衆衛生学は人間を集団とみなし、社会的側面から観察することにより人間の健康を維持する学問である。本講では、その公衆衛生学的考え方を簡単に概説し、その手法を用いて現代社会の問題点を明らかにすることを目的とする。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 公衆衛生総論						
	② 人口と保健統計						
	③ 感染症						
	④ 予防と健康管理						
	⑤ 母子保健						
	⑥ 医療制度						
	⑦ 国際保健						
	⑧ 総括						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	試験を中心に評価(100%)						
参考文献等	テキスト： わかりやすい公衆衛生学 第3版 清水忠彦、佐藤拓代 編集 NOUVELLE HIROKAWA(ヌーヴェル・ヒロカワ)						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	415	授業科目	解剖生理学 (Anatomy and Physiology)			担当者	中河 志朗
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	3	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ヒトの体の基本的構造と基本的機能および関連する栄養の役割が説明できる。						
	2. 授業の内容 テキスト「人体の構造と働き(第5版)」(中河著)の内容を要約したり、補いながら、ヒトの体の構造と機能の基本的な知識が学べるようにするとともに、栄養との関連性についても理解できることをめざす。						
授業計画	3. 授業計画						
	① ヒトの階層性、解剖学用語、細胞の構造と働き						
	② 体における物質の移動、ヒトの四大組織						
	③ 外皮系の構造と働き						
	④ 骨格系の構造と働き						
	⑤ 骨格筋の構造と働き						
	⑥ 神経細胞と脊髄、脊髄神経の構造と働き						
	⑦ 脳と脳神経の構造と働き、睡眠調節						
	⑧ 感覚系の構造と働き						
	⑨ 内分泌系の構造と働き						
	⑩ 血液と心血管系の構造と働き						
	⑪ リンパ管系と脾臓、胸腺の構造と働き						
	⑫ 呼吸器系の構造と働き						
	⑬ 消化器系の構造と働き						
	⑭ 泌尿器系の構造と働き						
	⑮ 生殖器系の構造と働き、ヒトの誕生						
筆記試験(60分で実施)							
成績評価	授業の開始前に実施する小テスト(20%)と筆記試験(80%)などの結果を総合的に評価する						
参考文献等	テキスト:「人体の構造と働き(第5版)」(中河志朗著) 参 考 図「からだの構造と機能」(三木ら監訳) 西村書店						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	416	授業科目	病態生化学 (Pathologic biochemistry)			担当者	住澤 知之
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として、生命現象の仕組みについて理解する。 ② 疾患、治療の基本的な考え方を理解する。						
	2. 授業の内容 栄養士が医療チームの一員として働くために必要な基礎知識として、代謝調節を中心とした生命現象を学ぶとともに、代謝異常などがどうして、どのように疾患と関わっているのかを学びます。そのため、栄養士実力認定試験に必要な基礎知識を取得するだけでなく、疾患とその治療の基本的な考え方についても学びます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	脂質の代謝(1) (脂質の消化、吸収、輸送)					
	②	脂質の代謝(2) (脂肪酸の生合成)					
	③	脂質の代謝(3) (脂肪酸の酸化、コレステロールの代謝)					
	④	タンパク質・アミノ酸の代謝(1)					
	⑤	タンパク質・アミノ酸の代謝(2)					
	⑥	タンパク質・アミノ酸の代謝(3)					
	⑦	ヌクレオチド					
	⑧	ヌクレオチドの代謝、遺伝子・核酸・染色体					
	⑨	タンパク質生合成(1)					
	⑩	タンパク質生合成(2)					
	⑪	免疫と生体防御(1)					
	⑫	免疫と生体防御(2)					
	⑬	内分泌系(1)					
	⑭	内分泌系(2)					
⑮	遺伝子と栄養						
成績評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「ヴォート 基礎生化学」第3版 東京化学同人 「ストライヤー 基礎生化学」東京化学同人 「栄養科学イラストレイティッド 生化学」羊土社						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	417	授業科目	食品学各論 (Food Detailed Explanations)			担当者	吉元 誠
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 各食品群の代表的な素材について、食品の特徴、化学成分、鮮度保持、貯蔵方法などを食品の栄養的価値と関連づけて解説し、食品素材への理解を深めることを目的とする。						
	2. 授業の内容 食生活、食糧事情等を解説したのち、植物性食品、動物性食品、発酵食品等について、各食品素材の特性、化学成分、機能性、保蔵等について講義する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	食品の分類、食料の需給					
	②	植物性食品一穀類					
	③	いも類、甘味料					
	④	豆類、種実類					
	⑤	野菜類					
	⑥	果実類					
	⑦	きのこ類、藻類					
	⑧	動物性食品一魚介類					
	⑨	肉類					
	⑩	卵類					
	⑪	乳類					
	⑫	各種食品一食用油脂、菓子類					
	⑬	嗜好飲料、酒類					
	⑭	調味料および香辛料類					
⑮	調理加工食品類、保健機能食品と健康用食品等						
成績評価	学期末試験の成績(70%) 受講態度(30%) 筆記試験は90分で実施						
参考文献等	教科書：【わかりやすい食物と健康② 食品の分類と特性】 吉田 勉 監修、三共出版 参考文献「食べ物と健康I 食品と成分」知地英征 編著 三共出版 五訂食品成分表 香川芳子 監修 女子栄養大学出版部						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	418	授業科目	食品加工学 (Food Processing)			担当者	吉元 誠
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 急速に変化する社会環境は食生活にも大きな影響を与え、加工食品の種類や消費量が急増している。このような状況下での食糧資源の有効利用と健全な食生活を維持・管理するために、加工原料となる食品の特性や食品成分の変化および加工法や貯蔵法ならびに青果物の鮮度保持法について理解させる。						
	2. 授業の内容 食品加工学は食品の保蔵に関する科学と技術を中心に、食材の特徴的成分や食品の鮮度保持、加工、材料に関する原理や応用について講義する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	食品保蔵・加工の目的、食品と微生物					
	②	水分活性、乾燥、塩蔵と糖蔵					
	③	酸貯蔵、燻煙					
	④	低温、加熱、品質保持剤					
	⑤	CA貯蔵とMA貯蔵、放射線照射					
	⑥	食品加工の原理と操作—物理的操作					
	⑦	化学的操作、生物的操作					
	⑧	食品の包装、食品加工の新技術					
	⑨	食品加工と成分変化					
	⑩	食品加工と安全性、保健機能食品、加工食品の規格基準と品質表示					
	⑪	植物性食品の加工					
	⑫	動物性食品の加工					
	⑬	水産加工品、発酵食品					
	⑭	調味料・嗜好食品					
⑮	インスタント食品、食用油脂、コピー食品						
成績評価	学期末試験の成績(70%)受講態度(30%)※筆記試験は90分で実施						
参考文献等	教科書：ブックス「食品加工学(第2版)」菅原龍幸 編著 建帛社						
	参考文献「食べ物と健康Ⅲ 食品と加工・流通」鮫島邦彦編 著 三共出版 「食べ物と健康Ⅰ 食品と成分」知地英征 編著 三共出版						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	419	授業科目	食品衛生学実験 (Experiments of Food Hygienics)			担当者	村山恵美子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し、消毒・滅菌の意義を理解することによって衛生観念を高める。化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解することを目的とする。						
	2. 授業の内容 前半は、消毒・滅菌で始まり、消毒・滅菌で終わる微生物実験、後半は化学実験を行う。微生物実験では、自分の手指や日常利用している食品、器具・容器等をサンプルとして、主として細菌を対象にした実験を行う。化学実験では、ふだん口にしていない食品や飲料水をサンプルとして扱い、食品添加物の使用実態、食品の鮮度測定、水質試験等を行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 微生物実験の基礎知識						
	② 手指の汚染度検査、空中落下菌、空中浮遊菌の測定						
	③ 水洗法によるふきんの一般細菌数、大腸菌群数(最確数法)の測定						
	④ 洗浄・殺菌法の比較検査						
	⑤ 黄色ぶどう球菌、サルモネラ試験法						
	⑥ 細菌の形態観察						
	⑦ 防腐剤の抗菌力試験、薬剤感受性試験						
	⑧ 耐熱性、紫外線抵抗性試験						
	⑨ 保存料試験						
	⑩ 重金属(スズ)の検出						
	⑪ 食品の腐敗・変質試験(揮発性塩基窒素、ヒスタミン)						
	⑫ 発色剤試験、漂白剤試験						
	⑬ 水質試験						
	⑭ 環境衛生試験						
⑮ まとめ							
成績評価	レポートの提出状況・受講態度(60%)、筆記試験(60分で実施、40%)						
参考文献等	教科書：藤田修三、山田恭正「食品環境実験 50」医歯薬出版(株) プリント						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	420	授業科目	栄養学総論 (Nutrition Science)			担当者	住澤 知之
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として、人間が健康に生きていくために必要な栄養素について理解する。 ② 人間を対象とした栄養指導・栄養評価などが的確にできる栄養士になるため、基本的な栄養の知識を修得する。						
	2. 授業の内容 基礎生化学で学んだことを基にして、人間が健康に生きるための栄養の意義について学びます。人間にとって、生命を維持するために欠かすことのできないのが、バランスよく栄養素を摂取することです。そこで、栄養素の種類や、栄養素がどのように消化・吸収されて、どのように代謝され、機能しているのか、1日どのぐらいの栄養素の量が必要なのか、欠乏するとどうなるのか、過剰摂取するとどうなるのか、栄養状態はどのように評価するのか等について学びます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	糖質の消化吸収					
	②	血糖とその調節、糖質のエネルギー源としての利用					
	③	脂質の消化吸収					
	④	脂質の栄養、タンパク質の消化吸収					
	⑤	タンパク質の消化吸収、タンパク質の栄養					
	⑥	タンパク質の栄養					
	⑦	ビタミンの栄養(1)					
	⑧	ビタミンの栄養(2)					
	⑨	ビタミンの栄養(3)					
	⑩	ビタミンの栄養(4)、無機質(ミネラル)の栄養(1)					
	⑪	無機質(ミネラル)の栄養(2)					
	⑫	無機質(ミネラル)の栄養(3)					
	⑬	水・電解質の代謝					
	⑭	エネルギー代謝					
⑮	摂食行動						
成績評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキスト : エスカベーシック「基礎栄養学」同文書院、プリント配布 参考文献: 健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学」改訂第3版 南江堂 「ビタミンの新栄養学」講談社 図解入門 メディカルサイエンスシリーズ「よくわかる栄養学の基本としくみ」秀和システム						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	421	授業科目	応用栄養学 (Applied Nutrition)			担当者	寺師 睦美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人の各ライフステージにおける身体と生理機能の特徴や栄養を理解し、栄養管理の基本的な考え方や方法を習得する。						
	2. 授業の内容 栄養マネジメントの基礎を学習し、各ライフステージの身体的特徴と生活環境や労作、運動などに対応する適切な栄養管理について理解していく。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 栄養マネジメントの基礎						
	② 栄養必要量の科学的根拠						
	③ ライフステージと栄養 妊娠期						
	④ ライフステージと栄養 授乳期						
	⑤ 新生児期						
	⑥ 幼児期						
	⑦ 学童期						
	⑧ 思春期						
	⑨ 成人期						
	⑩ 閉経期						
	⑪ 高齢期						
	⑫ 労作栄養						
	⑬ 運動 スポーツと栄養						
	⑭ 環境と栄養						
⑮ 復習とテスト							
成績評価	受講態度(10点) 出席(20点) 定期試験(60分)(70点)						
参考文献等	テキスト:「サクセス管理栄養士講座7 応用栄養学ライフステージ別」 江田節子・佐藤七枝・内山麻子・山田哲雄 編著 第一出版 監修 社団法人全国栄養士会養成施設協会・社団法人日本栄養士会 参考文献「日本人の食事摂取基準(2010年版)の実践・運用」 第一出版 ・配布資料						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	422	授業科目	応用栄養学実習 (Practice of Applied Nutrition)			担当者	寺師 睦美
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 成長期から高齢期の各ライフステージの特徴を理解し、健康づくりの観点から適切な栄養量や献立作成、調理技術など個人的に対応する栄養管理を実践できるように的確な方法を習得する。						
	2. 授業の内容 栄養摂取基準に基づいて、成長期から高齢期の特徴を考慮した献立を作成し、実際に調理実習をする。 この授業は、給食管理実習Ⅰ・Ⅱ(学内実習・学外実習)を効率的に学ぶための基礎知識を習得する場とする。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 応用栄養学実習の意義・目的						
	② 乳児期栄養(調乳)						
	③ 離乳期栄養(授乳・離乳支援ガイド)						
	④ 幼児期栄養(保育園給食)						
	⑤ 幼児期栄養(保育園の間食)						
	⑥ 幼児期・成人期栄養(幼児及び女子短大生の弁当)						
	⑦ 学童期の栄養(学校給食)						
	⑧ 学童期の栄養(学校給食)						
	⑨ 高齢期の栄養(3世代家族の食事)						
	⑩ 〃(食材別調理の工夫)						
	⑪ 〃(高齢者施設の給食)						
	⑫ 高齢者補助食品						
	⑬ 高齢期の栄養(行事食バイキング)						
	⑭ 食教育の実践(発表会)						
⑮ 実習のまとめ							
成績評価	1 出席・受講態度…………… 10% 2 実習レポート提出状況…50% 3 学期末筆記試験(60分)…40%						
参考文献等	テキスト:「応用栄養学実習書」柳沢幸江・板垣裕 他編 建帛社 参 考 文「一品料理500選治療食への展開」宗像伸子 編著 医歯薬出版株式会社 : 五訂増補食品成分表 女子栄養大学出版部 : 日本人の食事摂取基準(2010年版)厚生労働省策定 第一出版						
備考	視聴覚教材(ビデオ・DVD・PC)						
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

科目番号	423	授業科目	臨床栄養学総論 (General remarks of Clinical Nutrition)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 栄養アセスメントについて学ぶ 2. 病態の機序と栄養管理について学ぶ						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する						
授業計画	3. 授業計画						
	① 栄養アセスメント①						
	② 栄養アセスメント②						
	③ 栄養アセスメント③						
	④ 肥満と栄養管理①						
	⑤ 肥満と栄養管理②						
	⑥ 肥満と栄養管理③						
	⑦ 糖尿病と栄養管理①						
	⑧ 糖尿病と栄養管理②						
	⑨ 糖尿病と栄養管理③						
	⑩ 高血圧と栄養管理①						
	⑪ 高血圧と栄養管理②						
	⑫ 高血圧と栄養管理③						
	⑬ 高脂血症と栄養管理①						
	⑭ 高脂血症と栄養管理②						
⑮ 高脂血症と栄養管理③							
成績評価	実習病院の評価(90%)及び出席、実習記録等(10%)による総合評価						
参考文献等	テキスト: 「食品交換表」: 文光堂 日本糖尿病学会編 糖尿病治療ガイド(文光堂: 日本糖尿病学会編) 日本人の栄養摂取基準「2010年版」の実践運用(第一出版)						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	424	授業科目	栄養指導論Ⅱ (Nutritional Guidance Ⅱ)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 栄養指導の基礎知識を学ぶ 2. ライフステージ別の栄養指導を学ぶ 3. 栄養指導の技術						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 栄養指導の概念						
	② 栄養指導の歴史と現状						
	③ 栄養指導に関するおもな法令(復習)						
	④ 栄養指導に関するおもな指標						
	⑤ 栄養状態の評価と栄養調査						
	⑥ 栄養指導に必要な基礎知識						
	⑦ 栄養指導関連の諸施策						
	⑧ 栄養指導と情報の収集・処理						
	⑨ 栄養指導の技術と方法						
	⑩ ライフステージ別の栄養指導						
	⑪ 健康障害と栄養指導						
	⑫ 特定給食施設における栄養指導						
	⑬ 食事バランスガイドを用いた栄養指導						
	⑭ 糖尿病の交換表を用いた栄養指導						
⑮ まとめ(分かったこと、難しかったこと)							
成績評価	定期試験(85%)及び小テスト(15%)により評価						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食事摂取基準2010年度版(第一出版:厚生労働省) ・日本人の食事摂取基準の実践・運用(第一出版:食事摂取基準の実践・運用を考える会編) ・食品交換表(文光堂:日本糖尿病協会) ・栄養士のための栄養指導論(学建書院:芦川修貳 田中弘之 編集) 						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	425	授業科目	公衆栄養学 (Public health nutrition)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1.日本人の食生活と栄養問題を学ぶ 2.日本の栄養政策について学ぶ 3.栄養疫学について学ぶ						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	公衆栄養学の概念					
	②	公衆栄養学の歴史					
	③	わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状					
	④	わが国の栄養問題の現状と課題					
	⑤	食事摂取基準①					
	⑥	食事摂取基準②					
	⑦	わが国の栄養政策①					
	⑧	わが国の栄養政策②					
	⑨	地域栄養学					
	⑩	栄養疫学①					
	⑪	栄養液学②					
	⑫	公衆栄養学で必要な統計					
	⑬	国際栄養					
	⑭	メタボリックシンドローム①					
⑮	メタボリックシンドローム②						
成績評価	定期試験(85%)及び小テスト(15%)により評価						
参考文献等	テキスト:「公衆栄養学」講談社サイエンティフィック 山本 茂 酒井 徹他編						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	426	授業科目	調理学実験・実習 (Experiment and Training of Cooking)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実験・実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 調理学の理論や基礎調理をふまえ、調理操作を科学的に裏付けるために、調理過程で食品の調理特性を実践的に扱い、調理の要点を体得する。これらを調理技術面にいかし、再現性良くおいしく作ることを学ぶ。さらに、食味評価により、食事計画(献立作成)への基礎資料とする。						
	2. 授業の内容 調理学や調理学実習で学んだ調理操作について、様々な方法で調理し、官能評価により食べ物の特徴や調整方法による違いを学び、より良い調理法を体得する。 基本味や味の相互作用、なま、茹でる、煮る、蒸す、寄せる、焼く等の実験を行う。 また、行事食や魚料理の実習も行い、様々な食材に触れる機会を設ける。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 調理学実験の心得と諸注意,味覚検査						
	② ~味の好みと適量~ ①塩味						
	③ ②甘味						
	④ ③酸味						
	⑤ ④旨味						
	⑥ なま						
	⑦ 茹でる						
	⑧ 煮る						
	⑨ 蒸す						
	⑩ 寄せる						
	⑪ 正月料理						
	⑫ 焼く						
	⑬ 魚料理講習会						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度20%・実験レポート60%・課題レポート10%・実技試験10%の総合評価						
参考文献等	テキスト：操作別調理学実習・中野,外西,二木,池田・同文書院 参考文献：調理と理論・山崎清子,島田キミエ・同文書院 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	427	授業科目	学校栄養教育論 (Nutrition Education in School)			担当者	竹原 小菊
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1)学校給食の意義、役割を認識したうえで栄養教諭の役割及び職務内容を理解する。 (2)幼児、児童及び生徒の栄養に関する諸課題を国民の栄養の現状を通して把握する。 (3)食生活に関する歴史及び文化を理解する。 (4)食に関する指導の方法は多岐に渡っていることを理解し実践に繋ぐ。						
	2. 授業の内容 栄養教諭は教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せもつ教職員として、学校給食を実際的な面に即した教材として活用した指導を行うことが期待されている。そこで、本講義では、食に関する指導について基本的な考え方と具体的方法を身に付けさせるために、理論と実践の両面から栄養教諭として教育の現場で必要とされる「食育」の知識やその援助の在り方を習得させる。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 栄養教諭の役割と職務内容						
	② 子どもの健康・栄養に関わる現状と課題						
	③ わが国の食生活の変遷と学校給食						
	④ 日本の食文化(郷土料理・行事食等)と日本の食料問題、世界の食文化						
	⑤ 学校給食の実際の理解(学校給食の献立の充実)						
	⑥ 食に関する指導に係る全体計画の作成						
	⑦ 各教科などにおける食に関する指導の展開						
	⑧ 体育科における食に関する指導						
	⑨ 家庭科における食に関する指導						
	⑩ 特別活動における食に関する指導(学級活動)						
	⑪ 特別活動などにおける食に関する指導(給食の時間)						
	⑫ 学校給食を生きた教材として活用した食育の推進						
	⑬ 家庭、地域と連携した食に関する指導						
	⑭ 個別的な相談指導の進め方						
⑮ まとめ「よりよい栄養教諭を目指して」							
成績評価	提出物・レポート(70%)		小試験(20%)	受講態度(10%)			
参考文献等	テキスト:「栄養教諭のための学校栄養教育論」編著 笠原賀子 医歯薬出版 :「食に関する指導の手引き」第一次改訂版 文部科学省 参考文献:「食に関する指導の実際」編集代表 金田雅代 小学館 :かんたん!CD-ROMですぐできるあなたの学習指導案!〜かごしまの食育実践事例集〜 :「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 :「学習指導要領」文部科学省 視聴覚機器 :ビデオ・パワーポイント						
備考							
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

科目番号	428	授業科目	教育心理学 (Educational Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 教育心理学とは、教育に関する様々な事象を、心理学の方法を基礎において研究している学問です。本講義では、人の発達や適応、学習のメカニズムといった事柄に関する基礎的な心理学的理解を深め、その上で学習支援や人間関係における適応の支援に関して学ぶことを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 教育心理学とは						
	② 発達過程 ① (発達とは何か)						
	③ 発達過程 ② (知的発達)						
	④ 発達過程 ③ (社会的発達)						
	⑤ 個人差への対応 ① (個人差の理解)						
	⑥ 個人差への対応 ② (適応とカウンセリング)						
	⑦ 個人差への対応 ③ (特別支援教育のシステム)						
	⑧ 学習過程 ① (動機付けと学習)						
	⑨ 学習過程 ② (学習の原理)						
	⑩ 学習過程 ③ (知識、スキルの獲得)						
	⑪ 支援の手立て ① (学力と教育評価)						
	⑫ 支援の手立て ② (個に応じた学習指導)						
	⑬ 支援の手立て ③ (主体的学びの授業)						
	⑭ 人間関係の理解 ① (学習集団)						
⑮ 人間関係の理解 ② (教師－生徒関係)							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト: 杉江修治(編著)「教師教育テキストシリーズ④ 教育心理学」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	429	授業科目	教育方法の研究 (Research in Methodology of Education)			担当者	篠原 祝子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本科目は、栄養教諭における「食に関する指導」の教育方法の観点から、子どもの心身の発達を担う栄養教諭の役割と学校教育における「食に関する指導」の意義と目的について理解することを目標とする。そして、さらに学校教育における「食に関する指導」の実践的展開(学習指導案の計画や授業の設計)に向けた栄養教諭としての指導力・実践力・理解力を養うことを目標とする。						
	2. 授業の内容 本科目の授業内容は、栄養教諭の資格取得を目指し、特に、「食に関する指導」の授業実践計画としての「学習指導案」を作成することができるために、下記の事項を重点とした授業内容を計画している。 第1に、学校教育における栄養教諭の役割について 第2に、「食に関する指導」の目標・内容について 第3に、「食に関する指導」の実践的展開としての「学習指導案」作成の原理と方法について						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 学校教育における栄養教諭の役割について						
	② 「食に関する指導」の目標と内容						
	③ 「食に関する指導」と学校教育の全体計画(年間指導計画)との関わり						
	④ 「食に関する指導」と「学習指導案」との関わり						
	⑤ 「食に関する指導」計画の原理(「学習指導案」との関わりにおいて)						
	⑥ 「食に関する指導」計画の方法論(「学習指導案」との関わりにおいて)						
	⑦ 「食に関する指導」の実践的展開1～「学習指導案」の計画・作成						
	⑧ 「食に関する指導」の実践的展開2～「学習指導案」の計画・作成・模擬授業						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度(60%)レポート等の提出状況(40%)などによって総合的に評価します。						
参考文献等	参考文献 『栄養教諭～理論と実際～(改訂版)』金田雅代編著、建白社、2008年 『食に関する指導参考資料』文部科学省編、東山書房、2000年 『小学校学習指導要領』文部科学省、財務省印刷局、1998年 『中学校学習指導要領』文部科学省、財務省印刷局、1998年 『教育の方法と技術(改訂版)』多田敏文編著、学芸図書、2003年 『学びのポリフォニー』山住勝広他著、学文社、1997年 視聴覚機器 Microsoft office Power Point						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	430	授業科目	公衆衛生学Ⅱ (Public Health Ⅱ)			担当者	安藤 哲夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 WHO(世界保健機構)が掲げる身体的・精神的・社会的に無理なく対応できる健康状態を下に、人々との共生社会を持続させるために必要な衛生・環境・保健・医療・福祉などの知識を習得する。						
	2. 授業の内容 公衆衛生学における健康に共通性と個別性とが存在していることを認識し、健康獲得・維持・増進のための知識・方法について学習する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	公衆衛生学序論					
	②	保健統計					
	③	疫学					
	④	疫学					
	⑤	疾病予防と健康管理					
	⑥	主な疾病の予防					
	⑦	主な疾病の予防					
	⑧	環境保健					
	⑨	環境保健					
	⑩	地域保健・母子保健					
	⑪	地域保健・老人保健・老人福祉					
	⑫	学校保健					
	⑬	産業保健					
	⑭	精神保健					
⑮	まとめ						
成績評価	筆記試験 日常的学習(ミニレポート)30%筆記試験70%を総合して評価する。						
参考文献等	シンプル衛生 公衆衛生学 編集 小山 洋 南江堂						
備 考							
	オフィスアワー						

科目番号	431	授業科目	社会福祉概論 (Study of Social welfare)			担当者	久永 繁夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 栄養士として必要な社会福祉の基礎知識を学ぶ。特に、少子・高齢化社会のなかで社会福祉とそのサービスはどのような変化をしているかについて注目しながら、栄養士と社会福祉のかかわりについての理解を深める。また、社会福祉援助技術について基礎的な理解を深めて、栄養指導等の際に活用できる能力を身につける。						
	2. 授業の内容 (1) 社会福祉の現代的意義 (2) 社会福祉の法体系と行財政 (3) 低所得者対策 (4) 高齢者福祉 (5) 障害者福祉 (6) 児童福祉 (7) 社会福祉の動向と栄養士 (8) 社会福祉援助技術						
授業計画	3. 授業計画						
	① 社会福祉の現代的意義			(社会福祉の意義と概念)			
	② 社会福祉の現代的意義			(社会福祉の歴史)			
	③ 社会福祉の法体系と行政			(社会福祉の法制)			
	④ 低所得者対策と生活保護			(社会福祉の法制)			
	⑤ 高齢者福祉			(老人福祉法と老人福祉サービス)			
	⑥ 高齢者福祉			(介護保険制度)			
	⑦ 障害者福祉			(障害者福祉の全体像)			
	⑧ 障害者福祉			(身体障害者・知的障害者の福祉)			
	⑨ 児童福祉			(少子化対策と児童福祉)			
	⑩ 児童福祉			(児童福祉法と児童福祉サービス)			
	⑪ その他の福祉			(高齢者虐待等の権利擁護制度)			
	⑫ 社会福祉援助技術			(対人援助の考え方)			
	⑬ 社会福祉援助技術			(個別援助技術の原則)			
	⑭ 社会福祉の動向と今後の展望						
⑮ まとめ(社会福祉と栄養士)							
成績評価	筆記試験(100点) 60分のテストと小テスト 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。						
参考文献等	テキスト：片山義弘／李木明德／編著「社会福祉」保育ライブラリー 北大路書房 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 その他：適宜ビデオとプロジェクターを使用する。 社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	432	授業科目	解剖生理学実験 (Experiments of Anatomy and Physiology)			担当者	竹中 正巳
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得することを目標とする。						
	2. 授業の内容 自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋内系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能についての理解を深める実験・実習を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション					
	②	循環に関する実験（血圧[循環器系の形態と機能、血圧とその調節]、運動機能検査）					
	③	感覚に関する実験Ⅰ（味覚）					
	④	感覚に関する実験Ⅱ（錯視）					
	⑤	骨格に関する実習Ⅰ（人体構造の立体的位置関係の把握）					
	⑥	骨格に関する実習Ⅱ（人体構造の立体的位置関係の把握）					
	⑦	歯に関する実習Ⅰ（乳歯、永久歯の形態の観察）					
	⑧	歯に関する実習Ⅱ（永久歯列と無歯顎）					
	⑨	循環に関する実験（心電図、運動機能検査）					
	⑩	体温に関する実験（身体各部の油1皮、体温とその調節機構）					
	⑪	神経疲労に関する実験(フリッカー試験、疲労とは、視環境・音環境による人体機能の変化)					
	⑫	疲労とその予防(疲労とは、疲労の原因、疲労の分類、疲労の経過、疲労の測定、疲労の予防、疲労の回復、運動機能検査(健康測定)、体重測定)					
	⑬	呼吸に関する実験（スパイロメーターを用いた実験、肺機能検査、労働時の呼吸量）					
	⑭	組織標本の観察					
⑮	組織標本の観察						
成績評価	実験ごとのレポート（60点）、筆記試験（30点）、実験態度（10点）						
参考文献等	<p>プリント等を適宜、配布する。</p> <p>参考図書：川村一男編 解剖生理学実験 建畠社 1,785円 ：系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 ：井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円 ：新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円</p>						
備考							
	オフィスアワー	木曜日 12:00～12:50（研究室）					

科目番号	433	授業科目	生化学実験 (Biochemical Experiment)			担当者	住澤 知之
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として生化学や栄養学の講義で学んだことを、実験を通して確認し、確かなものにして身につける。 ② 各々の実験の結果を科学的に分析し、考察できるようになる。						
	2. 授業の内容 実験を通して血液生化学的検査値の読み方、考え方を理解するため、血糖値、血清総タンパク(TP)、尿素窒素などを測定します。また、透析の意義、消化酵素の作用や性質、DNAの性質や利用などについても学びます。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	検量線とは？(1)検量線を引いてみよう					
	②	検量線とは？(2)検量線を使って定量してみよう					
	③	血糖(グルコース)とタンパク質の定量、透析について					
	④	透析と尿素窒素の測定(1)					
	⑤	透析と尿素窒素の測定(2)					
	⑥	唾液アミラーゼによるデンプンの加水分解					
	⑦	酵素反応の温度依存性					
	⑧	酵素反応のpH依存性(ペプシンとトリプシンによるカゼインの加水分解)					
	⑨	コメDNAの抽出					
	⑩	DNAの定量と純度検定、およびPCRによる増幅					
	⑪	DNAの電気泳動					
	⑫	犯人は誰だ？(制限酵素によるDNAの切断)					
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートの提出状況(60%) 学期末試験の成績(40%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「はじめてみよう生化学実験」三共出版						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	434	授業科目	臨床栄養学各論 (Clinical Nutrition Detailed Exposition)			担当者	寺師 睦美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 栄養士という専門職の栄養管理の目的は、健康の維持と病態の改善である。各論では、健康であるということの正しい理解と、各疾病ごとの病態と治療を系統立てて理解し、栄養療法の重要性和具体的な手法を習得することを目的とする。チーム医療が謳われる今、情報を共有し専門性を発揮できる臨床栄養のエキスパートとしての基礎を構築する。						
	2. 授業の内容 総論に基づき、各疾病について系統的に学び、栄養と関連・栄養療法の基本について学習する。また種々の疾患は単独で起こるのではなく関連すること・栄養が予防から治療までの重要な柱であることを認識し、栄養療法を展開していく技術を習得する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 消化・吸収・代謝; 栄養障害						
	② 栄養ケアマネジメント						
	③ 代謝疾患①						
	④ 代謝疾患②						
	⑤ 代謝疾患③						
	⑥ 消化器疾患①						
	⑦ 消化器疾患②						
	⑧ 循環器疾患						
	⑨ 腎疾患						
	⑩ 内分泌・神経精神障害						
	⑪ 呼吸器疾患						
	⑫ 免疫疾患・アレルギー						
	⑬ 外科疾患						
	⑭ ライフステージ別栄養障害						
⑮ まとめ							
終講試験(学期末試験)							
成績評価	出席(20点) 受講態度(10点) 定期試験(60分)(70点)						
参考文献等	テキスト:「臨床栄養学」 佐藤和人・本間健・小松龍史編 医歯薬出版株式会社 社)全国栄養士養成施設協議会 (社)日本栄養士会 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 日本糖尿病協会 「糖尿病治療ガイド2010」 文光堂 日本糖尿病学会 ・配付資料 ・スライド						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	435	授業科目	臨床栄養学実習 I (Practice of Clinical Nutrition)			担当者	寺師 睦美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 生活習慣病(糖尿病、高脂血症、腎疾患)の病態に適応した食事や食事介護について、食事計画、献立作成、調理実習を行うことにより臨床現場での治療食の実際を理解する。						
	2. 授業の内容 教科書及び配布資料をもとに授業を展開する。 各病態ごとの食事計画書(アセスメント及び献立作成)を作成し実施(調理実習)する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	臨床栄養の基礎(食事計画の作成:常食)	実習書、計算機、成分表			献立①	
	②	常食(献立実施)	白衣、包丁、計算機			レポート1	
	③	易消化食(食事計画作成)	実習書、計算機、成分表			献立②	
	④	易消化食(献立実施)	白衣、包丁、計算機			レポート2	
	⑤	食塩制限食(食事計画作成)	実習書、計算機、成分表			献立③	
	⑥	食塩制限食(献立実施)	白衣、包丁、計算機			レポート3	
	⑦	エネルギーコントロール食(食事計画作成①)	実習書、計算機、DM交換表				
	⑧	エネルギーコントロール食(食事計画作成②)	実習書、計算機、DM交換表			献立④	
	⑨	エネルギーコントロール食(献立実施)	白衣、包丁			レポート4	
	⑩	たんぱく質コントロール食(食事計画作成①)	実習書、計算機、腎交換表				
	⑪	たんぱく質コントロール食(食事計画作成②)	実習書、計算機、腎交換表			献立⑤	
	⑫	たんぱく質コントロール食(献立実施)	白衣、包丁、腎交換表			レポート5	
	⑬	脂質コントロール食(食事計画作成①)	実習書、計算機、成分表				
	⑭	脂質コントロール食(食事計画作成②)	実習書、計算機、成分表			献立⑥	
⑮	脂質コントロール食(献立実施)	白衣、包丁、成分表			レポート6		
成績評価	出席点 24点 レポート評価 3×6=18点 献立評価 5×5=25点 定期試験(60分) 33点						
参考文献等	テキスト:「臨床栄養学実習書」医歯薬出版 玉川和子・口羽章子・木戸詔子 編著 「糖尿病食事療法のための食品交換表」:文光堂 日本糖尿病学会編 「腎臓病食品交換表」:医歯薬出版 黒川清 監修 「一品料理500選治療食への展開」宗像伸子 編著 医歯薬出版株式会社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	436	授業科目	臨床栄養学実習Ⅱ(学外実習) (Practice of Clinical Nutrition II)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1.病院での栄養士業務について学ぶ 2.実習を通してコミュニケーションスキルを身につける。 3.患者様の栄養管理の重要性を体験する。						
	2. 授業の内容 学外実習先の実習担当栄養士または管理栄養士の指導の下に献立作成、調理、栄養指導を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 実習病院から指示される実習内容に従って学習する						
	② 本学で実習事前指導を2回実施する						
	③ 卒業生による病院の業務内容や実習生心得について事前指導を行う						
	④ 実習の記録は、実習ノート(臨床栄養学実習Ⅱ)を使用する						
	⑤ 実習後に実習報告会を行う						
	⑥ 実習病院への挨拶は学生自身が行う						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習病院の評価(90%)及び出席、実習記録等(10%)による総合評価						
参考文献等	テキスト: 「食品交換表」:文光堂 日本糖尿病学会編 糖尿病治療ガイド(文光堂:日本糖尿病学会編)						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	437	授業科目	栄養指導実習 I (Practice of Nutrition Education I)			担当者	児玉 敬三
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 栄養アセスメントについて学ぶ 2. 医療機関を想定した栄養指導(献立、ポスター、教育)について学ぶ 3. 集団給食施設を想定した栄養指導(献立、ポスター、教育)について学ぶ						
	2. 授業の内容 栄養アセスメントの技法を学ぶための身体測定、自覚症状や栄養状態の把握のためのアンケート調査など行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 栄養アセスメント(食事摂取基準)						
	② 栄養アセスメント(食品構成および献立)①: 献立作成ソフトの使用法						
	③ 栄養アセスメント(食品構成および献立)②: 献立作成						
	④ 栄養アセスメント(消費エネルギー)						
	⑤ 栄養アセスメント(身体計測、臨床検査、自覚症状)						
	⑥ 栄養アセスメント(栄養調査、食事調査)						
	⑦ 栄養アセスメント(食環境調査、食事暦調査)						
	⑧ 健康教育のための栄養指導(塩分): 指導案作成と媒体作成						
	⑨ 健康教育のための栄養指導(野菜): 指導案作成と媒体作成						
	⑩ 傷病者のための栄養指導(糖尿病①): 病気の理解、交換表の説明						
	⑪ 傷病者のための栄養指導(糖尿病②): 献立作成						
	⑫ 傷病者のための栄養指導(腎増病①): 病気の理解、交換表の説明						
	⑬ 傷病者のための栄養指導(腎臓病②): 献立作成						
	⑭ PCを用いた統計処理①						
⑮ PCを用いた統計処理②							
成績評価	定期試験(50%)及びレポート提出(50%)により評価						
参考文献等	テキスト:「栄養教育演習・実習」(株)みらい 堀田千津子 他 編著 「食品交換表」: 文光堂 日本糖尿病学会編 (参考図書): 絵で見て使える 栄養指導教材集 日本医療企画 中村丁次 他 編著(5月注文) 日本人の食事摂取基準(2010年版)の実践運用(第一出版)						
備考	栄養指導資料作成ソフトを使用する (メディアカロリーの使用料3,500円を徴収します)						
	オフィスアワー						

科目番号	438	授業科目	食事環境の設計 (Planning of Kitchen and Dining room)			担当者	古川 恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「給食経営管理」の施設・設備管理の分野についての理解と、在宅ケアが進められる中での住宅の食空間に関する高齢者や障がい者自らが調理することも視野に入れ、設計計画に必要な基礎知識を修得することを目的とする。						
	2. 授業の内容 給食管理のテキストを用いて施設・設備分野について述べる。建築計画の専門部分を具体的に説明し、またプリントや視聴覚教材も用いる。高齢者・障害者の調理空間、食事空間について述べる。一般的な調理空間についても作業動線の理解に関連して触れる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 給食施設・設備管理の概要、関連法規、調理室の位置、面積、形態						
	② 調理室の内装、語句の説明						
	③ 調理室の関連設備－給排水、給湯、排水設備、ガス、電気、照明						
	④ 調理室の関連設備－空調設備、換気設備(換気の種類)、防火						
	⑤ 調理室内の機械・器具、レイアウト・図面－建築図面の見方、作業動線と機器の配置						
	⑥ レイアウトの具体例－事例に見る厨房計画						
	⑦ 日常の保守管理、高齢者・障害者の調理空間、食事空間計画						
	⑧ 高齢者・障害者に配慮した調理空間、食事空間計画(福祉施設を含む)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	・筆記試験(100%)による。 ※60分で実施。						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト:『給食管理』のテキスト使用 ・プリント資料(厨房計画) ・パワーポイント、DVD使用 						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	439	授業科目	給食実務演習 (Seminar of Food Service Management)			担当者	竹原 小菊
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前後期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 給食管理実習 I (学内実習) は、給食業務の計画と実践の技術を習得することを目標としている実習である。そこで、本演習では、学生が plan・do・check・act のPDCAサイクルをたどりながら積極的かつ研究的に学内実習の事前準備、本番実習、事後の反省・評価の内容の把握とプロセスを習得することを目標とする。						
	2. 授業の内容 給食管理実習 I (学内実習) が計画的・効率的・効果的に進められるように事前準備及び事後の反省・評価の場とする。						
授業計画	3. 授業計画(下記の内容についてグループごとに計画・実施・評価する)						
	①	栄養管理	: 給与栄養目標量の算定、食品構成表の作成				
	②	〃	: 献立作成(予定)				
	③	〃	: 試作、試食				
	④	〃	: 献立表作成(実施)				
	⑤	衛生管理	: 人・食品材料・施設設備・調理機器・食器等				
	⑥	〃	: 調理工程における衛生管理				
	⑦	食材料管理	: 食材料の購入計画・発注方法				
	⑧	〃	: 食材料の検収・保管				
	⑨	生産管理	: 大量調理の特性				
	⑩	〃	: 作業工程表の作成				
	⑪	事務管理	: 書類の整備・保管				
	⑫	原価管理	: 予算、決算、金銭出納				
	⑬	栄養教育	: 食教育パネル、一言アドバイス、食事バランスガイド、献立説明原稿作成				
	⑭	反省・評価	: 栄養・食事の評価(残菜調査・栄養出納)・衛生の評価・作業の評価				
⑮	〃	: 品質評価(嗜好調査)会計評価・原価評価					
成績評価	定期試験(60分)						
	定期試験(70%)、提出物(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	テキスト: 給食マネジメント実習 編集 齋藤 貴美子 (株)学建書院 改訂新版「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚 婦美子 編集 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 参考文献: エスカペーシク「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 食品成分表 女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準(2010年版)」厚生労働省策定検討委員会報告書 第一出版 視聴覚機器 :ビデオ・パワーポイント						
備考							
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

科目番号	440	授業科目	給食管理実習 I (学内実習) (Practice of Service Management I)			担当者	竹原 小菊	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この実習は、給食管理、応用栄養学実習、調理学及び実験・実習、栄養学総論、食品学各論、食品衛生学実験等の講義や実習で学んだ基礎的知識を生かし、実際に学生を対象とした給食を実施し、給食運営の計画、実践、評価の方法・技術を習得し、特定給食施設の栄養士の業務を身に付ける。							
	2. 授業の内容 ・実習の計画・実施・検討・評価に至る全てを、学生自身が、自主的、計画的、研究的に取り組む。 ・実習方法は、グループワークで定食(主食・主菜・副菜・汁物・デザート)を100食程度、提供する。 ・実習回数は1グループにつき通年3回実施する。 ・大量調理実習当日の準備、清掃と厨房処理等及び反省会は授業時間外等に実施する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	オリエンテーション					}	1回
	②	献立作成(1回目)						
	③	試作・検討						
	④	食材料管理(発注書作成)、作業管理(作業役割表、作業工程表作成等)						
	⑤	衛生管理実習(実習班の衛生管理チェックの方法の検討・チェック・評価・提言)					}	2回
	⑥	実習打合せ(衛生管理、大量調理、調理工程等)、食教育(食育パネル、一言アドバイス、献立説明)						
	⑦	大量調理実習(検収・保管・調理作業・配食・供食・食事環境の整備・食教育)						
	⑧	実習反省会及び帳票整理(報告書作成)						
	⑨	献立作成(2回目)※②～⑧までを繰り返す						
	⑩	試作・検討					}	2回
	⑪	食材料管理(発注書作成)、作業管理(作業役割表、作業工程表作成等) ・給食の時間における「食に関する指導」						
	⑫	衛生管理実習(実習班の衛生管理チェックの方法の検討・チェック・評価・提言) ・学校給食の献立の充実						
	⑬	実習打合せ(衛生管理・大量調理・調理工程等)、食教育(食育パネル、						
	⑭	一言アドバイス、献立説明、食事バランスガイド)					}	2回
	⑮	大量調理実習(検収・保管・調理作業・配食・供食・食事環境の整備・食教育)						
⑯	定期試験(60分)							
成績評価	実習態度(60%) [3回の本番実習は必須] 実習ノート・レポート・実習記録表の提出(30%) 受講態度(10%)							
参考文献等	テキスト：給食マネジメント実習 編集 齋藤貴美子 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 改訂「大量調理一品質管理と調理の実際」編集 殿塚婦美子 学建書院 参考文献：エスカパーシック「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 食品成分表 女子栄養大学出版社 「日本人の食事摂取基準[2010版]」厚生労働省策定検討会報告書 第一出版 一品料理 500選～治療食への展開～ 医歯薬出版株式会社 視聴覚機器：ビデオ・パワーポイント							
備考	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)						

科目番号	441	授業科目	給食管理実習Ⅱ(学外実習) (Practice of Food Service Management Ⅱ)			担当者	竹原 小菊
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学外実習先で給食業務を行なうために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。						
	2. 授業の内容 給食の運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務に関する実習である。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 学外の給食施設により指示される実習日程に従って実習を行う。						
	② 事前指導は本学と実習先で2回以上行う。						
	③ 卒業生による保育所、高齢者施設、学校等の栄養士の業務内容や実習生心得について事前指導を行う。						
	④ 実習の記録は、実習ノート(給食管理実習Ⅱ記録)を使用する。						
	⑤ 実習後は実習報告会を行う。						
	⑥ 実習希望施設への挨拶等は学生自身が行う。						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	学外実習先の評価(90%)及び出席、実習記録等(10%)による総合評価 ※ 評価の観点 給食管理の理解、献立作能力、現場技術、 実習記録、実習態度、食に関する指導等						
参考文献等	テキスト:「給食管理実習Ⅱ記録」 参考文献: エスカペーシック「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 管理栄養士・栄養士必携 (社)日本栄養士会編 第一出版 給食マネジメント演習 編集齋藤貴美子 学建書院 改訂新版「大量調理～品質管理と調理の実際～」 殿塚 婦美子 編集 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 応用栄養学実習書・食品成分表						
備考							
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

科目番号	442	授業科目	調理学実習Ⅱ (Cooking PracticeⅡ)			担当者	福司山 エツ子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修 フードスペシャリスト資格認定証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 調理学実験・調理学実習Ⅰの基礎の上に「応用調理」へと発展する。健康増進を根底とする日常食を科学的、文化的に運営する能力を養うことを目的とする。また、各種の専門的な内容を活用する分野としての調理学実習Ⅱであることを認識させる。調理操作は、それぞれの科学的根拠を裏付けるために調理性を考慮した実習を行い、調理に対する興味を深める。						
	2. 授業の内容 調理実習心得(特に段取り、下ごしらえ、フローチャート)について学習する。栄養と調理科学の基本を大切にしながら、和、洋、中国各様式を中心に、折衷料理・行事食を取り入れ、伝承可能な新しい感覚を折り込み、供応食の工夫とともに食卓の演出を体験しながら、食の総合的実践力を学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 食事計画、調理基本操作(段取り、下処理、調味率、器具扱い方)、フローチャートの書き方						
	② 日本、西洋、中国料理様式の系統的実習(調理実習計画を別紙配布)						
	③ ライフステージによる日常食(折衷料理)の献立作成						
	④ //						
	⑤ //						
	⑥ 春、夏の素材を用いて郷土料理						
	⑦ 地域食材の利用						
	⑧ 日常食(西洋料理)						
	⑨ 朝食献立(西洋料理)						
	⑩ 行楽弁当料理						
	⑪ 中国料理、冷葷、大菜、点心						
	⑫ 中国料理、冷葷、大菜、点心						
	⑬ 製菓の理論と実習、ティーパーティー						
	⑭ イタリア料理の基礎						
⑮ まとめ							
成績評価	日常食の献立作成及び実習 個人テスト 受講態度(10%)とレポート(30%)と試験(60%)						
参考文献等	「調理」鹿児島調理研究会 徳田・小住・福司山 「調理と理論」同文書院 山崎清子・島田ミキエ						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	443	授業科目	食品加工学実習 (Food Processing Practice)			担当者	吉元 誠
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	フーズスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 食生活における加工食品の占める比率は近年著しく増加している。この実習は食品学、食品加工学等の講義をふまえて、食品成分とその変化、食材の物性や栄養価、食品の保蔵性や安全性などを理解しながら加工技術を習得し、広く食糧資源の確保と有効利用に役立てることを目標とする。						
	2. 授業の内容 穀類(米、小麦粉)、豆類(大豆、小豆)、いも類、果実、野菜、肉、牛乳、卵、海藻類等を材料にして、パン、うどん、漬物、マーマレード、まんじゅう等の加工品を毎日1～2種類製造する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①						
	②	植物性食品(米—大福もち、小麦粉—バターロール、うどん、ビスケット、カボチャ馒头等)の加工					
	③						
	④						
	⑤	植物性食品(いも—大学芋、いきなり団子、大豆—豆腐、種実—ピーナツクリーム等)の加工					
	⑥						
	⑦						
	⑧	植物性食品(果実—梅漬け、マーマレード等)の加工					
	⑨						
	⑩						
	⑪	植物性食品(漬物等)					
	⑫						
	⑬						
	⑭	動物性食品の加工(豚味噌)					
⑮	海産物の利用(ところてん、佃煮)						
⑯	微生物利用食品(ヨーグルト、納豆、ミソ等)の製造						
成績評価	受講態度(50%) レポート(50%)						
参考文献等	参考文献: 「食品加工実習」 徳満 巖ら 共著						
備考	加工原料は収穫時期が変動するものがあるため、予定表は実習開始日に配布する。						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	444	授業科目	くらしとお茶B (Life and Tea)			担当者	福司山 エツ子 大城光高・中禮雅治
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	日本茶アドバイザー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 日本茶は、2千余年の長きにわたり人類に愛用されたコーヒー、ココアと共に世界三大嗜好飲料である。鹿児島はその生産量で全国2位である。長い歴史があるだけに食文化、茶文化を形成している。近年、お茶の持つ効能が解明されるにつれ、健康飲料として見直されつつ、日本食文化の発展と日本茶の正しい理解と普及に携わる人を育成したい。						
	2. 授業の内容 日本茶は、日本の食文化、ひいては日本文化に深く影響を与えてきた国民的飲料である。このような背景のある日本茶について、茶の歴史、茶のサイエンス・品質、茶の効能、茶の利用など茶に関する正しい知識と理解を深め、茶と食育の関係を学び新たなお茶文化を通して礼儀作法を身につける。日本茶アドバイザーの意義と概要を理解する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	日本茶の歴史、鹿児島茶の歴史					
	②	茶と食育					
	③	茶業のあらまし					
	④	茶の栽培と製造					
	⑤	茶のサイエンス					
	⑥	茶の品質検査、鑑定法					
	⑦	茶の効能・効果					
	⑧	茶の利用					
	⑨	インストラクション技術(服装、話し方、接客)					
	⑩	〃 (茶の入れ方)					
	⑪	〃					
	⑫	〃					
	⑬	日本茶インストラクターによる指導					
	⑭	まとめ					
⑮	アドバイザー試験について						
成績評価	テキストに沿った毎回小テスト						70%
	試験等総合評価						30%
参考文献等	テキスト「日本茶アドバイザー講座」日本茶インストラクター協会						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	445	授業科目	教育課程の研究 (Teaching Method)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校における体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする(学習指導要領総則1の3)。健康に関する指導を実践するために、学校の教育計画である教育課程、さらには、その基準となる学習指導要領について十分理解する。						
	2. 授業の内容 教育課程の編成、実施についての一般方式や基本的事項・各教科等の目標や内容及び指導計画の作成と内容の取り扱いなどについて、学習指導要領を中心に研究検討していく。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	教育課程と学習指導要領					
	②	教育課程の基準と法令					
	③	教育課程編成の原則及び一般方針					
	④	各教科の目標と内容の取扱い					
	⑤	授業時数及び指導計画の作成					
	⑥	道徳・特別活動・総合的な学習の時間					
	⑦	学校保健・安全に関すること					
	⑧	人権・同和教育に関すること					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(70%)、受講態度(30%)						
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省 中学校学習指導要領 文部科学省						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	446	授業科目	栄養教育実習事前事後指導 (Nutrition Education in school)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 栄養教育実習の意義・目標を理解し、教育実習生としての心得や栄養教育実習に必要な知識と技術を習得し、事後指導と併せ、学校での指導に感謝の気持ちを表し、実習を実りあるものにする。						
	2. 授業の内容 実習生としての心構えや実習にあたって必要な知識と技術について実践的な学習をし、実習後には実習の反省、問題点の整理、今後の課題を見出す。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 栄養教育実習事前オリエンテーション						
	② 栄養教育実習の流れ						
	③ 実習記録等の記録及び提出について						
	④ 学習指導案の作成(実態把握・計画・展開・評価)						
	⑤ //						
	⑥ 「食に関する指導」(個別指導・集団指導・教材作成)						
	⑦ 栄養教育実習心得						
	⑧ 栄養教育実習体験発表						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	受講態度40%、課題提出状況40%、発表20%等による総合評価						
参考文献等	<p>テキスト：「食に関する指導の手引き」文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」編著 笠原賀子 医歯薬出版</p> <p>参考文献：「食に関する指導の実際」編集代表 金田雅代 小学館 かんたん！CD-ROMですぐできるあなたの学習指導案！～かごしまの食育実践事例集～鹿児島県 小学生・中学生向け「食事バランスガイド」活用事例集 農林水産省 「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 「学習指導要領」文部科学省v 鹿児島市食育推進計画</p> <p>視聴覚機器：ビデオ</p>						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	447	授業科目	栄養教育実習 (Practice Nutrition Teacher in school)			担当者	山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1) 児童・生徒の現状を理解し、基本的な学校教育全般を理解する。 (2) 栄養教諭の職務の実際を体験し、栄養教育に関する技能を修得する。 (3) 栄養教育活動の組織・運営を学ぶ。 (4) 栄養教諭の職務や使命の多様な特性を認識し、栄養教諭の役割を把握する。 (5) 教職員としての責任ある教育活動を営みうる実践力を養う。						
	2. 授業の内容 この実習は、給食管理実習Ⅱで習得した知識・技能を基にして、栄養教諭としての専門知識と技術を練磨し、同時に教職に関する実践的・研究的能力と態度を養うために栄養教諭等が在職する協力小・中学校において行なう。 学校教育全般及び栄養教諭の専門的職務内容について、実習校で作成された計画によって実習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 学校経営・校務分掌・教員の服務等の指導講話						
	② 「食に関する指導」の年間計画の説明						
	③ 給食時間における給食放送指導、配膳、後片付け指導の参観・補助						
	④ 「食に関する指導」「学級活動」等児童生徒への教科・特別活動等における授業の参観・教材研究・実施・授業研究等						
	⑤ 「食に関する指導」の家庭・地域との連携・調整の参観、補助						
	⑥ 児童生徒への個別的(肥満・ダイエット・食物アレルギー等)な相談、指導の場の参観、補助						
成績評価	最終的な評価は、実習校の評価を中心に「栄養教育事前事後指導」(講義)の成果を含めて総合的に評価する。 実習の態度: 積極的な取り組み、謙虚な態度、責任ある行動 実習の実践: 児童生徒との触れ合い、「食に関する指導」の教材研究、教科指導、指導案等の立案作成 実習の記録: 実習日誌・その他の提出物						
参考文献等	テキスト: 「食に関する指導の手引き」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」編著 笠原賀子 医歯薬出版 参考文献: 「食に関する指導の実際」編集代表 金田雅代 小学館 かんたん! CD-ROMですぐできるあなたの学習指導案! ~かごしまの食育実践事例集~鹿児島県 小学生・中学生向け「食事バランスガイド」活用事例集 農林水産省 「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 「学習指導要領」文部科学省v 鹿児島市食育推進計画						
備考	実習参加要件 本学教職課程委員会による教育実習参加資格審査会において、資格審査に合格し教授会の審議を経て参加が認められる。(教職課程履修規程 学生便覧参照)						
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	448	授業科目	運動生理学 (Sports Physiology)			担当者	大村一光
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するかを明らかにする。学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、これらの諸器官の働き、変化をウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して解説することで理解を深められるようにする。						
	2. 授業の内容 身体のさまざまな器官、機能のうち、身体組成、呼吸、循環、筋肉、神経などについて解説する。また、諸器官、機能がどのような働きを示し、運動による影響など合わせて解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)						
	② 運動と骨格筋(収縮メカニズムと筋肉のタイプ, 運動による筋肉の適応)						
	③ 運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動の種類, その効果)						
	④ 運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動の種類, その効果)						
	⑤ 運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)						
	⑥ 運動と循環(運動による循環系への適応, スポーツ心臓)						
	⑦ 運動と神経(運動と技能の上達, 神経系の役割)						
	⑧ 運動と骨(骨粗しょう症, 運動の効果)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)						
参考文献等	テキストは使用しない(毎回、印刷資料を配布する) パワーポイントを使用 石井喜八 他:運動生理学概論、大修館						
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	449	授業科目	栄養指導実習Ⅱ (Practice of Nutrition Education Ⅱ)			担当者	児玉 敬三
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 集団への栄養指導資料作成 2. 栄養カウンセリング 3. 家族への栄養指導						
	2. 授業の内容 栄養アセスメントの技法を学ぶための身体測定、自覚症状や栄養状態の把握のためのアンケート調査など行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 集団への栄養指導資料作成:ポスター(特定集団)①						
	② 集団への栄養指導資料作成:パワーポイント(特定集団)②						
	③ 集団への栄養指導資料作成:糖尿病教室(特定集団)③						
	④ 集団への栄養指導資料作成:メタボリックシンドローム(不特定集団)①						
	⑤ 集団への栄養指導資料作成:メタボリックシンドローム(不特定集団)②						
	⑥ 個人指導(カウンセリング)①						
	⑦ 個人指導(カウンセリング)②						
	⑧ 個人指導(カウンセリング)③						
	⑨ 個人指導(カウンセリング)④						
	⑩ POSと栄養管理(POS表の作成)						
	⑪ 家族への栄養指導資料作成①						
	⑫ 家族への栄養指導資料作成②						
	⑬ 家族への栄養指導資料作成③						
	⑭ 発表①						
⑮ 発表②							
成績評価	小テスト(50%)、レポート提出(50%)により評価						
参考文献等	テキスト:「栄養教育演習・実習」(株)みらい 堀田千津子 他 編著 「食品交換表」:文光堂 日本糖尿病学会編 (参考図書):絵で見て使える 栄養指導教材集 日本医療企画 中村丁次 他 編著(5月注文)						
備考	・栄養指導・資料作成リストを作成する。(メディカローの使用料3,500円を徴収します。)						
	オフィスアワー						

科目番号	450	授業科目	調理学実習Ⅲ (Cooking PracticeⅢ)			担当者	福司山 エツ子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士免許必修 栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 常に健康増進を根底において、食物の栄養・特性を知り、それを生かす調理技術を基礎から応用へ進めながら、合理的かつ安心・安全で栄養的に望ましい食事作りが出来る力を養う。また、旬の素材や地域の特性を生かす。調理は原点であり、ライフステージに応じた食形態に応用できる力を、基礎から応用までを習得する。						
	2. 授業の内容 調理実習心得(特に段取り、下ごしらえ、フローチャート)について学習する。栄養と調理科学の基本を大切にしながら、和、洋、中国各様式を中心に、折衷料理・行事食を取り入れ、伝承可能な新しい感覚を折り込み、供応食の工夫とともに食卓の演出を体験しながら、食の総合的実践力を学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 調理学実習心得:フローチャート、エコクッキング、基本的な調理操作理論						
	② 日本料理:秋の献立と和菓子						
	③ " :行事食(伝承料理)の演習と実技						
	④ ソフト食:ゼラチンと寒天、流動食、軟菜食調理						
	⑤ 西洋料理:肉料理の基本、洋菓子の基本的技術						
	⑥ " :牛乳を用いた滲理(幼児食、高齢者食)						
	⑦ 中国料理:葷菜・大件・点心						
	⑧ " :供応食(バイキング方式)の折衷料理実習、食卓の演出						
	⑨ クリスマス料理:立食パーティーのセッティング、各種クリスマスケーキ(各班)						
	⑩ 正月料理:重詰料理						
	⑪ 鍋料理各種						
	⑫ 個人実技試験						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	出席状況(10%) 実習レポート(30%) 実技試験・筆記試験(60%)による総合評価						
参考文献等	「調理」鹿児島調理研究会 徳田・小住・福司山 「調理と理論」同文書院 山崎清子・島田ミキエ 配布資料						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	451	授業科目	食品評価・鑑別実験 (Food Evaluation and Discrimination Experiments)			担当者	吉元 誠
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 多種多様な食品が溢れているが、品質や安全性を理解するためには、科学的、物理的、生物的に評価、鑑別する技術を持って対応することが必要である。比較的簡易な鑑別法や高度な分析法によって、身近な食品の品質を評価する技術を実験によって習得する。						
	2. 授業の内容 食品の主要な成分や微量成分を物理的あるいは化学的に定量して、その食品を評価する。また、定性実験も行ない微量成分の有無を確認する。さらに食品中の特殊な成分を抽出あるいは分離して品質を鑑別する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	食品の評価・鑑別法として					
	②	①嗜好テスト(香気、呈味:酸味、甘味、辛味、苦味、旨味、テクスチャー)					
	③	②識別テスト(熟度・鮮度:品種による適正サイズ、重量、形態、色調)					
	④	③成分の化学分析(水分、色素成分、呈味成分、香気成分、水分活性、特殊成分の分離)					
	⑤	④成分間の反応(酵素的褐変、非酵素的褐変)を行う。					
	⑥						
	⑦	食品項目に関して					
	⑧	①米の鑑別(新古米の判別)		②小麦粉の湿麩、乾麩量(種類、等級)			
	⑨	③パン、麺類、パスタの品質		④野菜(天然色素およびそれらの変色)			
	⑩	⑤⑥果実(有機酸、還元糖)		⑦青果物や果汁のビタミンC			
	⑪	⑧肉、乳類(鮮度、カルシウム)		⑨調味料(塩分)			
	⑫	⑩嗜好品、海産物(糖アルコール)		⑪食品の灰分、鉄含量			
	⑬	⑫加工食品の水分活性		⑬食品のポリフェノール含量			
	⑭	⑭アミノカルボニル反応		⑮ポリフェノールの測定			
⑮							
成績評価	実習態度(50%)レポート(50%)						
参考文献等	教科書: プリント						
	参考文献 「基礎食品学実験書」中村カホルら編著 三共出版						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	452	授業科目	食料経済 (Food Economics)			担当者	田代正一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 わが国の食生活は成熟段階に達し、いまや飽食の時代とさえ言われている。このような食料消費の成熟化に伴い、農業や漁業のみならず食品産業の役割がますます大きくなっている。この講義では、食料経済に関する基礎理論について学ぶとともに、農業・漁業から食品工業や食品流通業などの食品産業を経て消費者に至るフードシステムの流れと仕組みについて理解を深める。						
	2. 授業の内容 食料の生産から消費に至るフードシステムの流れ、日本経済におけるフードシステムの役割を総論的に明らかにするとともに、食料経済の基礎理論について平易に説明する。その上でわが国における食料消費の成熟の実態、食料安全保障と食料自給率の現状、食品産業の展開や食の外部化の実態について解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 食糧経済とフードシステム						
	② 食生活の変化と食料自給率						
	③ 農産物貿易の現状						
	④ 経済成長と農業の変貌						
	⑤ 近年の食料消費の動向						
	⑥ 食料・農業・農村基本法						
	⑦ 欧米諸国の食料事情						
	⑧ 世界の食料需給と食料安全保障						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	平常点と期末試験 学期末試験の成績(60%) 筆記試験は60分で実施 受講態度(40%)						
参考文献等	テキストは特に定めない。講義中にプリントを配布する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	453	授業科目	消費経済論 (Study of Food Consumer Economy)			担当者	田代正一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 国民の食生活パターンの変化は、わが国の経済発展によってもたらされたが、同時に家庭の食生活行動様式の変化によるものでもある。加えて、食材供給における輸入の増大、食品流通における加工段階の拡大および外食産業の急展開が後押ししたものである。本講義においては、食品の流通・加工から消費に至るまでの全体構造の変化について理解を深める。						
	2. 授業の内容 わが国の経済発展の中において、国民の食生活行動が如何なる変化を遂げたかについて理解する。ついで、食品の供給と需要の間に介在する食品卸売市場・食品加工業・外食産業の担う役割について理解する。とくに近年の加工食品と外食への需要増大は著しいものがある。さらには食品を生鮮と加工に区分して、それぞれの変化の特徴を考察する。終りに食品消費の将来展望を述べる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 食生活の変化とその要因						
	② 食生活とフードマーケティング						
	③ 食料品の中間流通						
	④ 食料品の小売流通						
	⑤ 家庭内食と食品小売業						
	⑥ 外食と外食産業						
	⑦ 中食と中食産業						
	⑧ 食品消費の課題と展望						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート提出(60%) 受講態度(40%)						
参考文献等	テキスト 日本フードスペシャリスト協会編 『新版食品の消費と流通』 建帛社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	454	授業科目	フーズスペシャリスト論 (Theory on Food Specialists)			担当者	村山恵美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	フーズスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 フーズスペシャリストとは、食品の開発、流通、小売、外食の分野において、食品の品質判定、広報、食品知識の普及、販売促進、コーディネート、食育活動を目的とする消費者サイドに立った食の専門職である。この講義では、フーズスペシャリストの意義とその概要、その役割を理解することを目的とする。						
	2. 授業の内容 フーズスペシャリストの概念やその業務、活躍分野等について学習し、フーズスペシャリストとは何かを理解する。また、食品の栄養価、機能性、安全性、官能評価・鑑別法、食品流通や消費、食生活の変遷や食環境、食文化等を総合的に学び、その業務に必要な知識を習得する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	フーズスペシャリストとは					
	②	おいしさの追求					
	③	食生活の変遷と消費行動					
	④	食の消費現場と食産業					
	⑤	食品の品質規格					
	⑥	〃					
	⑦	食品の鮮度と熟度					
	⑧	食品の鑑別検査法					
	⑨	〃					
	⑩	〃					
	⑪	食物の安全性と消費者の保護					
	⑫	食の情報とその活用					
	⑬	人類と食環境					
	⑭	食料自給率と食品ロス					
⑮	認定試験過去問題解説						
成績評価	学期末試験の成績(100%) 筆記試験は60分で実施						
参考文献等	教科書：日本フーズスペシャリスト協会編「三訂フーズスペシャリスト論」建帛社 参考書：日本フーズスペシャリスト協会編「新版食品の官能評価・鑑別演習第3版」建帛社 日本フーズスペシャリスト協会編「改定食品の安全性」建帛社 日本フーズスペシャリスト協会編「フーズスペシャリスト資格認定試験過去問題集」建帛社 液晶プロジェクター、VHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	455	授業科目	フードコーディネート論 (Theory of Food Coordinates)			担当者	千葉しのぶ
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 食ることの意義を生理的・栄養的な側面と文化的・社会的側面から理解し、フードコーディネートの基本理念を把握する。現代の食をとりまく環境は、流動的に変化を続けており、そこには常に対応すべき新しい課題が生まれている。このような時代に、フードコーディネートが食生活に果している役割と価値について学ぶ。						
	2. 授業の内容 食に関する様々な場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求にそって満足できる状況を演出するべく、「フードコーディネート」の基本理念を学び、創造性豊かな感覚を身につける。科学的側面に重点を置く食の知識や技術に加えて、人の心に内在する食に対する充足感を満たすために、心理的・文化的側面についての教養や感性を磨く。						
授業計画	3. 授業計画						
	① フードコーディネートの基本理念						
	② おいしさの本質						
	③ 現代の食事文化とその課題①						
	④ 現代の食事文化とその課題②						
	⑤ 現代の食事文化とその課題③						
	⑥ テーブルウェアと食卓の演出						
	⑦ 食卓のサービスとマナー						
	⑧ 食空間のコーディネート						
	⑨ フードサービスマネジメント①						
	⑩ フードサービスマネジメント②						
	⑪ 食企画のコーディネート①						
	⑫ 食企画のコーディネート②						
	⑬ 食企画のコーディネート③						
	⑭ 食企画のコーディネート④						
⑮ まとめ							
成績評価	受講態度 50 点 試験50点						
参考文献等	テキスト 「フードコーディネート論」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 参考文献(必要に応じて紹介)プリント(適宜配布)						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	456	授業科目	フードコーディネート演習 (Practice of Food Coordinates)			担当者	千葉しのぶ
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	演習	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 フードコーディネート論の基礎知識を元に、実践現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するために必要不可欠な基礎スキルの習得を目指す。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による						
授業計画	3. 授業計画						
	① 郷土料理とフードコーディネート						
	② 鹿兒島の郷土料理のフードビジネスへの展開						
	③ 食企画の実践①						
	④ 料理教室を運営する						
	⑤ テーブルコーディネートの実践						
	⑥ 和食と洋食の TPOに応じたテーブルセッティング						
	⑦ 食企画の実践②						
	⑧ 理想のレストランをつくるとしたら						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実技 50点 受講態度50点						
参考文献等	霧島地野菜レシピ集・里山レシピ集 NPO法人霧島食育研究会						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	457	授業科目	発達心理学 (Developmental Psychology)			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	ピアヘルパー必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ひとは一生涯をかけて成長し、変化し、発達する存在である。講義を通して、人間と発達に関するさまざまな考え(観発達)を学び、人間の心理発達の理解を図る。また、人間の一生の中で起こりうる発達の課題を学び、現代社会に生きる自分自身について洞察を深める。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 序論:人間と発達						
	② 発達の原則と発達の期定因						
	③ 発達観の変遷①前成説と先決説						
	④ 発達観の変遷②遺伝説と経験説						
	⑤ 発達観の変遷③相互作用説						
	⑥ 発達段階とは						
	⑦ 発達段階とその特徴①発達の始まり～胎児期～新生児期						
	⑧ 発達段階とその特徴②乳幼児期						
	⑨ 発達段階とその特徴③児童期						
	⑩ 発達段階とその特徴④青年期						
	⑪ 発達段階とその特徴⑤成人期～老年期						
	⑫ 各側面の発達:知覚と知能・認知・思考						
	⑬ 各側面の発達:ことばとコミュニケーション						
	⑭ 各側面の発達:情緒と意思・社会性、道徳性とパーソナリティ						
⑮ 発達をつまづきと援助							
成績評価	試験						
	筆記試験は90分で実施 試験 80% 受講態度 20%						
参考文献等	テキスト: 発達心理学 無藤隆/中坪史典/西山修 編著 ミネルヴァ書房						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時					

科目番号	458	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)			担当者	宮里 新之介
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義では、カウンセリングと教育相談の理解を深め、様々な問題を抱えた児童・生徒や保護者への支援、他職種(スクールカウンセラーなど)との連携について学ぶことを目標とします。また、仮想事例を用いて、グループワークとしてチーム会議などを疑似的に体験してもらい、学習の理解を深めます。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 教育相談とは						
	② カウンセリングと教育相談						
	③ スクールカウンセラーの役割ーチームを組んでの取り組みー						
	④ 学級経営と教育相談 ① (小学校)						
	⑤ 学級経営と教育相談 ② (中学校)						
	⑥ 事例 ① (児童・生徒の逸脱・問題行動と教育相談)						
	⑦ 事例 ② (不登校、登校拒否と教育相談)						
	⑧ 事例 ③ (いじめ・いじめられ問題と教育相談)						
	⑨ 事例 ④ (非行、性的問題と教育相談)						
	⑩ 障害児教育と教育相談						
	⑪ 保護者への援助と教育相談						
	⑫ 学校における教育相談システム						
	⑬ 地域諸機関との連携						
	⑭ 教育相談と教師の研修						
⑮ 授業のまとめと質疑							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト: 広木克行(編著)「教師教育テキストシリーズ⑭ 教育相談」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	459	授業科目	道徳教育の研究 (A Study of Moral Education)			担当者	小柳 正司
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。						
	2. 授業の内容 ①学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する。 ②「道徳の時間」の役割と意義について、理解する。 ③栄養教諭の立場から見た道徳指導の課題について、理解する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 導入						
	② 小学校の道徳授業のビデオを見る。						
	③ 道徳授業の特色について、グループで話し合う。						
	④ 道徳教育がどうおこなわれているか、資料に基づき現状を知る。						
	⑤ 自分たちが受けてきた道徳教育についてグループで話し合い、道徳教育の課題を探る。						
	⑥ 学校における道徳教育の仕組みを、学習指導要領に基づいて、理解する。						
	⑦ 「道徳の時間」の意義について、実践例(ビデオ)を見ながら、グループで考察する。						
	⑧ 道徳授業の展開の特色、特に「価値の内面化」について理解する。						
	⑨ 読み物資料の読み込みと分析を試みる。						
	⑩ いのちの授業の実践をビデオで見る。						
	⑪ 生命尊重の精神を育てるための学校の取組みについて理解する。						
	⑫ 食育の課題について、ビデオを見ながらグループで話し合う。						
	⑬ 栄養教諭の職務と道徳教育との関係について、グループで話し合う。						
	⑭ 小論文作成。						
⑮							
成績評価	グループ討議などの参加・貢献度 (50%) 小論文 (50%)						
参考文献等	参考文献:『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省) ビデオ						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	460	授業科目	特別活動の研究 (To-learn-by-doing-theory)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は養護教諭免許、栄養教諭免許の必修科目である。これらの教諭にとって教科外の特別活動は非常に重要なものである。特別活動をどのように各自の教育活動の中に位置づけるかについて一定の考えを得ることを目標とする。						
	2. 授業の内容 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。本講義では、学習指導要領に常に依拠しながら、子どもの調和的な発達に特別活動がどのように関わり、どのように指導していくかを考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 特別活動とは？－その変遷、概略的内容						
	② 特別活動とは？－特別活動で望まれるもの						
	③ 小中高学校学習指導要領の比較						
	④ 学級活動について－その内容と事例研究						
	⑤ 生徒会活動について－その内容と事例研究						
	⑥ 学校行事について－具体的な学校行事とその事例研究						
	⑦ 特別活動の新しい実践課題と具体策						
	⑧ まとめ						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	461	授業科目	教職実践演習(栄養教諭) (Senior Seminar for Teacher of Nutrition)			担当者	竹原 小菊 山崎 歌織
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 入学以来履修してきた授業、学外での研修、給食管理実習、栄養教育実習等を学生が有機的に関連づけているか、また、これらを通して学生が栄養教諭として必要な資質・能力を身に付けたかを確認し、さらなる資質向上を目指す。						
	2. 授業の内容 上記の目標を達成するために、まず「履修カルテ」を用いて入学時からの学修を振り返り、学生自ら、栄養教諭としての資質の到達度を確認し、課題と目標を見出す。そして教職経験者による講義や現職栄養教諭による授業、教職に関する科目担当者の講義、学校現場等の見学・体験をもとにグループ討論を行い、教員としての使命感や責任感を自覚し、児童生徒の理解を深め、学生自身の社会性や対人関係能力を確認する。方法として、学生一人一人の前期までの学習理解度、到達度を考慮しながら演習を中心に行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 「履修カルテ」を用いた学修の振り返りの講義及びグループ討論						
	② 栄養教諭の役割や職務内容に関するグループ討論						
	③ 使命感や責任感、教育的愛情等に関する管理職経験者による講義及び事例研究						
	④ 社会性や対人関係能力についての管理職経験者による講義及びグループ討論						
	⑤						
	⑥ 地域の農業等関係者との地域連携等に関する講義及食農体験						
	⑦						
	⑧ 教科の指導力についての講義及び討論						
	⑨ 現職栄養教諭の授業(食に関する指導)の参観及び現職栄養教諭との意見交換						
	⑩ 学校現場の見学の振り返り: 児童生徒の理解の重要性や教員の責任等に関するグループ討論						
	⑪ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 1						
	⑫ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 2						
	⑬ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 3						
	⑭ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 4						
⑮ 授業の振り返り、自己点検・評価、教員としての資質に関する客観的評価							
成績評価	受講態度(30%)、提出物(30%)、討論等への参加状況(10%)、模擬授業(指導案・実践)(30%)、						
参考文献等	テキスト…「食に関する指導の手引き」文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」編著 笠原賀子 医歯薬出版						
備考							
	オフィスアワー	随時(給食管理研究室)					

目 次 (科目名50音順)

【い】	インターンシップ	26	【き】	キャリアガイダンス	27
	医療事務総論(医療秘書実務含む)	75		キャリアガイダンス	28
	医療事務演習Ⅰ	76		救急処置Ⅰ	56
	医療事務演習Ⅱ(実習指導を含む)	94		教職概論	59
	医療秘書実務実習	95		教育原理	60
【う】	WE LOVE 鹿児島!	25		救急処置Ⅱ	71
	運動生理学	82		教育心理学	72
	運動生理学	207		教育方法の研究	74
【え】	英語演習Ⅰ	29		教育制度論	85
	英語演習Ⅰ	30		教育課程の研究	86
	英語演習Ⅰ	31		教育相談	88
	英語演習Ⅱ	40		教育実習(保健)事前事後指導	91
	英語演習Ⅱ	41		教育実習(保健)	92
	英語演習Ⅱ	42		教職実践演習(養護教諭)	105
	栄養学	52		教職実践演習(中・保健)	106
	栄養指導論Ⅰ	164		基礎生化学	160
	栄養学総論	179		給食管理	165
	栄養指導論Ⅱ	183		教職概論	170
	栄養指導実習Ⅰ	196		教育原理	172
	栄養教育実習事前事後指導	205		教育心理学	187
	栄養教育実習	206		教育方法の研究	188
	栄養指導実習Ⅱ	208		給食実務演習	198
【お】	応用栄養学	180		給食管理実習Ⅰ	199
	応用栄養学実習	181		給食管理実習Ⅱ	200
【か】	韓国語演習Ⅰ	34		教育課程の研究	204
	海外事情	39		教育相談	217
	韓国語演習Ⅱ	45		教職実践演習(栄養教諭)	220
	解剖学Ⅰ	53	【く】	くらしとお茶A	169
	看護学	55		くらしとお茶B	203
	解剖学Ⅱ	66	【け】	健康相談活動	64
	解剖生理学実験	67		健康管理概論	99
	看護実習	70		ケアマネジメント	153
	環境衛生学	81		現代社会論	62
	家族関係論	95	【こ】	国際化と経済	22
	介護の基本Ⅰ	113		公衆衛生学	100
	介護の基本Ⅱ	114		コミュニケーション演習	125
	介護過程Ⅰ	117		高齢者の介護	130
	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	118		こころとからだのしくみⅠ(医学)	133
	介護技術の基礎	120		コミュニケーションの基礎	139
	介護の基本Ⅲ	124		こころとからだのしくみⅡ(精神)	156
	介護過程Ⅱ	127		公衆衛生学Ⅰ	173
	介護実習Ⅰ	128		公衆栄養学	184
	介護実習Ⅱ	129		公衆衛生学Ⅱ	189
	介護過程Ⅲ	143			
	介護総合演習Ⅲ	144			
	介護実習Ⅲ	146			
	介護の基本Ⅳ	151			
	介護過程Ⅳ	152			
	介護総合演習Ⅳ	154			
	介護実習Ⅳ	155			
	化学	168			
	解剖生理学	174			
	解剖生理学実験	191			
	学校保健	57			
	学校栄養教育論	186			

目 次 (科目名50音順)

【し】	心理学	20	【と】	特別活動の研究	103
	社会学	21		特別活動の研究	219
	食生活論	50		ドイツ語演習Ⅰ	32
	疾病学	80		ドイツ語演習Ⅱ	43
	疾患看護学	101		道德教育の研究	102
	障害の理解Ⅰ	132		道德教育の研究	218
	障害の理解Ⅱ	148	【に】	日本語表現の基礎	16
	食品学総論	161		日本国憲法	23
	食品学実験	162		人間と環境	38
	食品衛生学	163		人間の尊厳と自立	122
	食品学各論	176		認知症の理解	131
	食品加工学	177		認知症者の介護	147
	食品衛生学実験	178		人間関係とコミュニケーション	150
	社会福祉概論	190	【は】	発達心理学	73
	食事環境の設計	197		発達と老化の理解	119
	食品加工学実習	202		発達心理学	216
	食品評価・鑑別実験	210	【ひ】	秘書実務	63
	食料経済	211		病理学	65
	消費経済論	212		微生物学	68
	住生活論	51		病態生化学	175
	情報機器演習	61	【ふ】	フードスペシャリスト論	213
	情報処理演習	78		フードコーディネータ論	214
	住環境学	97		フードコーディネータ演習	215
	人類学	98		文学	18
	情報処理Ⅰ	135		文学	19
	住環境と福祉	136		分子からみた生物	37
	事例研究(ゼミナール)	145	【ほ】	保健科教育法	87
	情報機器演習	171	【や】	薬理概論	69
	社会福祉	77		養護概説	58
	社会福祉概論	111		養護実習事前事後指導	89
	社会保障制度	123		養護実習	90
	社会福祉援助技術	137	【り】	倫理学	17
【す】	数学基礎	35		理科基礎	36
【せ】	生理学	54		臨床看護実習	83
	精神保健	79		臨床看護実習指導	84
	生徒指導	104		リハビリテーション論	138
	生活支援技術A	115		臨床栄養学総論	182
	生活支援技術(住)	116		臨床栄養学各論	193
	生活支援技術B	126		臨床栄養学実習Ⅰ	194
	生活支援技術C	140		臨床栄養学実習Ⅱ	195
	生活支援技術D(住環境含む)	141	【れ】	歴史学	24
	生活支援技術(食・衣)	142		レクリエーション概論	112
	生化学実験	192		レクリエーション活動援助法Ⅰ	121
【た】	体育講義	46		レクリエーション活動援助法Ⅱ	134
	体育講義	47		レクリエーションワーク	149
	体育実技	48	【ろ】	労働基準法	107
	体育実技	49		労働安全衛生法	108
	ターミナルケア	157			
【ち】	中国語演習Ⅰ	33			
	中国語演習Ⅱ	44			
	調理実習	96			
	聴覚障害者の生活支援	158			
	調理学	166			
	調理学実習Ⅰ	167			
	調理学実験・実習	185			
	調理学実習Ⅱ	201			
	調理学実習Ⅲ	209			